

長崎県文化財調査報告書 第210集

一般国道497号伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

IV

今 福 遺 跡 Ⅱ

2 0 1 5

長 崎 県 教 育 委 員 会

長崎県文化財調査報告書 第210集

一般国道497号伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

IV

今 福 遺 跡 Ⅱ

序

本書は、一般国道497号（西九州自動車道）伊万里松浦道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の通巻第Ⅳ分冊として、平成25年度に実施した今福遺跡の発掘調査成果を収録したものです。

長崎県教育委員会は、西九州自動車道建設事業につきまして、建設計画当初から可能な限り保存に努めるべく、埋蔵文化財の取り扱いについて国土交通省と協議し、記録保存してまいりました。埋蔵文化財は、数百年、数千年の間、自然や人間による損失を辛うじて逃れ、奇跡的に現代に伝わったものです。私たちは、埋蔵文化財により文献資料だけでは知ることのできない、貴重な祖先の生活の一部を垣間見ることができます。特に本県が所在する西北九州は、地理だけでなく歴史的にも政治・社会の中心地からみて周縁部にあたるために文献資料が限られており、地域の歴史を解明するためには埋蔵文化財の発掘調査結果に拠るところが大変大きいものとなります。今を生きる私たちは、このように貴重な埋蔵文化財を大切に護り、後世に伝える義務があるのです。

しかし一方で、現代社会は多様化を深め、県民の皆様の様々な要望にお答えするため、開発によるサービスのこれまで以上の整備・拡充も必要になっており、埋蔵文化財の保護と開発の両立が求められています。文化財保護の名の下に、現代の生活における利便性や安全性が損なわれてはなりません。開発に伴っては、必要な発掘調査を実施し、埋蔵文化財をしっかりと記録保存し、その成果を発掘調査報告書により公にすることで、皆様と後世に伝えることが重要になっております。

今回の今福遺跡の発掘調査成果が、文化財保護や地域の歴史資料、学術的資料として活用され、県民の皆様の関心に少しでも応えることが出来ればと考えております。また、本書の刊行にあたり、地元松浦市今福町の皆様、発掘調査に従事くださった方々をはじめ、多大なご尽力をいただきました関係者各位に対し、衷心から厚く御礼申し上げます。

平成27年1月

長崎県教育委員会教育長
池 松 誠 二

例 言

- I 本書は、一般国道497号伊万里松浦道路（西九州自動車道）建設工事に伴う、埋蔵文化財発掘調査報告書である。調査は、国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所の依頼を受け、長崎県教育委員会が平成20年度から平成25年度までの計画で実施した。
- II 当該工事に伴い、埋蔵文化財発掘調査を実施した遺跡は、八幡山城跡、中ノ瀬遺跡、今福遺跡、である。本書は、そのうち今福遺跡の最終年度である平成25年度の調査（一部平成22・23年度調査分含む）について収録する。
- III 今福遺跡発掘調査と本書の内容は、下記のとおりである。
- 1 今福遺跡は、長崎県松浦市今福町に所在する。
 - 2 調査は長崎県教育委員会を主体として、長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所が担当したが、一部の業務は民間の調査組織（今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体）に委託し、協力して実施した。
 - 3 一部を除き、本書で使用した遺物の実測及び遺物と遺構の製図は、杉原敦史、文化財調査員（嘱託職員：米倉加奈絵、久田ひとみ、久保瞳、加世田尊）、内業整理作業員（臨時職員：畑原佐智子、中村直美、吉野貴子）が行った。石器実測の一部は、株式会社大信技術開発に委託した。
 - 4 本書に収録した遺物は松浦市教育委員会が、図面・写真は長崎県教育庁長崎県埋蔵文化財センターで保管している。
 - 5 本書の写真は、米倉加奈絵、久田ひとみ、久保瞳、杉原敦史、加世田尊が撮影した。
 - 6 本書の執筆は、杉原敦史、米倉加奈絵、久田ひとみ、久保瞳、加世田尊が分担して担当し、執筆者は、本文目次に記した。
 - 7 本書の編集は、各執筆者が担当し、杉原敦史が総編集を行った。
 - 8 本書では、旧河道は近世以前において生活の場の一部であったため、遺構の項に記載した。
 - 9 貿易陶磁器の分類は、太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡XV』－陶磁器分類編－2000の分類名称に準拠した。
 - 10 本書で用いた土層及び色調観察は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。
 - 11 本書で用いた方位は真北であり、国土座標は世界測地形による。
 - 12 自然科学分析は株式会社古環境研究所に依頼した。また、遺物の保存処理は株式会社東都文化財研究所に依頼した。
 - 13 発掘調査と発掘調査報告書作成にあたり、松浦市今福町住民の皆様、発掘調査委託業者調査担当者、外業発掘作業員、内業整理作業員などの皆様に協力・指導・助言をいただいた。特にお世話になった方々の尊名を記して謝意を表したい（順不同）。
- 伊藤敬太郎氏（国際文化財株式会社）、土岐耕司氏（同左）、長林大氏（同左）、
渡部裕司氏（国際文化財株式会社）、辻康二氏（同左）、大谷伸宏氏（株式会社大信技術開発）、
東貴之氏（株式会社大信技術開発）、森恵氏（同左）、末吉正治氏（株式会社スエヨシ）、
松尾秀昭氏（佐世保市教育委員会）、久原昌利氏（松浦市都市計画課）、宮本吉次郎氏（今福町）

本文目次 ※ () 内は執筆者

I	発掘調査の端緒と経緯	1
1	西九州自動車道の概要と長崎県内の工事区間 (杉原)	1
2	発掘調査の経緯 (杉原)	1
3	今福遺跡緊急発掘調査及び報告書作成の体制について (杉原)	3
II	遺跡の立地と環境	4
1	地理的環境 (杉原)	4
2	歴史的環境 (杉原)	5
III	調査の概要 (杉原)	7
IV	遺構・遺物	14
1	各遺物包含層と旧河道跡について (杉原)	14
2	遺物包含層	15
(1)	④区Ⅲ層出土遺物 (加世田)	15
(2)	④区Ⅳ層出土遺物 (加世田)	15
(3)	⑤区Ⅲ層出土遺物 (加世田)	15
(4)	⑥区Ⅲ層出土遺物 (加世田)	22
(5)	⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物	29
①	Ⅰ層出土遺物 (久保)	29
②	Ⅱ層出土遺物 (久保)	29
(6)	⑦区Ⅲ層出土遺物 (久田)	36
(7)	⑦区Ⅳ層出土遺物 (米倉)	39
3	旧河道跡	69
(1)	SR-31出土遺物	69
①	1層出土遺物 (久保)	69
②	2層出土遺物 (久保)	69
(2)	SR-32出土遺物	69
①	1層出土遺物 (久田)	69
②	2・3層出土遺物 (米倉)	86
V	まとめ (杉原)	92
VI	図版	94
VII	附編 放射性炭素年代測定結果 (株式会社古環境研究所)	115

挿 図 目 次 (1)

第1図	西九州自動車道進捗状況	1	第14図	④区Ⅲ層出土遺物(1)	16
第2図	伊万里松浦道路関係発掘調査遺跡位置図	2	第15図	④区Ⅲ層出土遺物(2)	17
第3図	今福遺跡位置図	4	第16図	④区Ⅳ層出土遺物(1)	19
第4図	今福町内遺跡位置図	6	第17図	④区Ⅳ層出土遺物(2)	20
第5図	今福遺跡発掘調査調査区及びグリッド配置図	8	第18図	④区Ⅳ層出土遺物(3)	21
第6図	⑦区土層・SR-31・SR-32位置図	8	第19図	④区Ⅳ層出土遺物(4)	22
第7図	⑦区A-B間・B-C間・C-D間土層断面図	9	第20図	⑤区Ⅲ層出土遺物	23
第8図	⑦区D-E間土層断面図	10	第21図	⑥区Ⅲ層出土遺物(1)	24
第9図	⑦区F-G間土層断面図	11	第22図	⑥区Ⅲ層出土遺物(2)	25
第10図	SR-31・SR-32平面図	12	第23図	⑥区Ⅲ層出土遺物(3)	26
第11図	SR-31・SR-32土層断面図	12	第24図	⑥区Ⅲ層出土遺物(4)	27
第12図	⑧区土層位置図	13	第25図	⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物(1)	30
第13図	⑧区H-I間・J-K間土層断面図	13	第26図	⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物(2)	31

挿 図 目 次 (2)

第27図 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物(3) ……………	32	第47図 ⑦区Ⅳ層出土石器(12) ……………	59
第28図 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物(4) ……………	33	第48図 ⑦区Ⅳ層出土石器(13) ……………	60
第29図 ⑦区Ⅲ層出土遺物(1) ……………	37	第49図 ⑦区Ⅳ層出土石器(14) ……………	61
第30図 ⑦区Ⅲ層出土遺物(2) ……………	38	第50図 ⑦区Ⅳ層出土石器(15) ……………	62
第31図 ⑦区Ⅳ層出土土器(1) ……………	41	第51図 ⑦区Ⅳ層出土石器(16) ……………	63
第32図 ⑦区Ⅳ層出土土器(2) ……………	42	第52図 ⑦区Ⅳ層出土石器(17) ……………	64
第33図 ⑦区Ⅳ層出土土器(3) ……………	43	第53図 SR-31 Ⅰ・Ⅱ層出土遺物 ……………	70
第34図 ⑦区Ⅳ層出土土器(4) ……………	44	第54図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(1) ……………	72
第35図 ⑦区Ⅳ層出土土器(5) ……………	45	第55図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(2) ……………	73
第36図 ⑦区Ⅳ層出土石器(1) ……………	48	第56図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(3) ……………	74
第37図 ⑦区Ⅳ層出土石器(2) ……………	49	第57図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(4) ……………	75
第38図 ⑦区Ⅳ層出土石器(3) ……………	50	第58図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(5) ……………	77
第39図 ⑦区Ⅳ層出土石器(4) ……………	51	第59図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(6) ……………	78
第40図 ⑦区Ⅳ層出土石器(5) ……………	52	第60図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(7) ……………	80
第41図 ⑦区Ⅳ層出土石器(6) ……………	53	第61図 SR-32 Ⅰ層出土遺物(8) ……………	81
第42図 ⑦区Ⅳ層出土石器(7) ……………	54	第62図 SR-32 Ⅱ層出土遺物 ……………	87
第43図 ⑦区Ⅳ層出土石器(8) ……………	55	第63図 SR-32 Ⅲ層出土遺物(1) ……………	88
第44図 ⑦区Ⅳ層出土石器(9) ……………	56	第64図 SR-32 Ⅲ層出土遺物(2)・⑥区Ⅱ層出土遺物 ……………	89
第45図 ⑦区Ⅳ層出土石器(10) ……………	57	第65図 暦年較正結果① ……………	116
第46図 ⑦区Ⅳ層出土石器(11) ……………	58	第66図 暦年較正結果② ……………	117

表 目 次

第1表 西九州自動車道伊万里松浦道路関係発掘調査一覧 ……	2	第13表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(石器)(1) ……………	65
第2表 今福遺跡発掘調査概略 ……………	7	第14表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(石器)(2) ……………	66
第3表 ④区Ⅲ層遺物観察表 ……………	18	第15表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(石器)(3) ……………	67
第4表 ④区Ⅳ層遺物観察表 ……………	23	第16表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(石器)(4) ……………	68
第5表 ⑤区Ⅲ層遺物観察表 ……………	23	第17表 SR-31 Ⅰ・Ⅱ層遺物観察表 ……………	71
第6表 ⑥区Ⅲ層遺物観察表(1) ……………	27	第18表 SR-32 Ⅰ層遺物観察表(1) ……………	82
第7表 ⑥区Ⅲ層遺物観察表(2) ……………	28	第19表 SR-32 Ⅰ層遺物観察表(2) ……………	83
第8表 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層遺物観察表(1) ……………	34	第20表 SR-32 Ⅰ層遺物観察表(3) ……………	84
第9表 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層遺物観察表(2) ……………	35	第21表 SR-32 Ⅰ層遺物観察表(4) ……………	85
第10表 ⑦区Ⅲ層遺物観察表 ……………	39	第22表 SR-32 Ⅱ・Ⅲ層遺物観察表 ……………	91
第11表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(土器)(1) ……………	46	第23表 貿易陶磁器出土状況比較 ……………	93
第12表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(土器)(2) ……………	47		

図 版 目 次

図版1 平成25年度発掘調査地区及び今福港遠景 ……………	94	図版12 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物 ……………	105
図版2 調査風景 ……………	95	図版13 ⑦区Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ層出土遺物 ……………	106
図版3 調査区土層 ……………	96	図版14 ⑦区Ⅲ・Ⅳ層出土遺物 ……………	107
図版4 旧河道跡完掘状況・横断土層 ……………	97	図版15 ⑦区Ⅳ層出土遺物(1) ……………	108
図版5 遺物出土状況(1) ……………	98	図版16 ⑦区Ⅳ層出土遺物(2) ……………	109
図版6 遺物出土状況(2) ……………	99	図版17 ⑦区Ⅳ層・SR-31出土遺物 ……………	110
図版7 ④区Ⅲ層出土遺物 ……………	100	図版18 SR-31・32出土遺物 ……………	111
図版8 ④区Ⅲ・Ⅳ層出土遺物 ……………	101	図版19 SR-32出土遺物(1) ……………	112
図版9 ④区Ⅳ層・⑤区Ⅲ層出土遺物 ……………	102	図版20 SR-32出土遺物(2) ……………	113
図版10 ⑥区Ⅲ層出土遺物(1) ……………	103	図版21 SR-32・⑥区Ⅱ層出土遺物 ……………	114
図版11 ⑥区Ⅲ層出土遺物(2) ……………	104		

I 発掘調査の端緒と経緯

1 西九州自動車道の概要と長崎県内の工事区間(第1図)

昭和62年6月30日旧建設省は、道路審議会答申に基づき、14,000km高規格道路網計画を決定した。この高規格道路網の一環として、九州西北部の地域経済の活性化、高速定時制の確保に大きく寄与するため、西九州自動車道は計画された。福岡市を起点に、唐津市、伊万里市、佐世保市を經由し武雄市に至る約150km一般国道の自動車専用道路である。

長崎県は、高規格道路をはじめ幹線道路網の整備を、県民の豊かな暮らしを支える重要な課題とし、県内主要都市を2時間程度で結ぶ道路ネットワーク構想を定め、景観や自然との調和を図りながら整備を推進している。西九州自動車道の県内路線は、4区間に分けられる。「佐世保道路」(佐世保みなとIC～相浦中里IC区間約7.9km)と、「佐々佐世保道路」(相浦中里IC～佐々IC区間約4km)の2区間は既に供用を開始している。「伊万里松浦道路」(佐賀県伊万里市～長崎県松浦市間約17km)は着工区間で竣工間近であり、「松浦佐々道路」(松浦市～北松浦郡佐々町間約19km)は国土交通省が着工に向けて測量を実施中である。

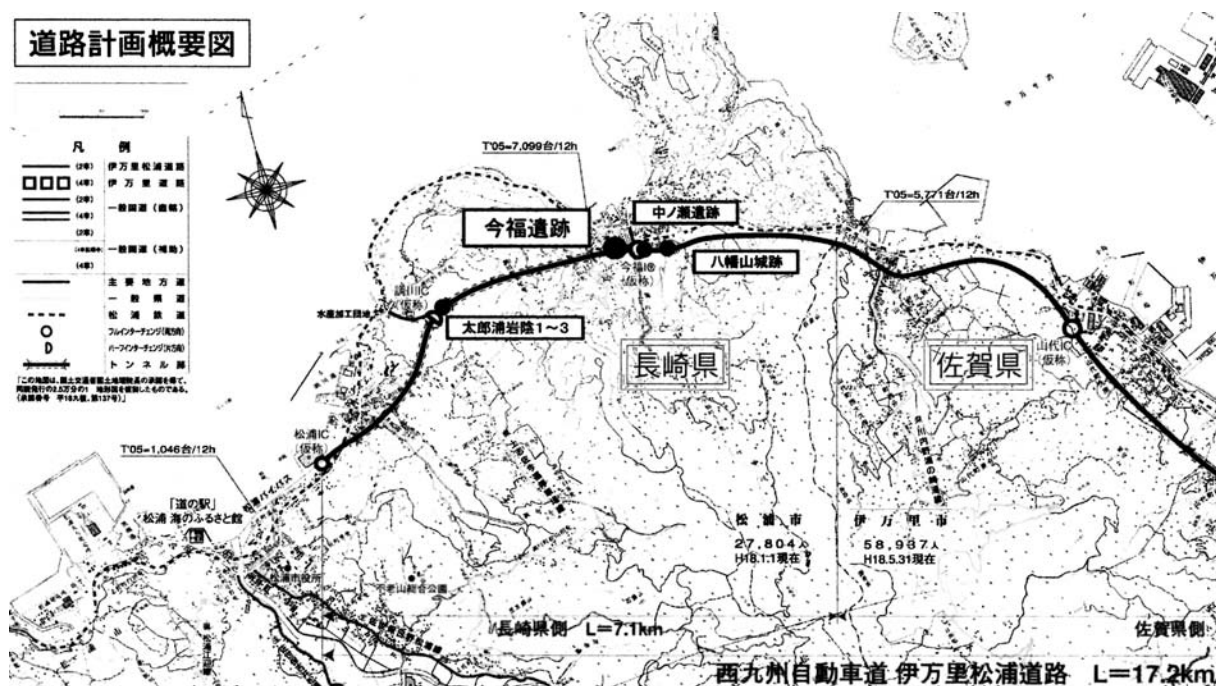


2 発掘調査の経緯(第2図・第1表)

発掘調査は、国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所長と長崎県知事との委託事業契約により、長崎県教育庁佐世保文化財調査事務所が担当して実施した。「佐世保道路」と「佐々佐世保道路」の関わる調査は既に完了し、発掘調査報告書も既刊である。

「伊万里松浦道路」関係では、平成17・18年度に工事計画区域内の分布調査を実施し、八幡山城跡

を発見し、中ノ瀬遺跡、今福遺跡の範囲拡大等を確認した。予定した調査面積約48,000㎡内、八幡山城跡、中ノ瀬遺跡の調査は完了し、発掘調査報告書も刊行済みである。今福遺跡の調査は、平成21年度から継続して実施し、平成24年度までに終了する予定であったが、平成24年度には用地買得等の都合により調査を行うことができなかったため、平成25年度の調査をもって終了した。なお、太郎浦岩陰については、過去に遺物が採取されていることや立地環境等から遺跡と考えられたが、試掘・確認



第2図 西九州自動車道伊万里松浦道路関係発掘調査遺跡位置図(国土交通省作成資料に加筆)

遺跡名	調査区分	調査面積	調査期間	発掘調査報告書
八幡山城跡	範囲確認調査	72㎡	平成20年 5月19日～平成20年 6月20日	平成22年度刊行
	緊急発掘調査	8,257㎡	平成21年 6月19日～平成22年 3月15日	
中ノ瀬遺跡	範囲確認調査	70㎡	平成20年11月17日～平成20年11月28日	平成23年度刊行
	緊急発掘調査	4,800㎡	平成20年11月18日～平成21年 3月18日	
	緊急発掘調査	12,759㎡	平成21年 6月12日～平成22年 3月16日	
今福遺跡	範囲確認調査	276㎡	平成21年 5月11日～平成21年 6月 4日	平成24年度刊行
	緊急発掘調査	1,800㎡	平成21年10月16日～平成22年 3月16日	
	緊急発掘調査	10,300㎡	平成22年 5月18日～平成23年 3月16日	
	緊急発掘調査	6,600㎡	平成23年 6月15日～平成24年 2月20日	
	緊急発掘調査	2,700㎡	平成25年 8月 1日～平成25年12月 2日	平成26年度刊行
太郎浦岩陰	試掘確認調査	81㎡	平成24年 2月13日～平成24年 3月 1日	刊行せず
	緊急発掘調査	0㎡	実施せず	

第1表 西九州自動車道伊万里松浦道路関係発掘調査一覧

調査の結果、少なくとも現在は遺跡たり得ず、緊急発掘調査実施・発掘調査報告書作成の必要はないと判断した。炭坑等に伴い人為的に破壊された可能性が考えられる。

3 今福遺跡緊急発掘調査及び報告書作成の体制について

平成21年度～23年度の調査及び発掘調査報告書作成の体制については、平成25年3月発行の発掘調査報告書『今福遺跡』（長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第8集）を参照して頂きたい。

平成25年度の緊急発掘調査は、長崎県教育委員会を主体として、下記の調査体制により佐世保文化財調査事務所が担当した。現場を担当したのは、杉原以下である。また、「一般国道497号西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査委託業務」として、民間の調査組織（今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体）に一部業務を委託し、協力して実施した。委託業務の内容は、発掘調査作業員の雇用・安全対策等、遺構実測、空中写真撮影、重機掘削・排土運搬、仮設市道・水路設置等である。

発掘調査報告書の作成は、新幹線文化財調査事務所下本山現場事務所員を中心に実施したが、発掘調査が無くなったことによる職員数削減のため、「埋蔵文化財発掘調査遺跡出土遺物実測業務委託」として、一部の業務（一部石器の実測・トレース作業）を民間に委託した。

○平成25年度今福遺跡緊急発掘調査体制

長崎県教育庁 佐世保文化財調査事務所

所長：古門 雅高

課長：荻野 雅寛 杉原 敦史

文化財調査員（嘱託職員）：吉住 紘雄 米倉加奈絵

○平成25年度「一般国道497号西九州自動車道埋蔵文化財発掘調査委託業務」

今福遺跡特定埋蔵文化財発掘調査共同企業体

国際文化財株式会社・株式会社大信技術開発

現場代理人：鬼頭泰夫（国際文化財株式会社）のち木村直司（国際文化財株式会社）

担当調査員：長林大（国際文化財株式会社） 渡部裕司（国際文化財株式会社）

大谷伸宏（株式会社大信技術開発） 森恵（株式会社大信技術開発）

○平成26年度今福遺跡発掘調査報告書作成体制

長崎県教育庁 新幹線文化財調査事務所 下本山現場事務所

所長：古門 雅高

課長：田尻 清秀 杉原 敦史

文化財調査員（嘱託職員）：久保 瞳 久田ひとみ 米倉加奈絵 加世田 尊

内業整理作業員（臨時職員）：畑原佐智子 中村 直美 吉野 貴子

○埋蔵文化財発掘調査遺跡出土遺物実測業務委託

株式会社大信技術開発

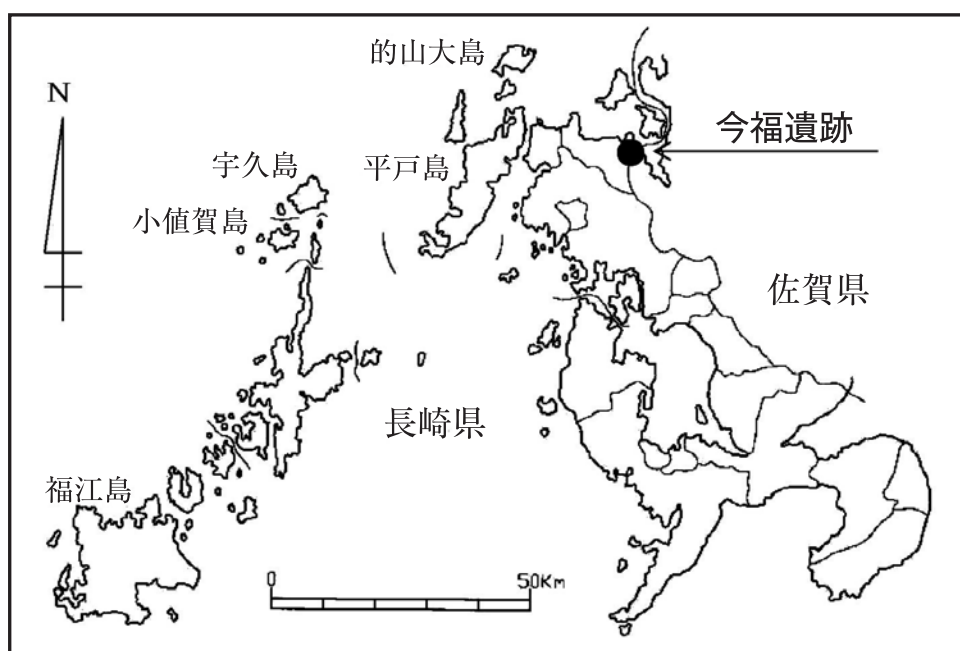
II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境 (第3図)

松浦市今福町は、広義の伊万里湾の中央、北松浦半島の北東部に位置する。東は佐賀県伊万里市と接し、北は今福湾を隔てて鷹島、北東に福島を望む。今福川が町の中央を南から北に流れ、西岸は町西部の山麓を切り、急傾斜を生んでいる。今福湾は北西に突出した半島部により冬の北西風とこれに伴う荒波による浸食を免れて、西は潟をなし、東は砂岩盤が浸食され堆積して砂浜となる。

地質は、炭層を含む砂岩・泥岩が堆積した新生代第三紀層を基盤とし、玄武岩層がこれを貫き、その上部に堆積して溶岩台地を形成している。新生代第三紀層と玄武岩層の間には砂礫層が挟まり、豊富な湧水を生み出す一方、脆弱な地盤となり地滑りを多発させる。昭和28年には東の石倉岳、西の雇尾の大地滑りにより道路・鉄道ともに閉塞されて陸上交通が遮断されたため、今福町は一時海上交通によって命脈を保つ事態が生じた。

今福遺跡は、今福町仏坂免・浦免に所在する。東は中ノ瀬の低丘陵、南は国見岳、西は雇尾の稜線と三方を囲まれ凹字形の地勢をなし、唯一北の今福湾にのみ開口している。東縁を今福川が流れ、西端の山際に玉川(小川川)が流れる。各河川とも地勢により流路は短い。このため、短時間でもまとまった雨量があると、すぐに降水が播り鉢の底のような狭い平地に殺到して、用排水路などは水を捌けきれずに溢れ出し、河川は激流と化す。近年まで今福川は度々氾濫を起こしている。今福遺跡の東西土層断面は鱗状堆積を呈するが、往古より繰り返されてきた今福川とその支流の氾濫による河道の変遷・埋没を物語っている。遺跡一帯は長らく今福川旧河道とその支流の氾濫原であったと考えられる。現在の海岸線は、近世以降の開発等により離れているが、それ以前は遺跡の近くにあり、中ノ瀬や八幡山の丘陵は先端が海に突出していたと思われる。



第3図 今福遺跡位置図

2 歴史的環境 (第4図)

今福遺跡の周辺では、金ヶ崎半島に満場遺跡、北平遺跡、城山山麓遺跡、今福東部に山川遺跡、西部丘陵上(調川町)には柳池遺跡、雨久保遺跡など、旧石器時代～縄文時代の遺跡が展開し、古い時代からの当該地域における人々の活動が窺える。

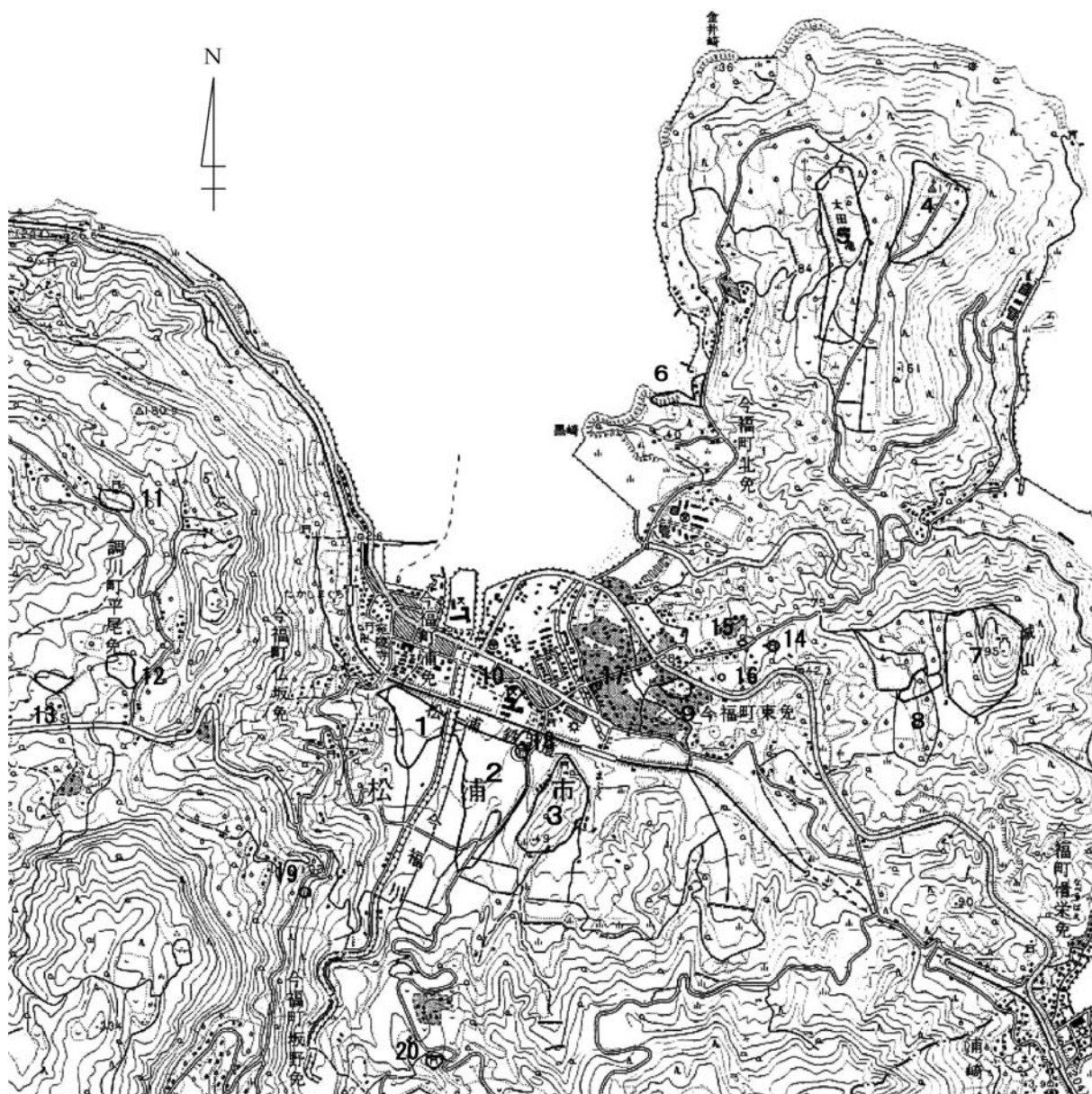
今福遺跡の縄文時代については、縄文時代後～晩期を主体とする遺物包含層を3箇所を確認した。各所とも各種石器と共に石核や剥片・チップが出土し、石器製作場跡と考えられる。これらの包含層からは、多くの鈴桶型石刃が出土した。また、鈴桶型石刃を素材とする彫器、剥片鏃、つまみ形石器も確認した。彫器は30点余り出土し、ほとんどが鈴桶型石刃を素材とする特異な状況を示している。縄文時代後期の彫器の出土量としては異例であり、鈴桶型石刃を素材利用した石器製作のバリエーションを広げるものである。それ以外の出土した石器の器種には地区により違いが見られるため、製作する石器の器種により場を使い分けたと考えられる。

弥生時代の当該遺跡周辺は、所謂『魏志倭人伝』に登場する「末盧国」の一部と考えられる。弥生時代の今福遺跡出土遺物は、弥生時代前期～中期前葉と弥生時代後期後半を主体とする。隣接する中ノ瀬遺跡の遺物は弥生時代中期前半～弥生時代後期前半のもので、今福遺跡の欠落した時期を中ノ瀬遺跡が補完している。中ノ瀬遺跡の遺構は今福神社裏の東部低丘陵に集中するが、冬場の強い北西風が真正面に当たり生活環境として適さず現在人家はない。今福遺跡出土遺物の供給源と考えられる遺跡の西側山麓は、山が北西風の障壁となり生活環境として適している。そのため当該地域における人々の生活の場は当初的、基本的にこの地区で営まれたと考えられる。但し、当該地域は地滑り地帯で度々大災害に見舞われており、この地区も地滑りのリスクが伴う。時代は不明だが現在も山肌に所々大きな痕跡が残る。弥生時代中期前葉に地滑りが起こり、やむを得ず弥生時代後期前半まで中ノ瀬の丘陵に生活の場を移し、再び今福遺跡周辺に戻った可能性が考えられる。中ノ瀬の丘陵ではその後古代末まで、ほとんど人の活動は感じられない。

古墳時代～古代のものでは、多くの旧河道跡から4世紀後半～11世紀の土師器・須恵器・黒色土器、が出土した。これらの多くは、須恵器が壺、甗、土師器が高坏、壺、鉢、埴などであった。今福川の荒御魂を鎮める祭祀等に使用されたと推測される。また須恵器などの器種・質などから、この時期相当な力を持った勢力の存在が窺える。古代～中世にかけて西北九州には皇室への贄貢進所である「宇野御厨」が存在したが、地理的にみて当該地域はその中心に位置するため、御厨の実権を握っていた勢力と考えられる。

古代末～中世に関しては、10世紀～13世紀前半の白磁、越州窯系青磁、龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、高麗陶磁などの貿易陶磁器が出土した。越州窯系青磁が多いのが特徴である。貿易陶磁器の出土量は12世紀後半以降急減する。隣接する中ノ瀬遺跡でも、白磁・龍泉窯系青磁、同安窯系青磁、高麗・朝鮮系陶磁器などが出土したが、同遺跡の場合は丘陵部に11世紀末から現れて12世紀後半～13世紀前半をピークに13世紀後半以降減少する。また滑石製石鍋は今福遺跡では11世紀の縦耳型だけ出土し、中ノ瀬遺跡では12世紀後半以降の鏝付型を主とする。12～13世紀の西北九州では12世紀後半以降宗家松浦氏が台頭、13世紀に入り平戸松浦氏も本拠地を小値賀島から平戸島に移してしだいに勢力を拡大していったと考えられる。これらの遺物出土状況は、10世紀には今福遺跡西側山麓に古墳時代以来の在地勢力が支配する公的な港湾・官衙施設が存在して中国との交易も行われたが、12世紀後半それに

替わる新たな交易拠点が宗家松浦氏により中ノ瀬の丘陵部に成立したことを示し、当該地域における古代から中世への転換を具象していると考えられる。13世紀後半以降になると、平戸松浦氏の台頭により中国との交易は衰退したのであろう。一方、中ノ瀬遺跡では15世紀後半～16世紀前半を中心とした高麗・朝鮮系陶磁器147点が出土し、これまで県本土部で最多出土した楼厩田遺跡の64点を遙かに凌ぐ。15世紀後半宗家松浦氏松浦盛は本拠を現佐世保市相浦地域に移す一方、「受図書人」として盛んに朝鮮と交易した記録が残るが、その一端を示すものである。対中交易の衰退に対し、朝鮮との交易に活路を見出したものと考えられる。



- | | | | | | |
|---------------|--------------|-------------|-------------|---------|----------|
| 1 今福遺跡 | 2 中ノ瀬遺跡 | 3 八幡山城跡 | 4 北平遺跡 | 5 満場遺跡 | 6 ぎぎが浜遺跡 |
| 7 梶谷城跡 | 8 城山山麓遺跡 | 9 山川遺跡 | 10 今福小学校遺跡 | 11 大塔遺跡 | 12 柳池遺跡 |
| 13 雨久保遺跡 | 14 若宮神社 | 15 松浦丹後守勝の墓 | 16 松浦丹後守盛の墓 | | |
| 17 文禄の役松浦家供養塔 | 18 今福神社(歳の宮) | 19 旧宛陵寺跡 | 20 今宮神社 | | |

第4図 今福町内遺跡位置図(S=1/25,000)

Ⅲ 調査の概要 (第5・13図、第2表)

調査は、第5図の如く、座標系に合わせて南北を主軸とする100m方眼の大グリッドを調査区に設定して実施した。東西を1～4、南北をA～Cと符号した。大グリッド内は20m方眼で区画して中グリッドを設定、1～25の番号を付した。中グリッド内は10m方眼で小グリッドを設け、ア～エと符号した。

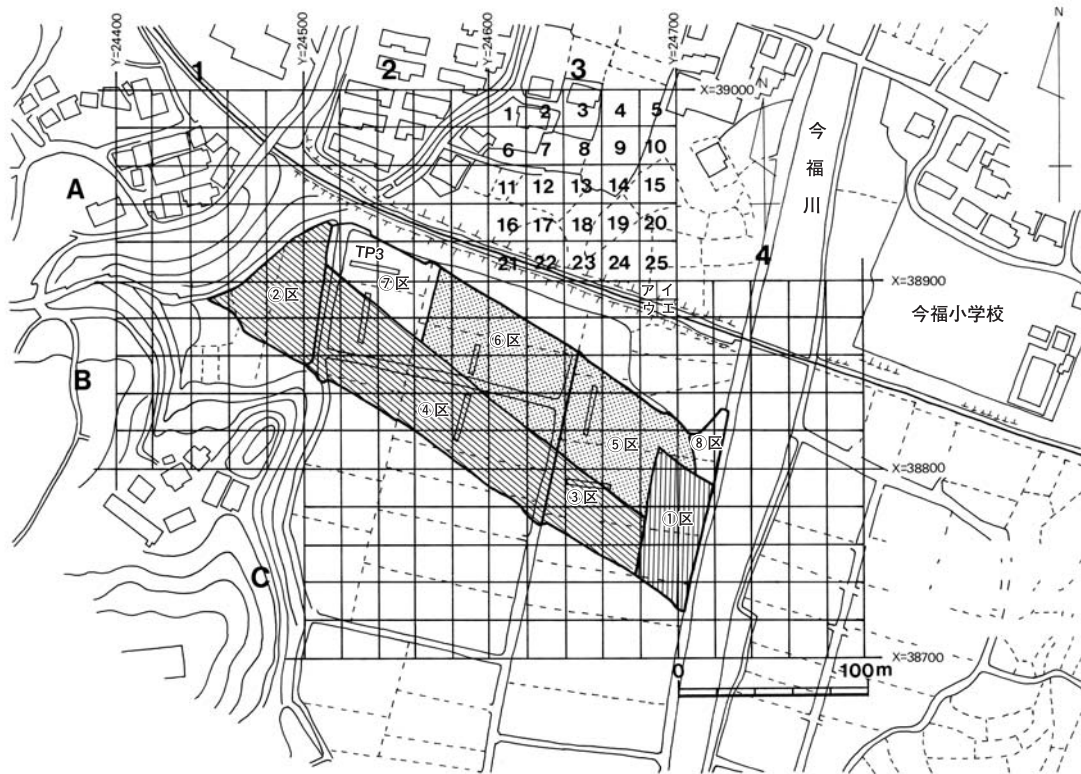
また調査の便宜上、①～⑧区に地区分けした。現圃場の耕作土と整地客土層、旧河道跡内堆積礫層は重機で掘削した。平成25年度の今福遺跡発掘調査は、⑦区2,400㎡と⑧区300㎡、計2,700㎡ある。

なお⑧区は、現圃場に伴う耕作土・耕作土下層土・水田基盤層の3層からなり、それ以下は、直近地区の平成21・23年度の調査結果から、5mほど下の砂岩盤まで礫層が続くと考えられ、さらに東隣に今福川や用水路があるので保全のため、また調査区の狭さもあり、礫層の重機掘削は実施できなかった。遺構はなく近現代の遺物が出土した。

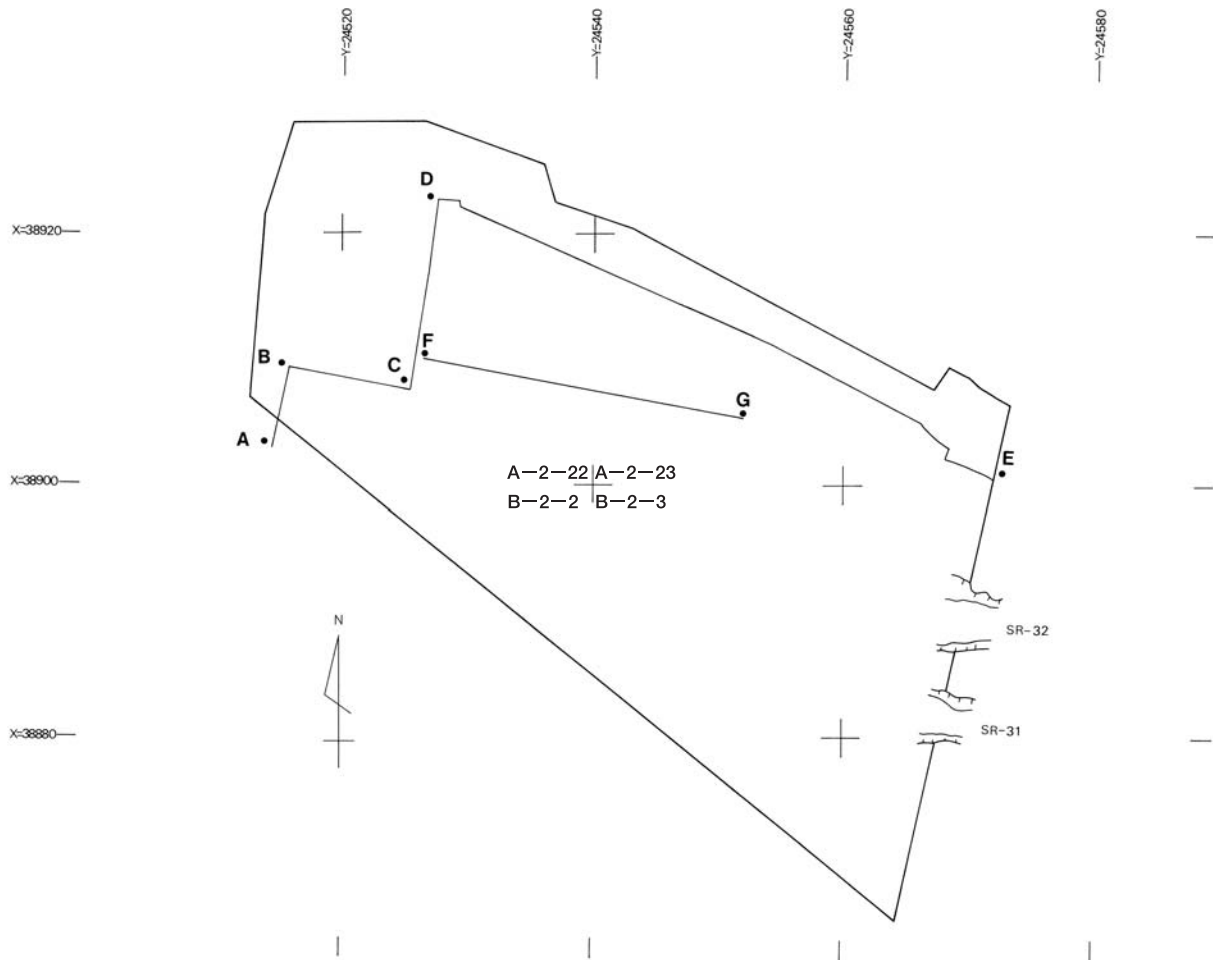
このような状況のため、本報告書の内容は主に⑦区のものとなっている。調査の概略は第2表にまとめた。詳細は、平成21～23年度分は『今福遺跡』（平成25年3月発行、長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第8集）を、平成25年度分は次章をご覧ください。

平成21年度 範囲確認調査	面積: 276㎡	期間: 平成21年 5月11日 ~ 平成21年 6月 4日	
	検出遺構: 旧河道跡等		
	出土遺物点数: 約1,600点, コンテナ8箱		出土遺物時代: 縄文時代 ~ 近世
平成21年度 緊急発掘調査 (①区)	面積: 1,800㎡	期間: 平成21年10月16日 ~ 平成22年 3月16日	
	検出遺構: 旧河道跡1条(SR-5)等		
	出土遺物点数: 約1,200点, コンテナ6箱		出土遺物時代: 縄文時代 ~ 近世
平成22年度 緊急発掘調査 (②～④区)	面積: 10,300㎡	期間: 平成22年 5月18日 ~ 平成23年 3月16日	
	検出遺構: 旧河道跡24条(SR-1～SR-24), 縄文時代後期遺物包含層等		
	出土遺物点数: 約29,000点, コンテナ145箱		出土遺物時代: 縄文時代 ~ 近世
平成23年度 緊急発掘調査 (⑤・⑥区)	面積: 6,600㎡	期間: 平成23年 6月15日 ~ 平成24年 2月20日	
	検出遺構: 旧河道跡6条(SR-25～SR-30), 縄文後～弥生前期遺物包含層等		
	出土遺物点数: 約23,000点, コンテナ115箱		出土遺物時代: 縄文時代 ~ 近世
平成25年度 緊急発掘調査 (⑦・⑧区)	面積: 2,700㎡	期間: 平成25年 8月 1日 ~ 平成25年12月 2日	
	検出遺構: 旧河道跡2条(SR-31・SR-32), 縄文後～晩期遺物包含層等		
	出土遺物点数: 約10,300点, コンテナ20箱		出土遺物時代: 縄文時代 ~ 近世

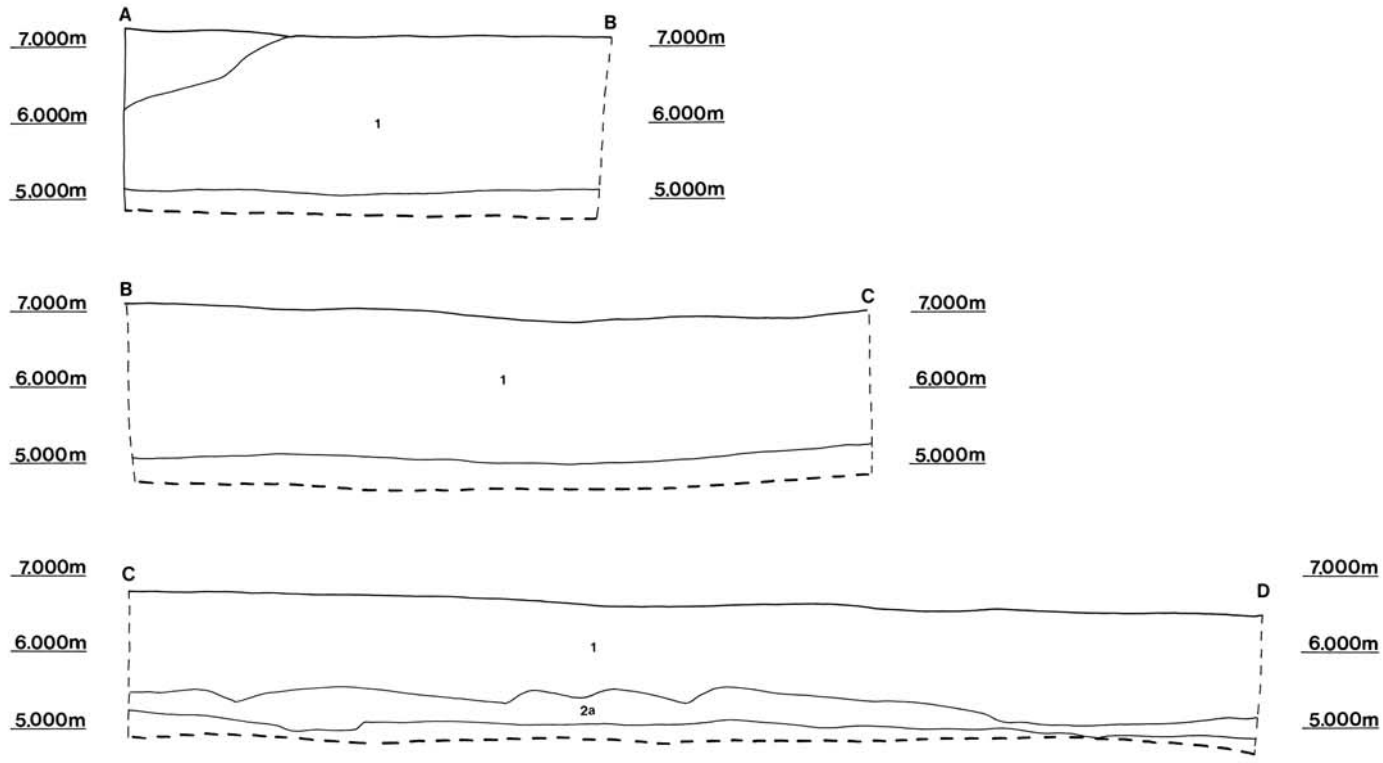
第2表 今福遺跡発掘調査概略



第5図 今福遺跡発掘調査調査区及びグリッド配置図(S=1/4,000)



第6図 ⑦区土層・SR-31・SR-32位置図(S=1/600)

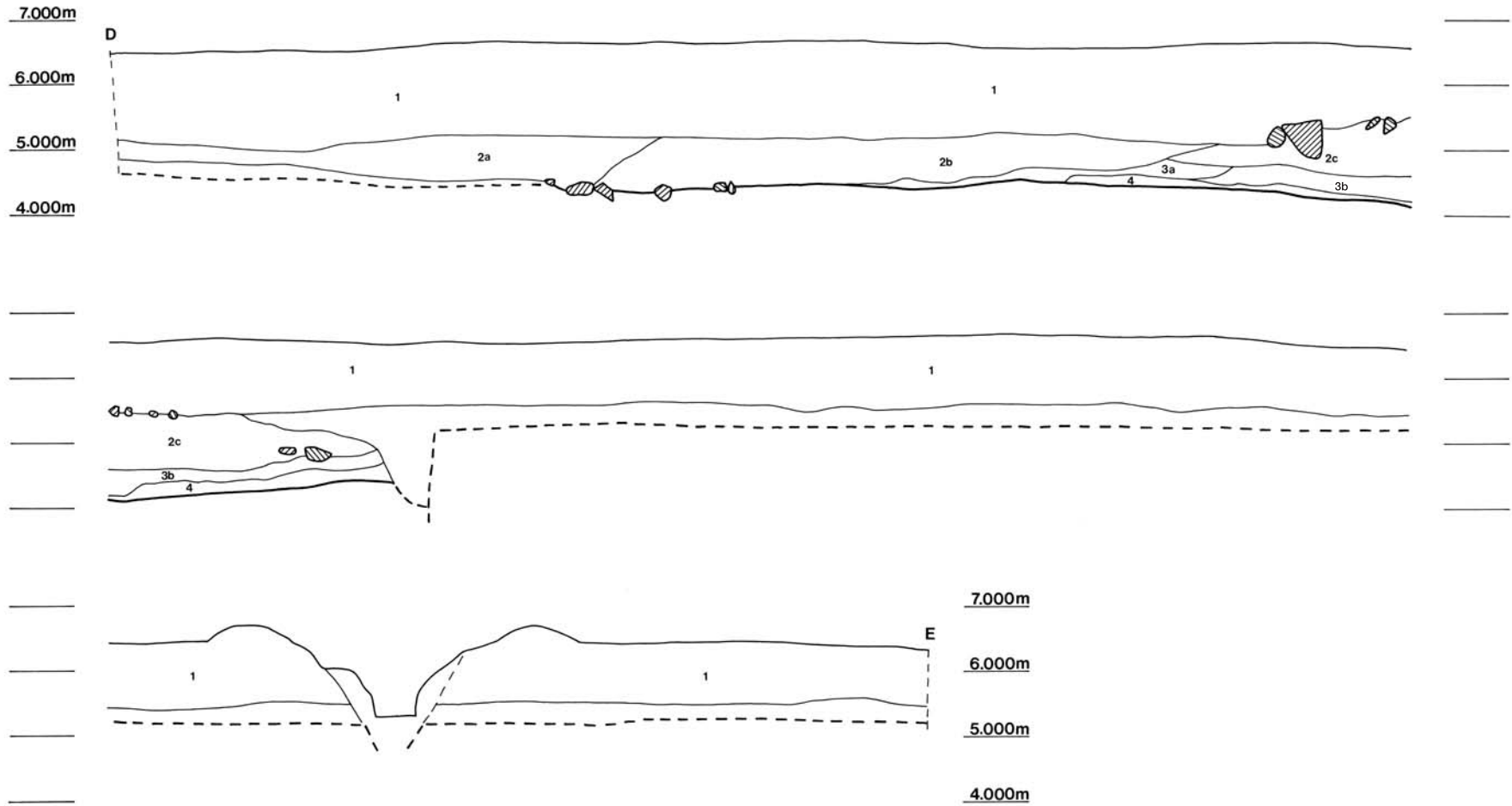


A-B、B-C、C-D

- 1 耕作土、造成基盤層、客土層 :【第Ⅰ層】現圃場（平成9年整備）及び旧水田（平成9年以前）に関わる層
 - 2a 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土層 炭化物をわずかに含む。
 - 2b 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土層 小礫をわずかに含む。
 - 2c 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土層
 - 3a 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土層 小礫をわずかに含む。
 - 3b 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土層 小礫を少量含む。
 - 4 5Y4/2 灰オリーブ色粘質土層 小礫を少量含む。 :【第Ⅳ層】縄文時代後期～晩期の遺物包含層
- } :【第Ⅱ層】縄文時代～近世の遺物包含層
- } :【第Ⅲ層】縄文時代～中世の遺物包含層

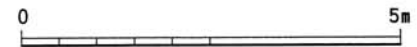


第7図 ⑦区A-B間・B-C間・C-D間土層断面図(S=1/100)

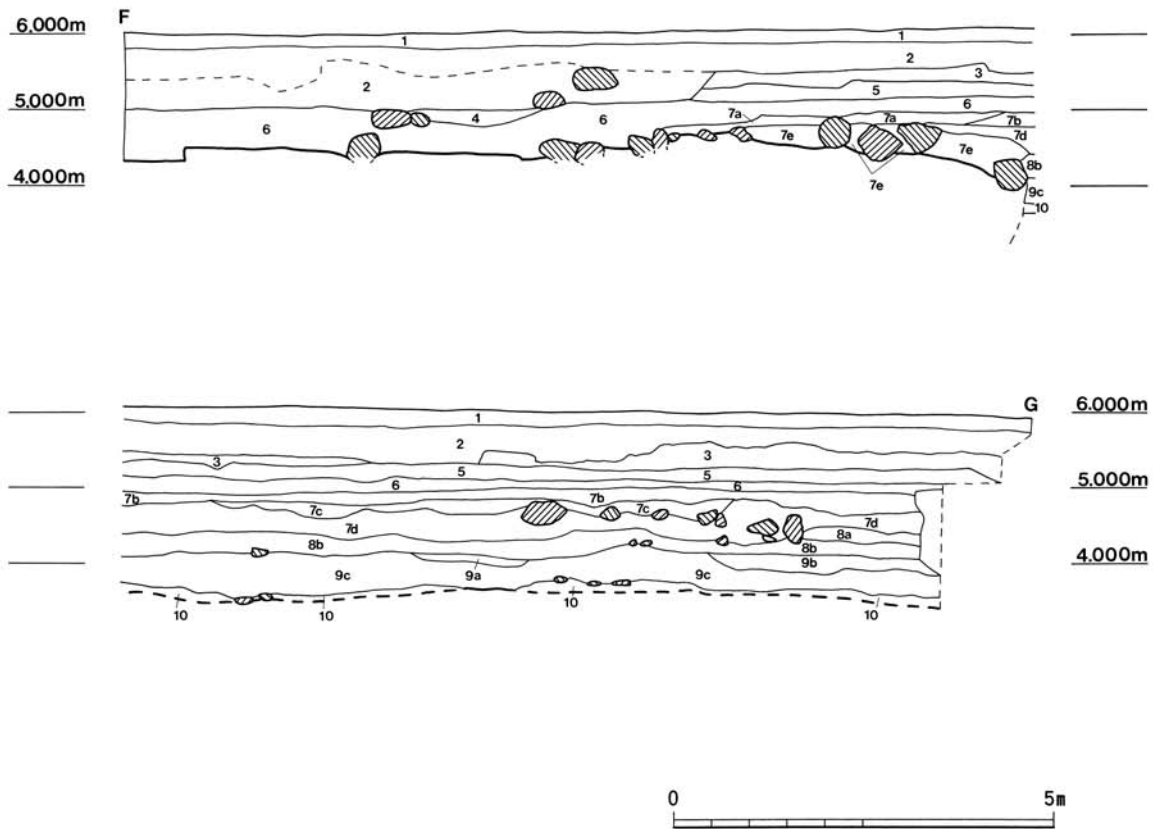


D-E

- | | | |
|----|-------------------------------|-------------------------------------|
| 1 | 耕作土、造成基盤層、客土層 | ：【第Ⅰ層】現圃場（平成9年整備）及び旧水田（平成9年以前）に関わる層 |
| 2a | 5Y4/2 灰オリーブ粘質土層 炭化物をわずかに含む。 | ：【第Ⅱ層】縄文時代～近世の遺物包含層 |
| 2b | 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土層 小礫をわずかに含む。 | |
| 2c | 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土層 | |
| 3a | 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土層 小礫をわずかに含む。 | ：【第Ⅲ層】縄文時代～中世の遺物包含層 |
| 3b | 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土層 小礫を少量含む。 | |
| 4 | 5Y4/2 灰オリーブ粘質土層 小礫を少量含む。 | ：【第Ⅳ層】縄文時代後期～晩期の遺物包含層 |

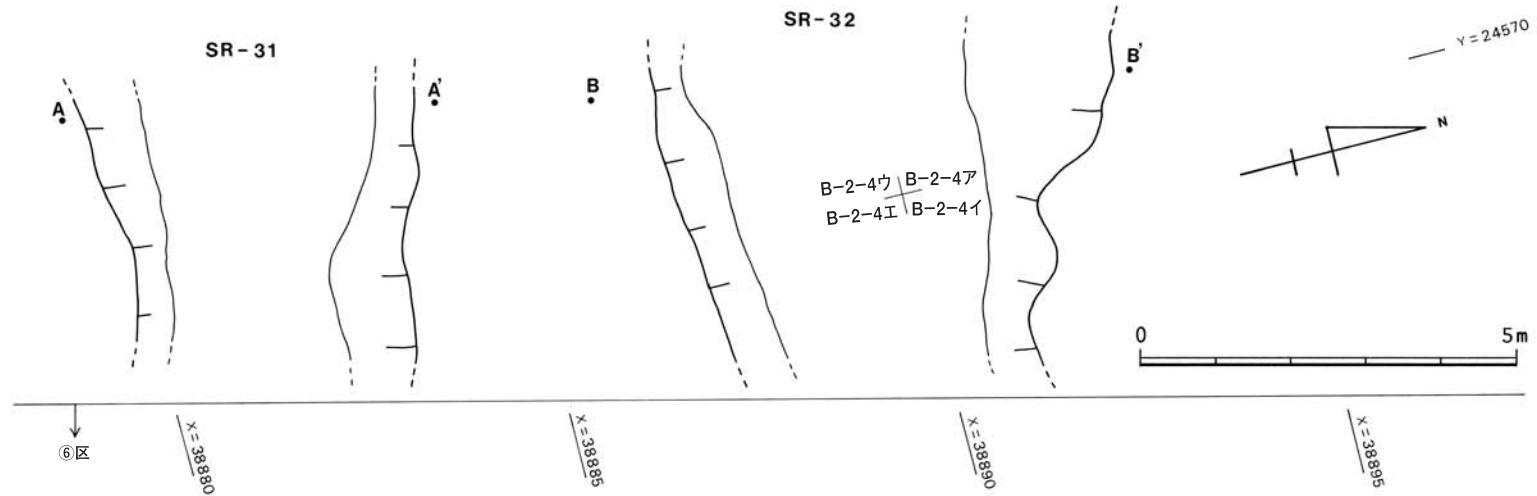


第8図 ⑦区D-E間土層断面図(S=1/100)

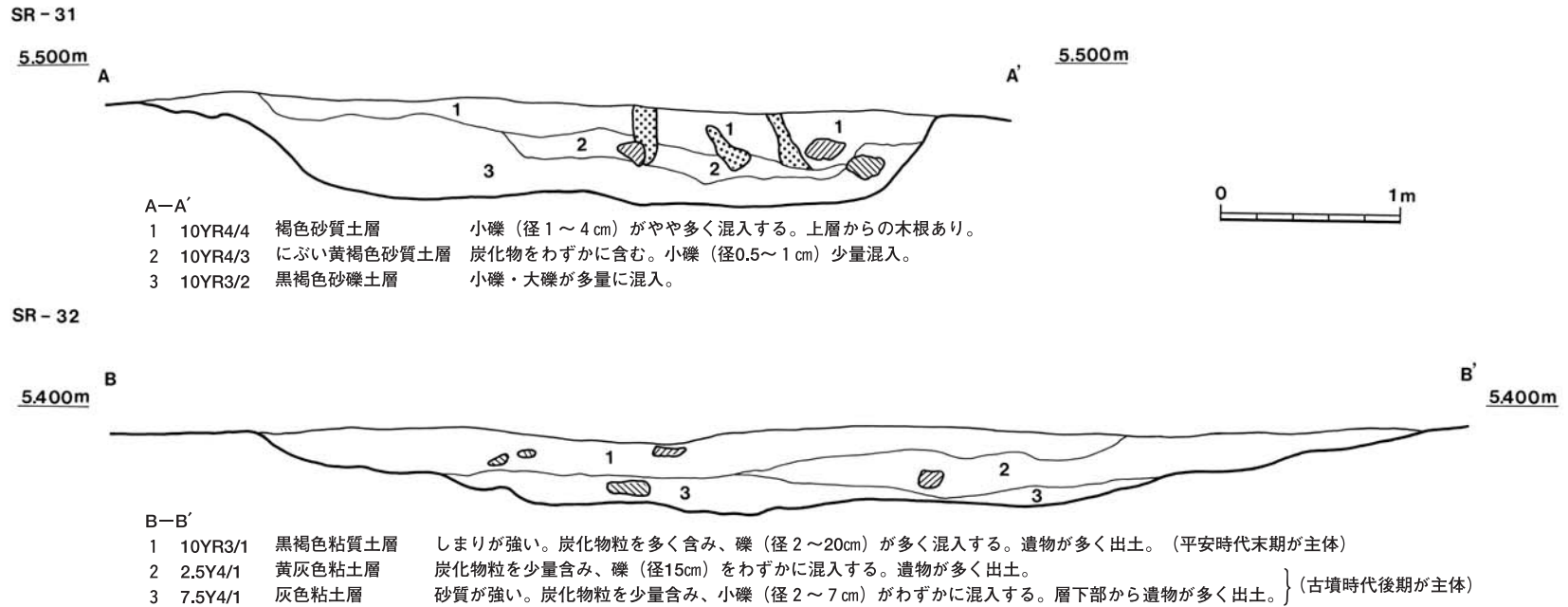


F-G				
1	耕作土	} 2013年度の今福遺跡報告書では、あわせて1層としている。	} 【第I層】	
2	圃場整備客土層			
3	2.5YR5/6 暗灰色粘質土層	しまりがややあり、粘性が強い。下部にマンガンの沈澱が見られ、ややオリーブ色を呈する。管状の鉄分の沈着も見られ、旧水田層と考えられる。		
4	10BG5/1 暗青灰色粘質土層	しまりがやや強く、粘性はややあり。人頭大～80cm程度の円礫を多く含み、ボタも少量含む。南壁では立ち上がりが確認できない。近世磁器が出土。		
5	7.5YR4/1 褐灰色砂礫層	10cm以下の小礫を多く含み、20cm大の礫もまれに含む。6層との間に灰色細砂や黒色細砂(いずれも下部に鉄分沈着)がみられる。南壁では立ち上がりのようなものも見られるが、北壁では見られない。		
6	10BG5/1 青灰色粘質土層	しまりはややあり、粘性もやや強い。管状に鉄分が沈着する。4.5m付近で土器片が出土。		
7a	2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土層	小礫をわずかに含む。		} 縄文・古墳～中世頃の遺物が出土：【第II層】
7b	2.5Y4/2 灰黄褐色粘質土層	東側で小礫が層状に堆積。		
7c	2.5Y4/2 灰黄褐色粘質土層	小礫・炭化物を少量含む。		
7d	10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土層	小礫が層状に堆積。		
7e	10YR4/4 褐色粘質土層	大礫を多く含む。	} 縄文土器・石器が少量出土：【第III層】	
8a	10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土層	小円礫を多く含む。		
8b	10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土層	小円礫を少量含む。	} 縄文後期～晩期の遺物が出土：【第IV層】	
9a	10YR5/2 灰黄褐色砂質土層	炭化物を多く含む。		
9b	5Y5/2 灰オリーブ色粘質土層	小礫・炭化物をわずかに含む。		
9c	5Y4/2 灰オリーブ色粘質土層	上部に小礫が層状に堆積。		
10	7.5Y5/1 灰色砂質土層	中・小礫を多く含む。		

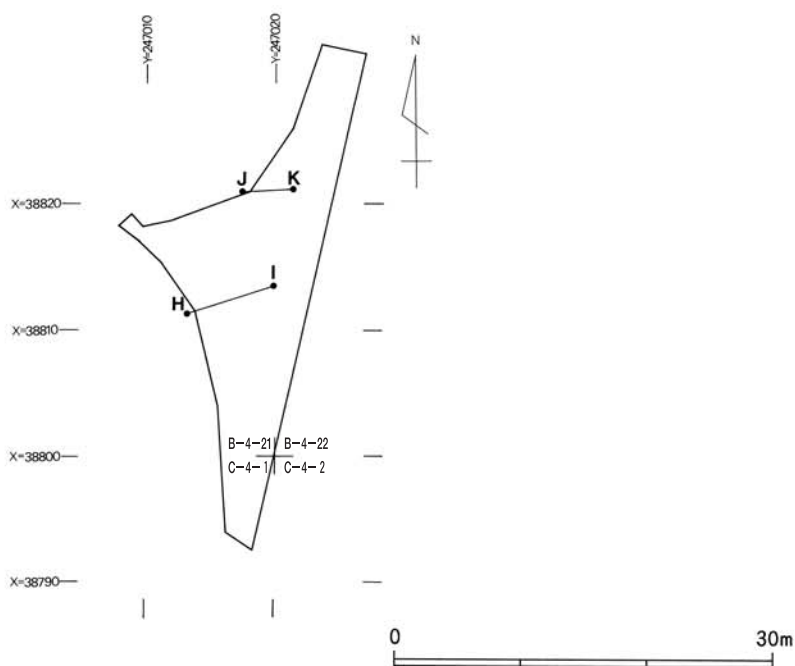
第9図 ⑦区F-G間土層断面図(S=1/100)



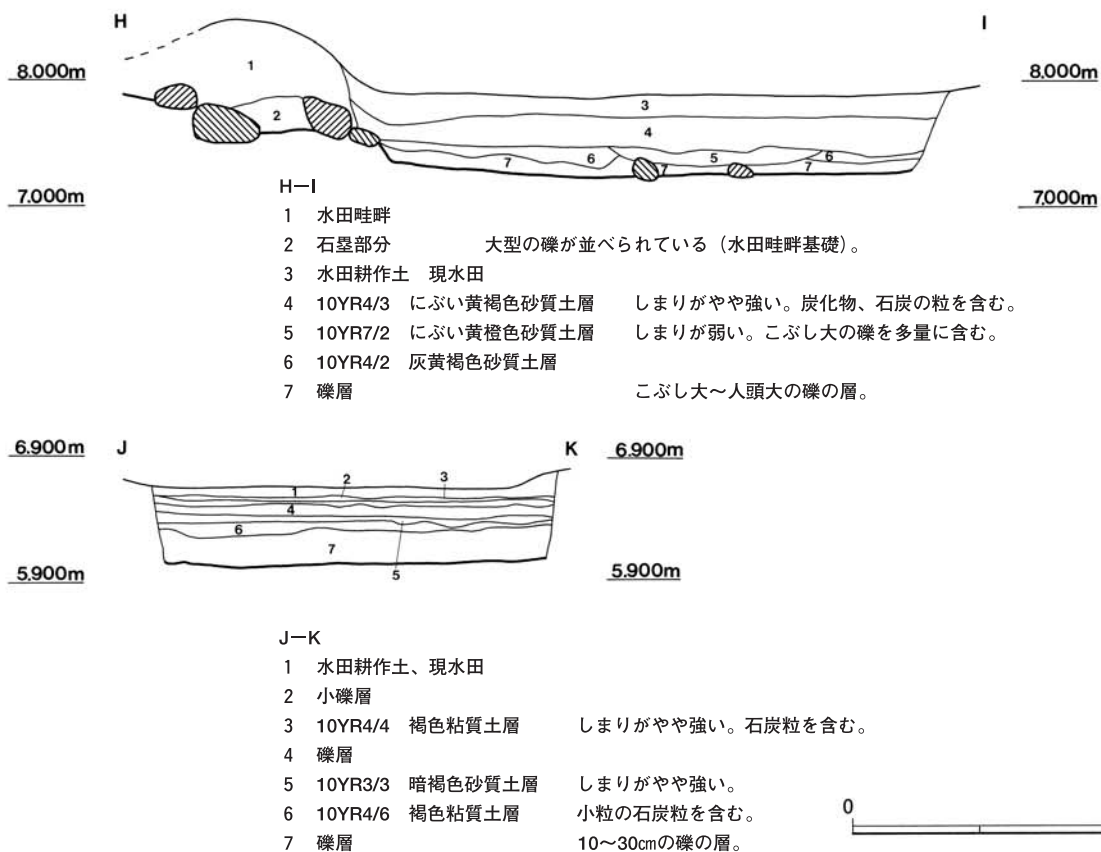
第10図 SR-31・SR-32平面図 (S=1/100)



第11図 SR-31・SR-32土層断面図 (S=1/40)



第12図 ⑧区土層位置図 (S=1/600)



第13図 ⑧区H-I間・J-K間土層断面図 (S=1/60)

IV 遺構・遺物

1 各遺物包含層と旧河道跡について(第5～12図、図版3～6)

本章では、長崎県佐世保文化財調査事務所調査報告書第8集『今福遺跡』に掲載していない平成22・23年度発掘調査で検出した遺物包含層と、平成25年度発掘調査で確認した遺物包含層・旧河道跡から出土した遺物の内容について述べるが、まず本節において各遺物包含層と旧河道跡の概観を説明する。

④区Ⅲ層は、当地区東部に位置し、礫層内に多くの遺物を包含する。平成22年度調査によりB-2-15・19・20・24・25区、B-3-16・21区、C-3-1・2区から検出し、グリット・層単位で遺物取り上げを行った。縄文時代～中世の遺物が出土し、古墳時代後期の土師器や須恵器、古代の黒色土器などを確認した。④区Ⅳ層は、当地区東部に位置し、平成22年度調査によりB-2-19・20・25区、B-3-21区、C-3-1・2区で検出した。旧河道等による影響により三分割され、北部は水の影響によりグライ化する。グリット・層単位で遺物取り上げを行い、縄文時代後・晩期の土器・石器と共に弥生土器、土師器、須恵器が若干出土した。⑤区Ⅲ層は、平成23年度調査によりB-3-13・14・18・19・23～25区で検出した。SR-26から下層をⅢ層とし、グリット・層単位で遺物取り上げを行った。出土遺物は縄文時代～近世まで幅広く出土している。⑥区Ⅲ層は、平成23年度調査によりB-2-4・5・10・15区、B-3-6～8・11～13・16・17区で検出した。当包含層は旧河道等の影響により、東西に分断される。東側は南北に展開し、縄文時代後期～弥生時代前期の遺物と共に土師器、須恵器などが出土した。西側は北西部に位置し、縄文土器・石器、弥生土器と共に古墳時代後期の土師器、須恵器などが出土した。

平成25年度の調査では、⑦区において2条の旧河道跡(SR-31・32)と複数の遺物包含層を確認した。第Ⅱ・Ⅲ層は複数の旧河道跡の集合体である。第Ⅱ層は縄文時代～近世に至る遺物を包含し、第Ⅲ層は縄文時代～中世の遺物を包含していた。いずれも狭い範囲で水平方向や垂直方向(河道傾斜角度の違いによる)に複雑に切り合っていたため、個別に旧河道跡を確認することは困難であった。第Ⅳ層上半部は、縄文時代後・晩期の遺物を包含していた。この縄文時代後・晩期遺物包含層では、土器約700点と石器約1,700点が出土した。鈴桶型石刃やつまみ型石器、剥片鏃、石材等の破片が集中して見られ、石器製作場として利用されたことが考えられる。この層も新しい河道に水平・垂直方向ともに複雑に切られており、範囲は確認できなかった。SR-31は東から西へ流れたと考えられる。残存する最大長は約3.5m、最大幅は約4.5mである。遺物は、古墳時代や古代の土師器を主体として、縄文時代の石器と土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器等、約300点が出土した。SR-32は東から西へ流れたと考えられる。残存する最大長は約4.0m、最大幅は約6.0mである。遺物は縄文時代の石器、土師器、貿易陶磁器等、約2,200点が出土した。埋土層上層は平安時代後期(10～12世紀ころ)、中・下層は古墳時代後期(6～7世紀ころ)の遺物を主体とするため、異なる時代の河道が重複している可能性が考えられる。出土した遺物点数(破片点数)は、約103,000点に及んだ。うち、縄文時代の遺物約2,700点、古墳～中世の遺物約6,500点、その他1,100点であった。遺物で特筆すべきは、100点に及ぶ越州窯系青磁の出土である。越州窯系青磁は過去3年間の当該遺跡発掘調査で37点出土したが、合わせて137点となり、佐世保市門前遺跡に次ぐ大量の出土となった。

2 遺物包含層

(1) ④区Ⅲ層出土遺物(第14・15図、第3表、図版7・8)

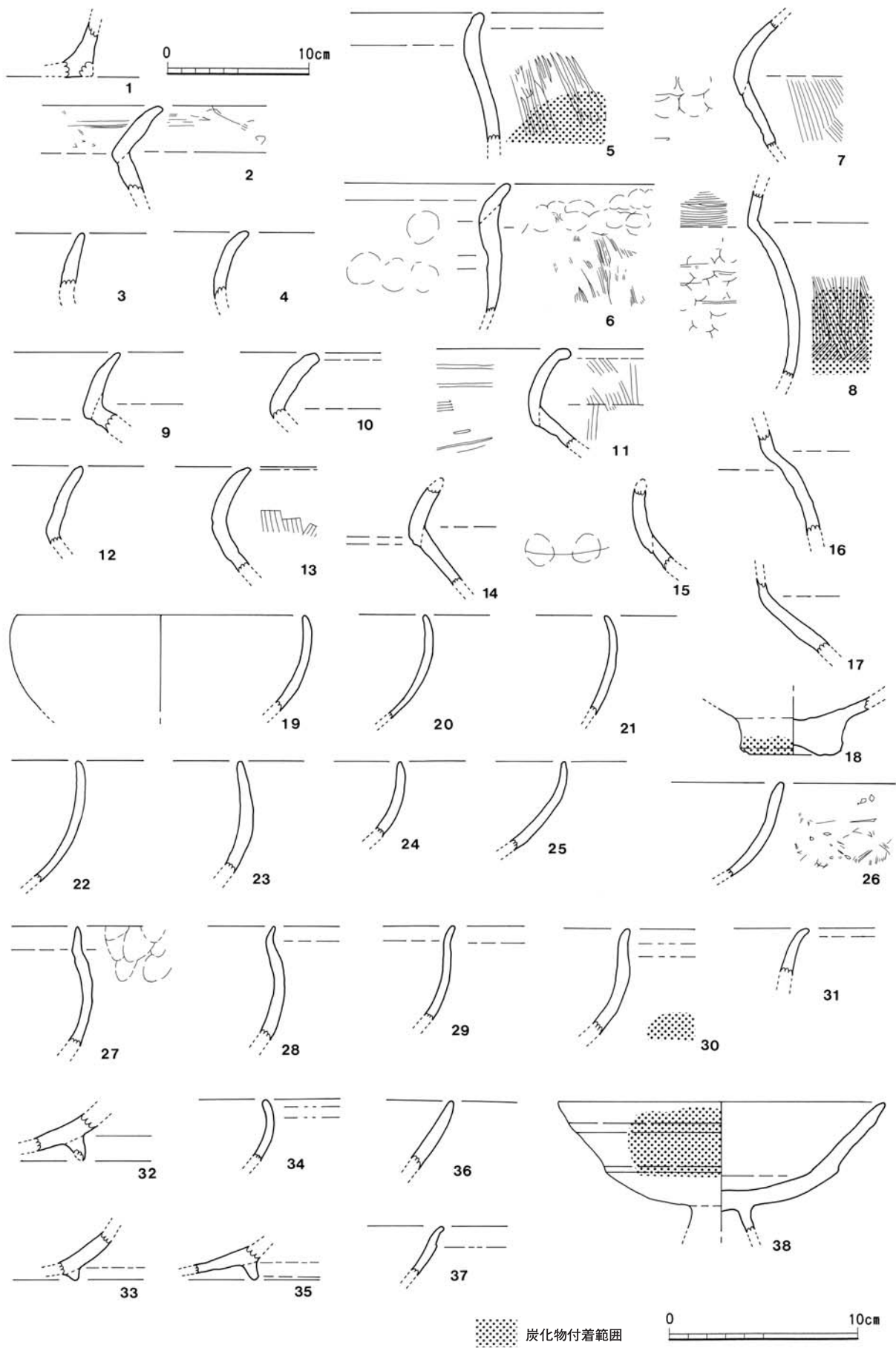
1は弥生土器の甕もしくは壺の底部片。2～31・36～49は土師器。2～6は甕。2は断面「く」字形を呈する。3～6は口縁部が外反し、5・6は口縁部を肥厚させる。7～17は甕もしくは壺の口縁部片または胴部片。7・8は内面をヘラ削りし、器壁を薄く仕上げる。9～14は口縁部が外反する。15は胴部が内傾し、口縁部は直線的に立ち上がる。16・17も同様な口縁部を持つと思われる。18は甕もしくは壺の底部。19～26は坏の口縁部片。19～25は内彎し、26は僅かに外反する。27～31は鉢。内彎気味に立ち上がり口縁で僅かに外反する。36～49は高坏。38・39・41・42は胴部の稜を明確にする。36・37は直線的に立ち上がり、38～40はゆるやかに外反する。41は胴部片。42～47は坏底部。48は脚部片。49は坏底部から脚部が残存し器壁を厚くする。32～35は黒色土器の碗の口縁部片または底部片。32・35は高い高台をもち外方に広がる。33は断面三角形の低い高台をもつ。34は強く内彎する。50～66は須恵器。50・51は坏蓋。天井部と体部の境はなく丸くおさめる。52～58は坏身。蓋受け立ち上がりは内傾し、口唇部は丸味を帯びる。蓋受け立ち上がりとかえりの境界に沈線を巡らせる。58はヘラ描き文を施す。59は高坏の脚部。透孔が認められる。60・61は甕の口縁部片と頸部から胴部片。60は口縁部に稜をもち、直下に波状文を施す。61は胴部上半に刺突文を施す。底部にヘラ描き文を施す。62～66は甕。62・63は外開きに立ち上がり、62は外面に波状文を施す。64・65は胴部片。66は底部片。67・68はスクレーパー。

(2) ④区Ⅳ層出土遺物(第16～19図、第4表、図版8・9)

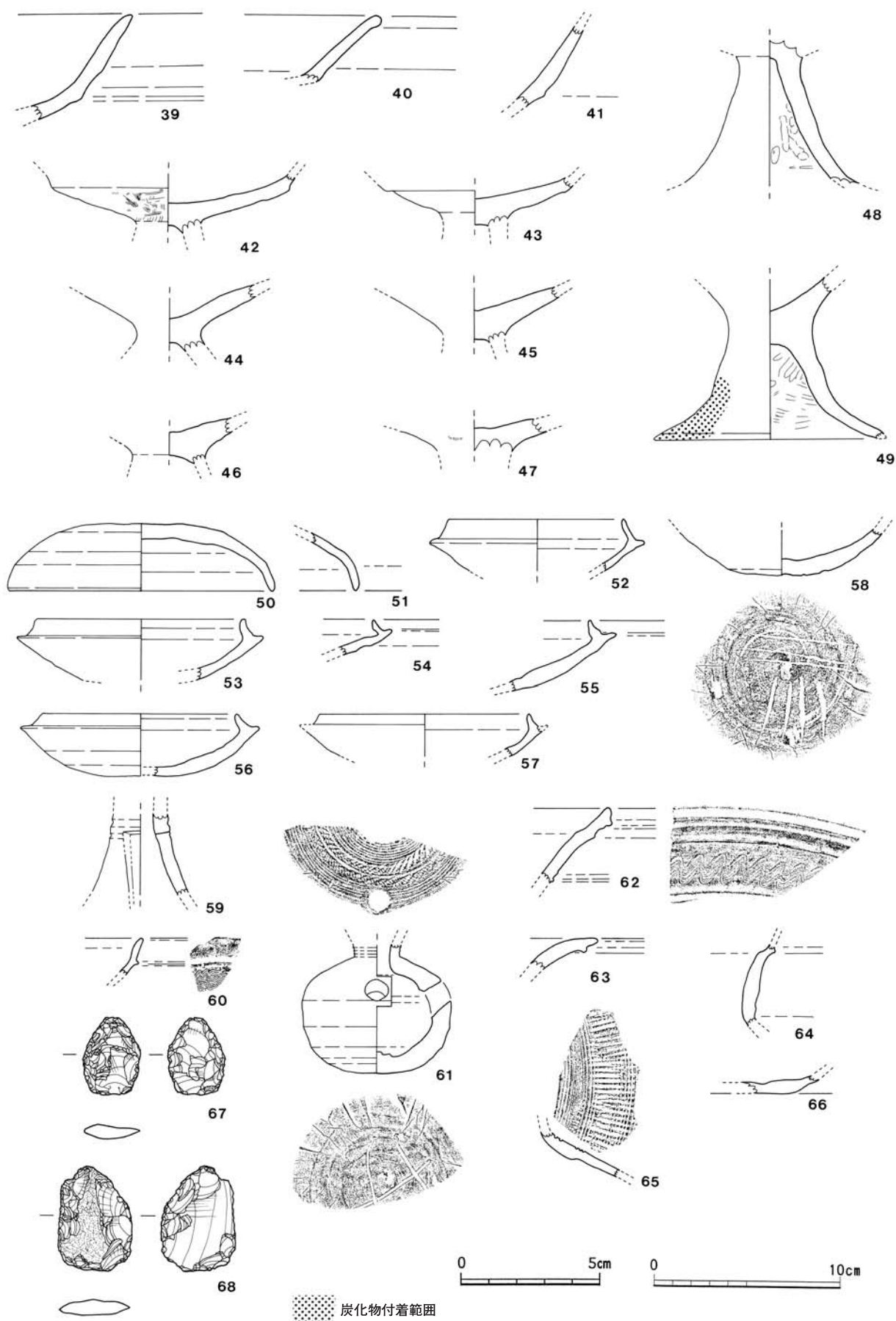
1～8は坂の下式系土器の深鉢。1は口縁部片。直線的に立ち上がり、口唇部を平坦にする。外面に斜「\」位凹文を施す。2～8は底部片。2は直に立ち上がり、外面に縦位凹文を施す。8は上げ底を呈し、底部から胴部に向かい内彎しながら立ち上がる。底側部に指オサエの痕が確認される。9は小池原上層式系土器の深鉢。波状口縁に沿って口縁部から胴部上半に磨消縄文を施す。胴部に補修孔が認められる。10は深鉢の口縁部片。11～13は縄文時代晩期の精製浅鉢片。11・12は外開きに立ち上がり、12は口唇部内外面に沈線を施す。外面はミガキが施されていたと思われるが風化による劣化が著しい。内面は一部ミガキが施されている。13は11・12のようなくびれを有さず、椀に似た形状をなし、口唇部に沈線を施す。14～18は粗製深鉢。14は直立気味に、15・16は内傾しつつ僅かに外反する口縁部片。17は内彎する胴部片。18は平底の底部片。19～25は縄文時代晩期後半の土器と思われる。19は直に立ち上がり、口縁部直下に刻目突帯文をもつ。20は胴部屈曲部から口縁部にかけて「く」字形を呈する。口縁部と胴部屈曲部に刻目突帯文をもつ。21・22は胴部片。21は屈曲部に突帯を持ち、刻目が施されていたと思われる。23は外反する口縁部片。24・25は外面に条痕ナデ消しを施す浅鉢の胴部片と底部片。26は滑石を含む剣型の土製品。27は滑石を含む土器片を加工した紡錘車。28は石鏃。29はつまみ形石器。30～51はスクレーパー。37は鏃形の石銛の可能性をもつ。42はコアスクレーパー。45は使用痕剥片の可能性をもつ。

(3) ⑤区Ⅲ層出土遺物(第20図、第5表、図版9)

1は土師器の高坏。坏底部から脚部にかけて厚みをもつ。2は白磁碗Ⅱ類の底部片。高台の内側は斜めに、外面は直になる。



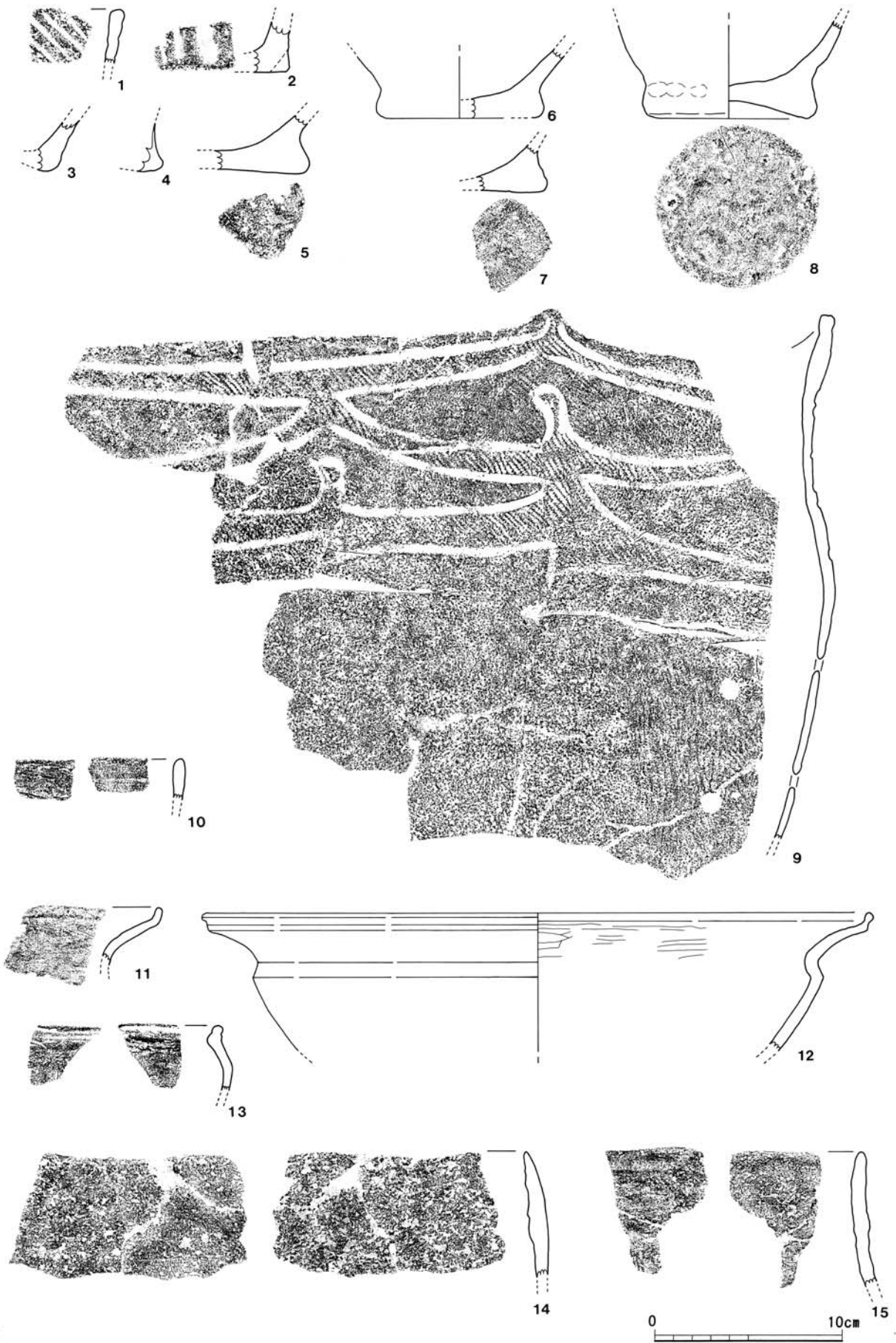
第14図 ④区Ⅲ層出土遺物(1) (S=1/3、1はS=1/4)



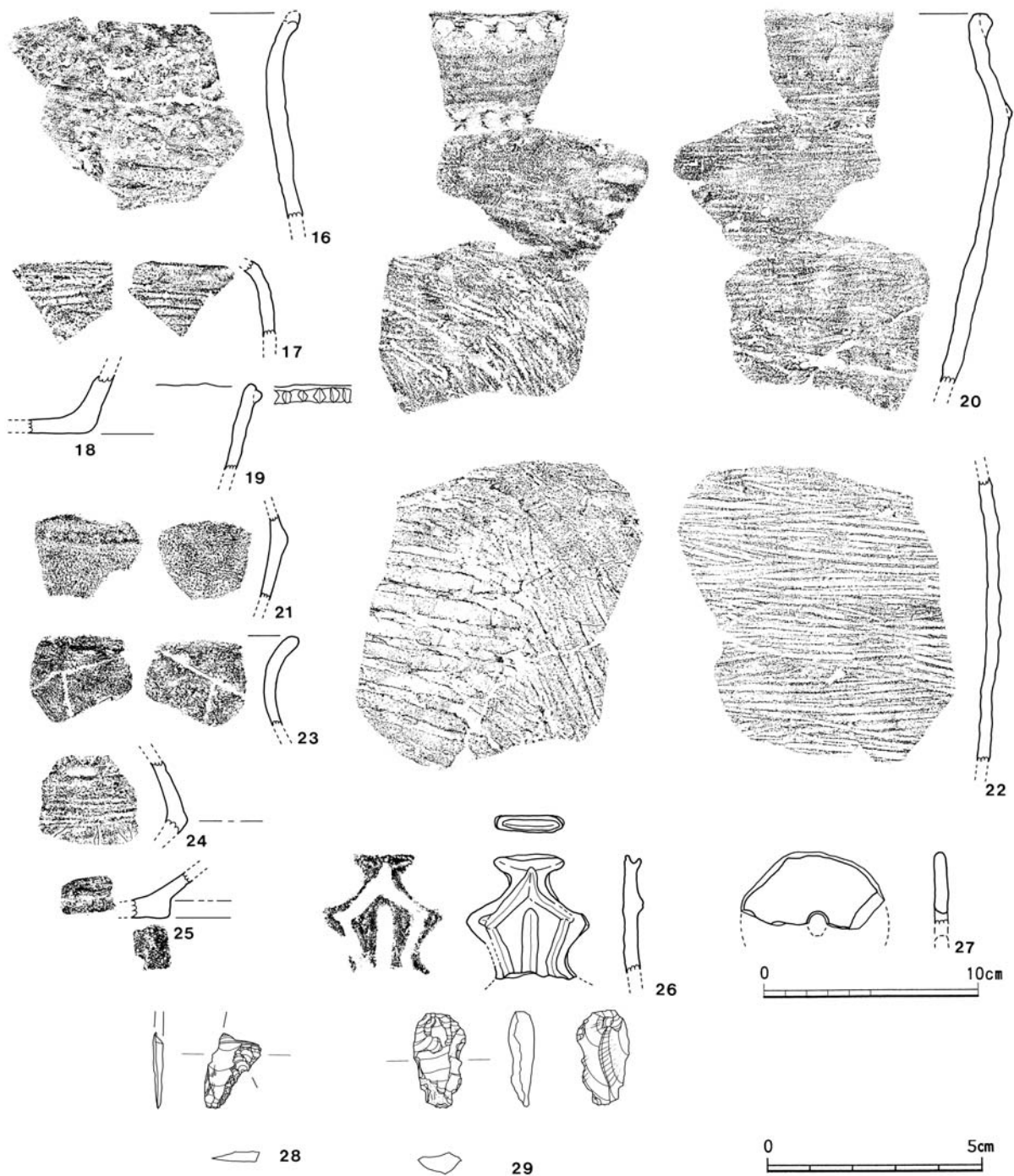
第15図 ④区Ⅲ層出土遺物(2) (S=1/3、67・68はS=1/2)

図版 番号	種類	器種	調整		焼成	色調		胎土	備考	
			外面	内面		外面	内面			
1	弥生土器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	明赤褐色/黄灰色	にぶい橙色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母	
2	土師器	甕	ハケ目ナデ消し	ハケ目ナデ消し	良好	橙色	橙色	やや精緻	雲母・黒色粒子・小礫・砂粒	
3	土師器	甕	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	にぶい橙色	やや粗雑	石英・角閃石・雲母・赤色粒子	
4	土師器	甕	ナデ	ナデ	やや良好	浅黄橙色	にぶい橙色	やや粗雑	長石・雲母・赤色粒子	
5	土師器	甕	ハケ目ナデ消し/ハケ目	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻	石英・雲母・小礫・砂粒	
6	土師器	甕	ナデ/指オサエ/ハケ目ナデ消し	ナデ/指オサエ	やや良好	橙色	橙色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子・小礫・砂粒	
7	土師器	甕/壺	ハケ目	ナデ/指オサエ/ヘラ削りナデ消し	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑	石英・角閃石・雲母	
8	土師器	甕/壺	ナデ/ナデ消し/ハケ目	ハケ目/ヘラ削り/指オサエ	やや不良	にぶい黄橙色	灰黄褐色	やや粗雑	石英・角閃石・雲母	
9	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	粗雑	長石・雲母・白色粒子・赤色粒子	
10	土師器	甕/壺	回転ナデ消し	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑	長石・雲母・赤色粒子	
11	土師器	甕/壺	ハケ目ナデ消し	ハケ目ナデ消し/ヘラ削り	やや不良	黒褐色	黒褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母	
12	土師器	甕/壺	回転ナデ消し	ナデ	やや良好	にぶい橙色	橙色	やや粗雑	石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	
13	土師器	甕/壺	ハケ目ナデ消し	ナデ	やや不良	にぶい橙色	にぶい橙色	やや精緻	石英・角閃石・雲母・赤色粒子	
14	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	浅黄褐色	粗雑	雲母・白色粒子・赤色粒子	
15	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ/指オサエ	やや不良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子	
16	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑	長石・石英・雲母・赤色粒子	
17	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	雲母・赤色粒子	
18	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	黒褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母	
19	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻	長石・雲母・白色粒子・赤色粒子	
20	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	にぶい橙色	やや粗雑	雲母・白色粒子・赤色粒子	
21	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	にぶい橙色	精緻	雲母・白色粒子・赤色粒子	
22	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	赤褐色	やや精緻	雲母・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	
23	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	にぶい橙色	やや粗雑	雲母・赤色粒子	
24	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑	角閃石・雲母・赤色粒子	
25	土師器	坏	ナデ	ナデ	やや良好	にぶい橙色	橙色	やや精緻	雲母・黒色粒子・赤色粒子	
26	土師器	坏	ナデ/ハケ目ナデ消し	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや精緻	石英・雲母・赤色粒子	
27	土師器	鉢	指オサエ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや粗雑	長石・雲母・白色粒子・赤色粒子	
28	土師器	鉢	ナデ	ナデ	やや不良	にぶい橙色	橙色	やや粗雑	雲母・白色粒子・赤色粒子	
29	土師器	鉢	ナデ	ナデ	やや良好	にぶい橙色	黄褐色	やや精緻	石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	
30	土師器	鉢	ナデ	ナデ	やや不良	橙色	橙色	やや精緻	石英・角閃石・雲母	
31	土師器	鉢	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	橙色	やや粗雑	雲母・白色粒子・赤色粒子	
32	黒色土器	碗	ナデ	ナデ	やや不良	褐色	褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母	
33	黒色土器	碗	ナデ	ナデ	やや不良	灰黄色	暗青灰色	やや粗雑	長石・角閃石・雲母	
34	黒色土器	碗	燻し磨き	燻し磨き	やや不良	黒色	黒褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母	
35	黒色土器	碗	ナデ/燻し磨き	ナデ	やや良好	黒色	黒褐色	やや精緻	長石・雲母・赤色粒子	
36	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	褐色	褐色	やや精緻	雲母・白色粒子・赤色粒子	
37	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	にぶい橙色	浅黄褐色	やや粗雑	雲母・白色粒子	
38	土師器	高坏	ナデ/指オサエ	ナデ	やや良好	褐色	にぶい橙色	やや精緻	石英・雲母・赤色粒子・小礫・砂粒	
39	土師器	高坏	ナデ	ナデ	良好	褐色	にぶい橙色	やや精緻	石英・雲母・赤色粒子・砂粒	
40	土師器	高坏	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	精緻	石英・雲母・赤色粒子	
41	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	褐色	褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母・白色粒子・赤色粒子	
42	土師器	高坏	ハケ目ナデ消し/指オサエ	ハケ目ナデ消し	良好	褐色	にぶい橙色	やや精緻	石英・雲母・赤色粒子・砂粒	
43	土師器	高坏	ナデ/指オサエ	ナデ	やや良好	褐色	褐色	やや粗雑	石英・雲母・黒色粒子・赤色粒子	
44	土師器	高坏	ナデ/指オサエ	ナデ	良好	褐色	褐色	精緻	石英・雲母・赤色粒子・砂粒	
45	土師器	高坏	ナデ/指オサエ	ナデ	やや良好	にぶい橙色	にぶい橙色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子・砂粒	
46	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	褐色	褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子	
47	土師器	高坏	ナデ	ハケ目ナデ消し	やや良好	褐色	褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母	
48	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	褐色	褐色	やや粗雑	石英・雲母・小礫・砂粒	
49	土師器	高坏	ナデ	ハケ目ナデ消し/指オサエ	良好	褐色	褐色	精緻	石英・雲母・砂粒	
50	須恵器	坏蓋	ナデ	ナデ	良好	灰色	灰色	やや精緻	長石	
51	須恵器	坏蓋	ナデ	ナデ	やや不良	灰色	灰白色	やや精緻	長石	
52	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰白色	やや精緻	長石	
53	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	やや良好	灰白色	灰白色	精緻		
54	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	良好	灰色	灰色	精緻		
55	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰白色	やや精緻	長石	
56	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	やや良好	灰色	灰白色	やや精緻	長石	
57	須恵器	坏身	ナデ	ナデ	良好	緑灰色	青灰色	やや精緻	長石	
58	須恵器	坏身	ナデ/ヘラ描き文	ナデ	良好	灰白色	灰白色	やや精緻	長石・石英	
59	須恵器	高坏	ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰白色	やや精緻	長石	
60	須恵器	甌	ナデ/波状文	ナデ	良好	青灰色	褐灰色	精緻		
61	須恵器	甌	ナデ/ヘラ描き文	ナデ	やや良好	灰白色	灰色	やや精緻		
62	須恵器	甕	ナデ/波状文	ナデ	やや良好	暗オリブ灰色	灰白色	やや精緻	長石	
63	須恵器	甕	ナデ	ナデ	良好	オリブ黒色	灰色	精緻	長石	
64	須恵器	甕	ナデ	ナデ	良好	青灰色	灰白色	やや精緻	長石・赤色粒子	
65	須恵器	甕	ナデ	ナデ	良好	青灰色	灰色	精緻	長石	
66	須恵器	甕	ナデ	ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや精緻	長石	
図版 番号	器種	石種	量法 (mm)			重さ (g)		備考		
			最大長	最大幅	最大厚					
67	スクレーパー	黒曜石	28.0	21.0	5.0	3.32				
68	スクレーパー	黒曜石	38.0	26.5	6.0	6.70	未製品			

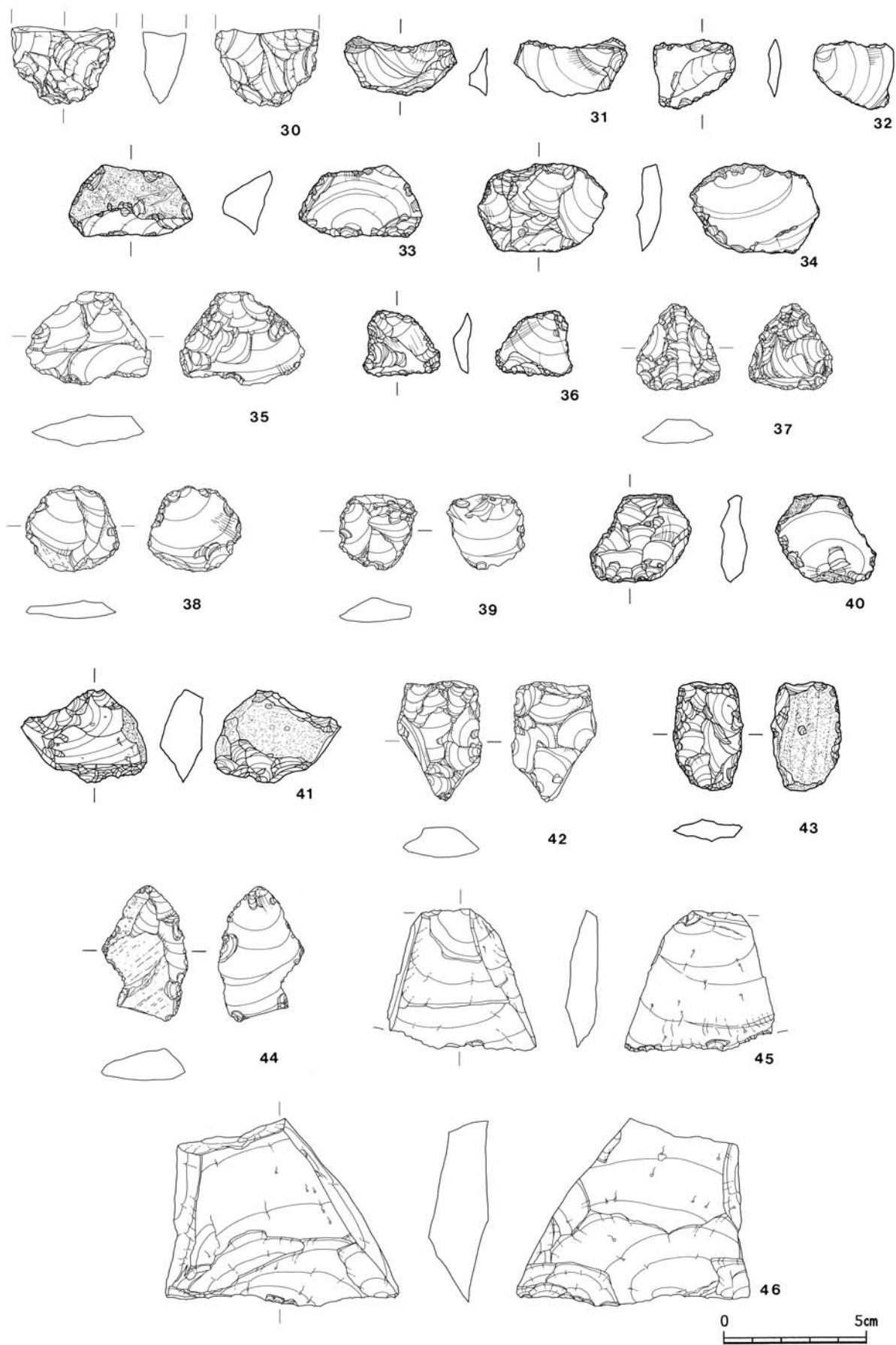
第3表 ④区Ⅲ層遺物観察表



第16图 ④区IV層出土遺物(1) (S=1/3)



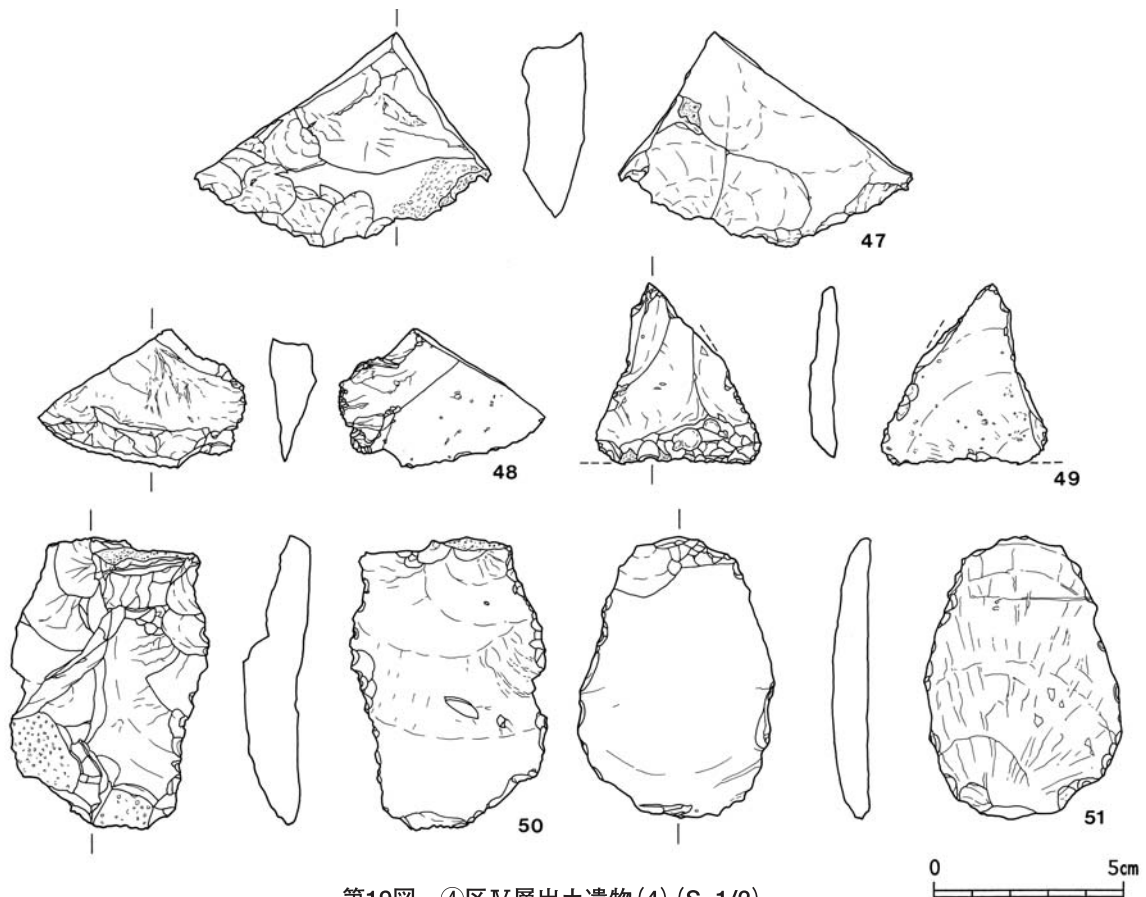
第17図 ④区Ⅳ層出土遺物(2) (S=1/3、28・29はS=2/3)



第18图 ④区IV層出土遺物(3) (S=1/2)

(4) ⑥区Ⅲ層出土遺物(第21~24図、第6・7表、図版10・11)

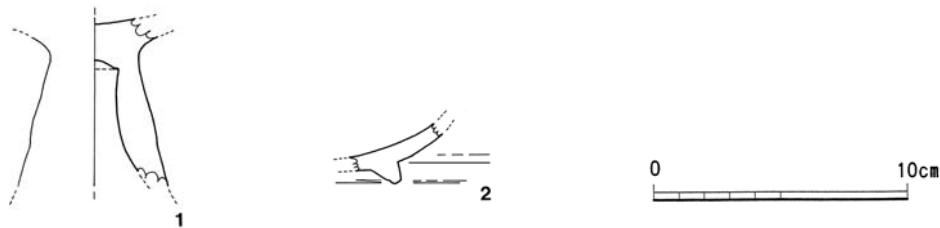
1~9は縄文時代後・晩期の土器と思われる。1は坂の下式系土器の口縁部片。直に立ち上がり波状口縁を呈する。2~4は角閃石を含み、直に立ち上がる口縁部をもつ深鉢片。2は口唇部が肥厚する。5~7は平底の底部片。8は精製浅鉢片。断面「く」字形をなし、口縁部に向かい外反する。穿孔が認められる。9は口縁部に刻目突帯文をもつ甕片。10~15は弥生時代前期の土器と思われる。10・11は如意状口縁をもつ甕片。口唇部に刻目を施す。12は胴部に、13は口縁部に断面三角形の刻目突帯を一条貼付ける甕片。14は口縁部に「M」字状の突帯を一条巡らす甕片。先端に浅い刻目を施す。15は平底の底部。16~34は土師器。16~23は甕もしくは壺の口縁部片または胴部片。16~20は外反、21は直に立ち上がり僅かに外反する。22・23は断面「く」字形をなす。24は坏身の口縁部片。蓋受け立ち上がりは内傾する。25~27は坏の口縁部片。28・29は鉢の口縁部片。29は口縁が僅かに外反する。30~32は高坏。30は直線的に立ち上がり玉縁状の口唇部をもつ。31は坏底部片。32は脚底部片。33は甑の胴部片。34は手捏壺の胴部片。35~49は須恵器。35~40は坏蓋。35は天井部から口縁部にかけて垂直に屈曲し口唇部を平坦にする。36は口唇部と屈曲部に沈線を施す。37~39は天井部と体部の境はなく丸みを持つ。40は天井部から一旦窪んで口縁部に至る。41~48は坏身。蓋受け立ち上がりはやや内傾し口唇部は丸味を帯びる。43・45~48は蓋受け立ち上がりとかえりの境界に沈線が巡る。43は内外面の一部に自然釉が付着する。49は甕の胴部片。内面に同心円の当て具痕を残し、外面はタタキ調整を行った後にカキ目を施している。部分的にカキ目の上にタタキの痕が見られる。50は石鎌。両側縁が内彎し脚部の挟りは深く丸い。51~67はスクレーパー。68・69は打製石斧。70は石槍。71は砥石。



第19図 ④区Ⅳ層出土遺物(4) (S=1/2)

図版番号	種類	器種	調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
1	縄文土器	深鉢	ナデ/斜位凹文	ナデ	良好	赤褐色	暗褐色	やや精緻	滑石・赤色粒子
2	縄文土器	深鉢	縦位凹文/ナデ	ナデ	良好	明赤褐色	黒褐色	精緻	滑石・赤色粒子
3	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	褐灰色	暗青灰色	やや粗雑	石英・雲母・滑石・赤色粒子
4	縄文土器	深鉢	ナデ	—	やや良好	橙色	—	やや粗雑	石英・角閃石・雲母・赤色粒子
5	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	灰白色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子
6	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し/ナデ	条痕ナデ消し	良好	褐灰色	灰黄褐色	やや粗雑	石英・雲母
7	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	良好	橙色	灰白色	やや精緻	石英・角閃石・雲母・赤色粒子
8	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し/指オサエ/ナデ	条痕ナデ消し	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	石英・角閃石・雲母・赤色粒子
9	縄文土器	深鉢	ナデ/穿孔	ナデ/穿孔	やや良好	橙色	明褐灰色	やや精緻	石英・雲母
10	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	ナデ	良好	黒褐色	黒褐色	やや精緻	石英・雲母
11	縄文土器	浅鉢	磨き	磨き	良好	灰黄褐色	にぶい黄褐色	やや精緻	雲母
12	縄文土器	浅鉢	—	—	良好	灰黄褐色	黒褐色	やや精緻	長石・雲母・赤色粒子
13	縄文土器	浅鉢	ナデ/条痕ナデ消し	ナデ/条痕ナデ消し	良好	褐灰色	褐灰色	やや粗雑	石英・雲母
14	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	ナデ	やや良好	にぶい橙色	褐灰色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子
15	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	やや良好	にぶい黄褐色	にぶい橙色	やや粗雑	石英・雲母
16	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	やや良好	灰白色	にぶい黄褐色	やや粗雑	石英・雲母・赤色粒子
17	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し/条痕	条痕ナデ消し/条痕	やや良好	黒褐色	にぶい褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子
18	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し/ナデ	条痕ナデ消し	やや不良	にぶい黄褐色	黒褐色	やや粗雑	雲母
19	縄文土器	深鉢	刻目/ナデ	ナデ	良好	灰褐色	にぶい黄褐色	やや精緻	長石・石英・雲母
20	縄文土器	深鉢	ナデ/条痕ナデ消し	ナデ/条痕ナデ消し	やや良好	にぶい黄褐色	黒色	やや精緻	長石・石英・雲母・赤色粒子
21	縄文土器	深鉢	ナデ/条痕ナデ消し	ナデ	やや良好	褐灰色	灰白色	やや粗雑	石英・角閃石・雲母
22	縄文土器	深鉢	条痕	条痕	やや良好	灰褐色	にぶい褐色	やや精緻	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子
23	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	灰白色	灰白色	やや粗雑	石英・赤色粒子・小礫
24	縄文土器	浅鉢	条痕ナデ消し	ナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	やや精緻	石英・角閃石・雲母
25	縄文土器	浅鉢	条痕ナデ消し	ナデ	良好	橙色	黒褐色	やや精緻	石英・角閃石・雲母・小礫
26	土製品	網目土器	斜位凹文/縦位凹文	ナデ	やや良好	暗赤褐色	暗赤褐色	やや精緻	雲母・滑石・赤色粒子
27	土製品	紡錘車	ナデ	ナデ	良好	赤褐色	灰褐色	やや精緻	滑石・赤色粒子
図版番号	器種	石種	法量 (mm)			重さ (g)	備考		
			最大長	最大幅	最大厚				
28	石鏃	黒曜石	17.5	11.5	2.5	0.35	剥片鏃の可能性あり。先端部及び脚部片方欠損。腰岳産		
29	つまみ形石器	黒曜石	22.2	12.1	6.0	1.38	折断なし。腰岳産		
30	スクレーパー	赤色頁岩	27.2	36.1	15.0	14.31	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
31	スクレーパー	黒曜石	17.0	38.0	6.5	5.07	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
32	スクレーパー	黒曜石	25.0	28.0	4.5	3.49	両側縁辺にスクレーパーエッジあり。		
33	スクレーパー	黒曜石	25.0	43.0	17.0	13.26	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
34	スクレーパー	黒曜石	30.0	45.0	9.0	12.99	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
35	スクレーパー	黒曜石	32.9	43.7	11.2	10.20	複数縁にスクレーパーエッジあり。腰岳産		
36	スクレーパー	黒曜石	21.0	25.0	5.5	3.64	複数縁にスクレーパーエッジあり。		
37	スクレーパー	黒曜石	30.3	29.2	8.3	6.13	石鏃の可能性あり。腰岳産		
38	スクレーパー	黒曜石	30.3	32.7	6.2	7.40	複数縁にスクレーパーエッジあり。腰岳産		
39	スクレーパー	黒曜石	26.4	27.5	8.3	6.22	複数縁にスクレーパーエッジあり。腰岳産		
40	スクレーパー	黒曜石	31.0	35.0	9.0	10.08	複数縁にスクレーパーエッジあり。		
41	スクレーパー	黒曜石	32.0	41.0	14.0	19.50	複数縁にスクレーパーエッジあり。		
42	スクレーパー	黒曜石	42.0	39.7	10.8	13.30	コアスクレーパー。一側縁にスクレーパーエッジあり。腰岳産		
43	スクレーパー	黒曜石	38.0	34.0	8.0	9.41	一側縁にスクレーパーエッジあり。		
44	スクレーパー	黒曜石	47.4	30.3	11.2	13.63	両側縁にスクレーパーエッジあり。腰岳産		
45	スクレーパー	安山岩	49.5	52.0	11.2	31.62	使用痕剥片の可能性あり。		
46	スクレーパー	安山岩	66.1	81.8	21.5	127.00	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
47	スクレーパー	安山岩	57.0	78.0	15.0	58.31	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
48	スクレーパー	安山岩	37.0	54.0	11.0	16.28	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
49	スクレーパー	安山岩	46.0	43.0	6.5	16.45	一縁辺にスクレーパーエッジあり。		
50	スクレーパー	安山岩	76.0	46.0	12.5	61.64	複数縁にスクレーパーエッジあり。		
51	スクレーパー	安山岩	74.0	51.0	9.0	43.73	複数縁にスクレーパーエッジあり。		

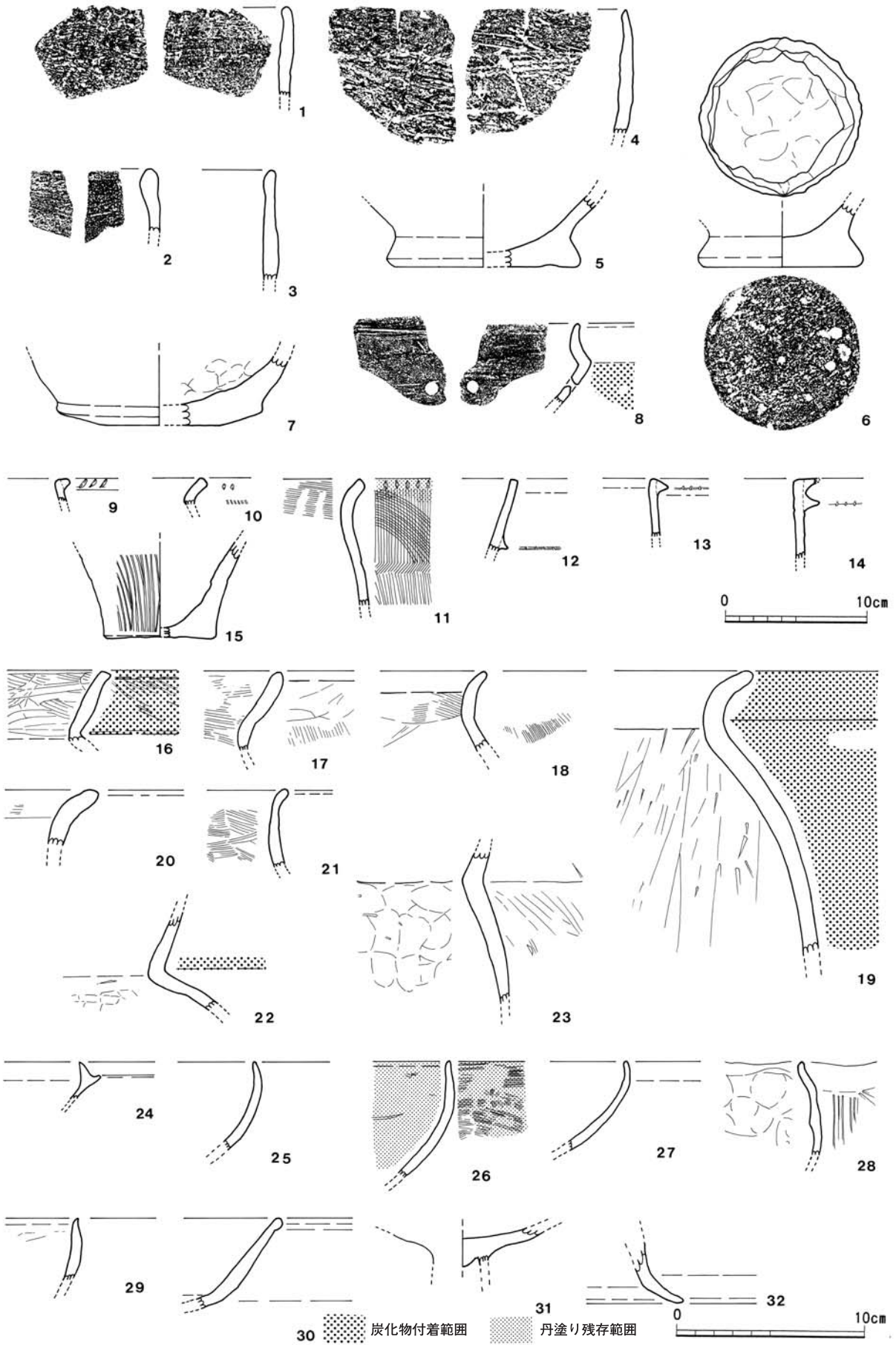
第4表 ④区IV層遺物観察表



第20図 ⑤区III層出土遺物 (S=1/3)

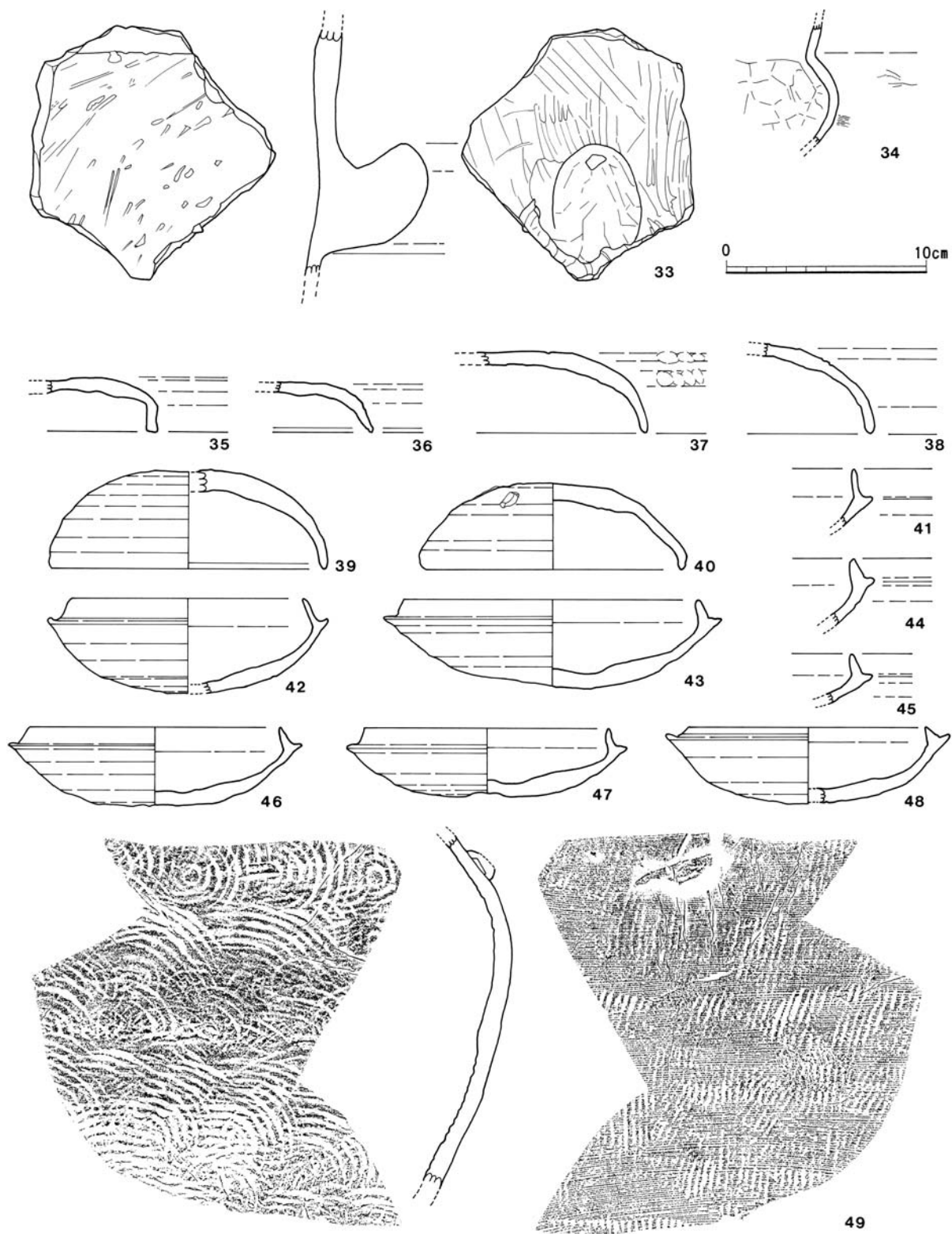
図版番号	種類	器種	調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
1	土師器	高坏	ナデ	ナデ	やや良好	灰白色	灰白色	やや粗雑	長石・赤色粒子
2	白磁	碗	施釉/露胎	施釉	良好	灰白色	灰白色	精緻	

第5表 ⑤区III層遺物観察表

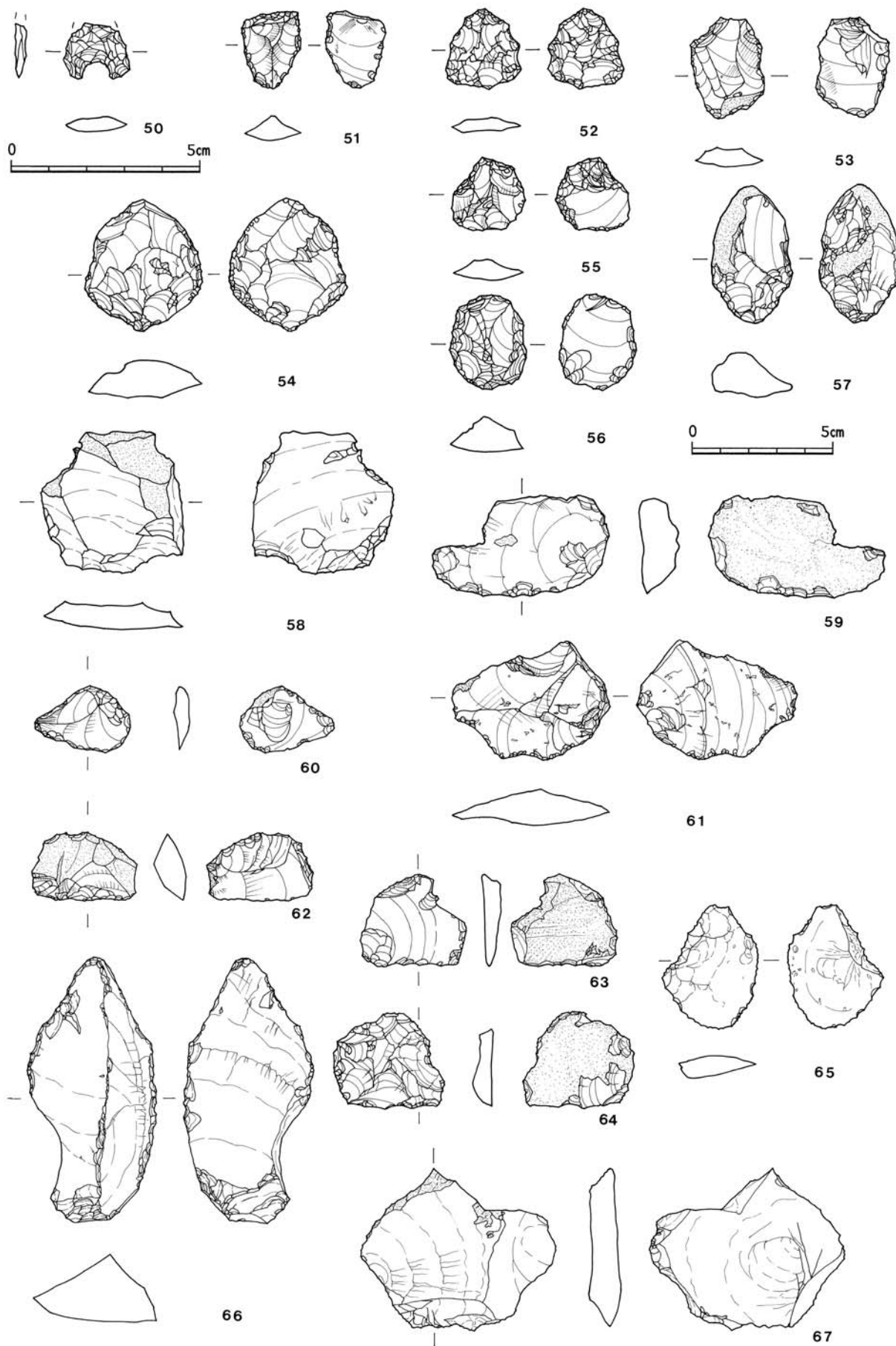


第21図 ⑥区Ⅲ層出土遺物(1) (S=1/3、9~15はS=1/4)

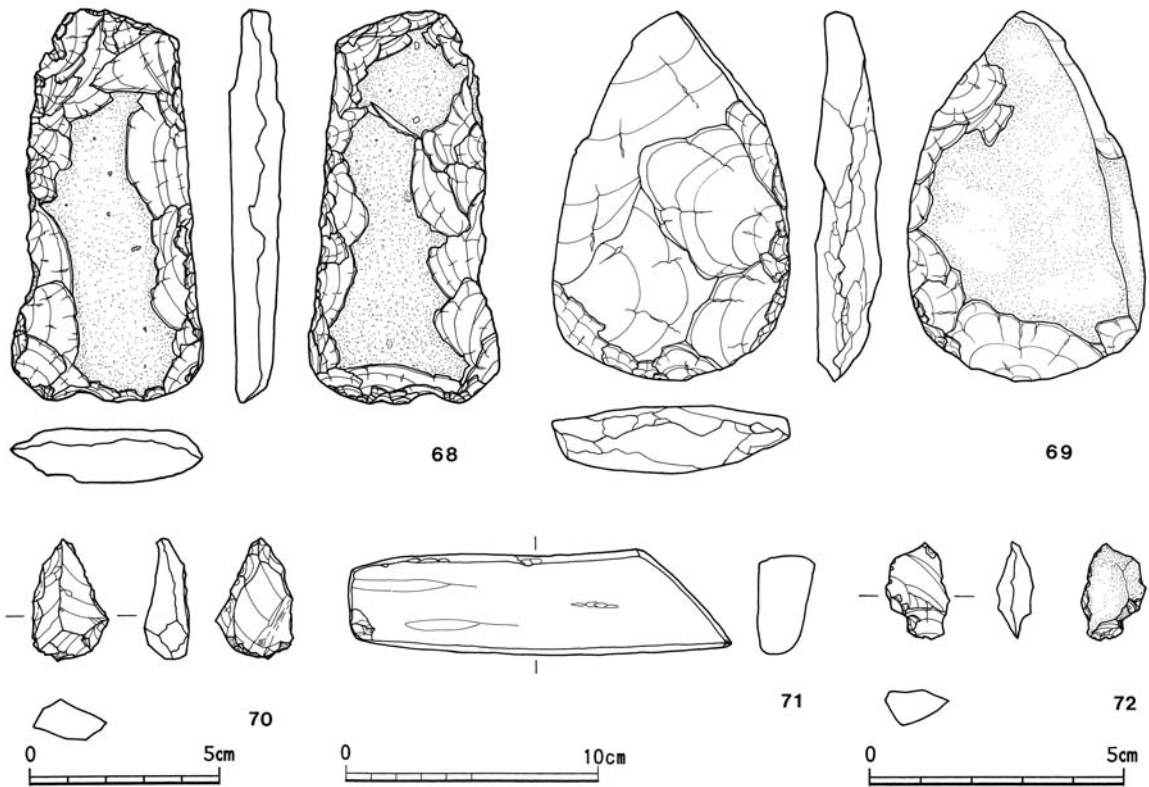
72はつまみ形石器。④区東側(B-2-15, B-3-11・12・15・16区) から2・15・22・25が、西側(B-2-4・5・10区)から1・16~21・23・24・26~49が出土した。



第22図 ⑥区Ⅲ層出土遺物(2) (S=1/3)



第23图 ⑥区Ⅲ層出土遺物(3) (S=1/2、50以上S=2/3)



第24図 ⑥区Ⅲ層出土遺物(4) (S=1/3、70はS=1/2、72はS=2/3)

図版番号	種類	器種	調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
1	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	不良	にぶい赤褐色	黒褐色	粗雑	雲母・滑石・白色粒子・黒色粒子
2	縄文土器	深鉢	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	良好	灰黄褐色	灰黄色	やや精緻	長石・石英・角閃石・雲母
3	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	赤褐色	赤褐色	やや精緻	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子
4	縄文土器	深鉢	貝殻条痕	貝殻条痕	不良	にぶい橙色	にぶい黄褐色	粗雑	石英・角閃石
5	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	橙色	黄灰色	やや粗雑	石英・雲母
6	縄文土器	深鉢	ナデ	ナデ	やや良好	明赤褐色	にぶい橙色	やや精緻	長石・石英・角閃石・雲母・赤色粒子
7	縄文土器	深鉢	ナデ	指オサエ	やや不良	橙色	灰黄褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母・赤色粒子
8	縄文土器	浅鉢	ハケ目ナデ消し/ナデ	ハケ目ナデ消し	良好	黒褐色	浅黄色	やや精緻	長石・石英・角閃石・雲母
9	縄文土器	深鉢	刻み/ナデ	ナデ	やや不良	灰黄褐色	にぶい橙色	やや粗雑	長石・石英・雲母
10	弥生土器	甕	刻み/ナデ/ハケ目	ナデ	やや不良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母
11	弥生土器	甕	ナデ/刻み/ハケ目	ナデ/ハケ目	やや不良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母
12	弥生土器	甕	ナデ/刻み	ナデ	やや不良	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石
13	弥生土器	甕	刻み/ナデ	ナデ	やや不良	灰白色	灰白色	やや粗雑	長石・石英・雲母
14	弥生土器	甕	刻み/ナデ	ナデ	やや不良	灰白色	褐色	やや粗雑	長石・石英・角閃石・雲母
15	弥生土器	甕	ハケ目/ナデ	ナデ	やや不良	にぶい褐色	にぶい褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母
16	土師器	甕/壺	ナデ/ハケ目	ハケ目	良好	赤褐色	黒褐色	やや精緻	石英・白色粒子・黒色粒子
17	土師器	甕/壺	ナデ	ハケ目	やや不良	赤色	褐色	粗雑	長石・石英・雲母・白色粒子
18	土師器	甕/壺	ハケ目/ナデ	ハケ目/ナデ	良好	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	角閃石・黒色粒子・赤色粒子
19	土師器	甕/壺	横ナデ/ハケ目	横ナデ/削り	良好	にぶい褐色	黒色	粗雑	石英・赤色粒子・砂粒
20	土師器	甕/壺	ナデ	ナデ	やや不良	灰白色	灰白色	粗雑	石英・赤色粒子・砂粒
21	土師器	甕/壺	ハケ目ナデ消し	ハケ目ナデ消し	良好	にぶい褐色	褐色	やや精緻	長石・石英・黒色粒子・赤色粒子
22	土師器	甕/壺	ナデ	指オサエ/ナデ	良好	明赤褐色	にぶい赤褐色	やや粗雑	石英・雲母・黒色粒子
23	土師器	甕/壺	ナデ	指オサエ/ナデ	やや良好	にぶい褐色	灰褐色	やや粗雑	白色粒子・赤色粒子
24	土師器	坏身	ナデ	ナデ	良好	灰白色	灰白色	やや粗雑	白色粒子・黒色粒子・砂粒
25	土師器	坏身	ナデ	ナデ	やや不良	明赤褐色	明赤褐色	やや粗雑	白色粒子・黒色粒子
26	土師器	坏身	ハケ目	ナデ	良好	明赤褐色	明赤褐色	精緻	石英・雲母・白色粒子・黒色粒子
27	土師器	坏身	ハケ目/ナデ	ナデ	やや不良	にぶい赤褐色	褐色	やや精緻	黒色粒子・赤色粒子
28	土師器	鉢	横ナデ/縦ナデ	ナデ/指オサエ	やや不良	黒褐色	黒褐色	やや粗雑	石英・白色粒子
29	土師器	鉢	ナデ	ナデ	やや良好	褐色	にぶい赤褐色	やや粗雑	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子
30	土師器	高坏	ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	やや粗雑	長石・黒色粒子・赤色粒子
31	土師器	高坏	ナデ	ナデ	良好	褐色	褐色	やや粗雑	白色粒子・赤色粒子
32	土師器	高坏	ナデ	ナデ	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	やや粗雑	石英・黒色粒子・赤色粒子
33	土師器	飯甕	ハケ目/ナデ	横ナデ/削り	良好	にぶい褐色	にぶい褐色	粗雑	石英・白色粒子・黒色粒子
34	土師器	手捏壺	ハケ目	ナデ/指オサエ	やや不良	にぶい褐色	にぶい赤褐色	やや粗雑	石英・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子
35	須恵器	环蓋	回転ナデ/指オサエ/横ナデ	ナデ/指オサエ/横ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや精緻	長石・石英・小礫
36	須恵器	环蓋	回転ナデ/斜位ハケ目/ナデ/指オサエ/横ナデ	ナデ/指オサエ/横ナデ	やや良好	黄灰色	黄灰色	やや粗雑	長石・雲母・黒色粒子・赤色粒子・小礫
37	須恵器	环蓋	回転ナデ/指オサエ/横ナデ/ナデ	ナデ/指オサエ/横ナデ	やや良好	黄灰色	黄灰色	やや粗雑	長石・石英・雲母・小礫
38	須恵器	环蓋	回転ナデ/指オサエ/ナデ	ナデ/指オサエ/ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや精緻	長石・石英・雲母・小礫
39	須恵器	环蓋	回転ナデ/指オサエ/ナデ	ナデ/指オサエ	やや良好	灰白色	灰黄色	やや粗雑	長石・石英・小礫
40	須恵器	环蓋	回転ナデ/指オサエ/ナデ	ナデ/指オサエ	やや良好	黒色	オリーブ黒色	やや粗雑	長石・石英・小礫
41	須恵器	环蓋	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや不良	灰黄色	浅黄色	やや粗雑	長石・石英・小礫
42	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや粗雑	長石・石英・雲母・小礫
43	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	灰白色	灰白色	やや粗雑	長石・石英・雲母・黒色粒子・小礫
44	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	褐色	にぶい黄褐色	やや粗雑	長石・石英・雲母・小礫
45	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや精緻	長石・黒色粒子・小礫
46	須恵器	坏身	指オサエ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや粗雑	長石・雲母・小礫
47	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ/斜位ハケ目ナデ	やや良好	灰白色	灰色	やや粗雑	長石・石英・雲母・黒色粒子・小礫
48	須恵器	坏身	指オサエ/ナデ/横ナデ/回転ナデ	指オサエ/ナデ/横ナデ	やや良好	灰色	灰色	やや粗雑	長石・石英・雲母・小礫
49	須恵器	甕	タタキ目/カキ目	当て具痕	やや良好	灰色	灰赤色	やや粗雑	長石・石英・黒色粒子・小礫

第6表 ⑥区Ⅲ層遺物観察表(1)

図版 番号	器種	石種	法量 (mm)			重さ (g)	備考
			最大長	最大幅	最大厚		
50	石鏃	黒曜石	15.0	18.0	4.0	0.80	先端部欠損
51	スクレーパー	黒曜石	26.0	21.0	8.5	4.12	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
52	スクレーパー	黒曜石	29.0	27.0	5.5	3.38	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
53	スクレーパー	黒曜石	36.0	25.0	6.0	6.78	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
54	スクレーパー	黒曜石	46.0	41.0	13.5	29.35	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
55	スクレーパー	黒曜石	26.0	26.0	8.0	3.88	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
56	スクレーパー	黒曜石	34.0	27.0	12.5	11.06	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
57	スクレーパー	黒曜石	48.0	28.0	18.0	21.03	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
58	スクレーパー	安山岩	50.0	49.0	9.0	26.84	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
59	スクレーパー	黒曜石	38.0	63.0	14.0	29.42	一縁辺にスクレーパーエッジあり
60	スクレーパー	黒曜石	22.0	33.0	5.0	3.81	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
61	スクレーパー	黒曜石	42.0	56.0	13.0	20.63	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
62	スクレーパー	黒曜石	24.0	37.5	10.0	10.33	二側縁辺にスクレーパーエッジあり
63	スクレーパー	黒曜石	32.0	36.0	6.0	9.92	一縁辺にスクレーパーエッジあり
64	スクレーパー	黒曜石	33.0	39.0	7.0	13.72	二側縁辺にスクレーパーエッジあり
65	スクレーパー	安山岩	44.0	34.0	7.0	9.20	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
66	スクレーパー	安山岩	94.0	45.0	34.0	82.00	複数縁辺にスクレーパーエッジあり
67	スクレーパー	安山岩	57.0	69.0	11.0	50.00	一縁辺にスクレーパーエッジあり
68	打製石斧	安山岩	154.0	75.0	21.5	305.00	
69	打製石斧	安山岩	145.0	93.0	26.0	425.00	
70	石槍	安山岩	31.0	20.0	12.0	6.51	
71	砥石	砂岩	147.0	41.0	22.0	230.00	
72	つまみ形石器	黒曜石	19.0	12.0	7.0	1.12	

第7表 ⑥区Ⅲ層遺物観察表(2)



平成22年度④区調査風景

(5) ⑦区Ⅰ・Ⅱ層出土遺物(第25～28図、第8・9表、図版12・13)

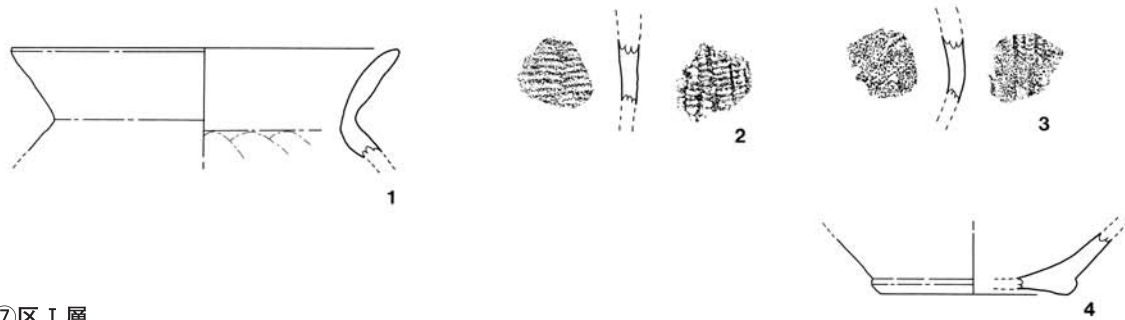
出土遺物は、石器・縄文土器・土師器・須恵器・黒色土器・製塩土器・瓦質土器・貿易陶磁器・銭貨等約956点である。そのうち92点を掲載する。

① Ⅰ層出土遺物

1は土師器の壺である。口縁部から頸部にかけて残存し、頸部内面に指オサエが残り、外面にはハケ目ナデ消しが施され、口縁部は外反する。2・3は玄界灘式製塩土器と思われる。外面に粗いタタキの痕が認められる。4は越州窯系青磁の碗の底部である。内面の貫入が著しく、見込みに小さな目跡、畳付には砂目跡が残る。また、底部には糸切り痕が残る。

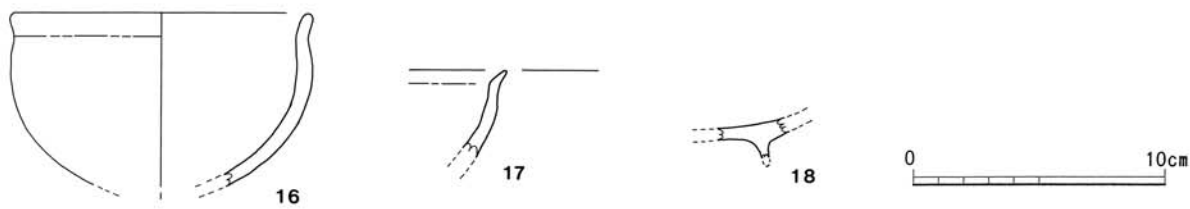
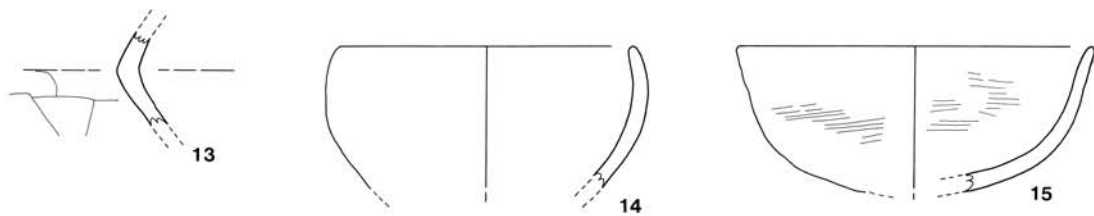
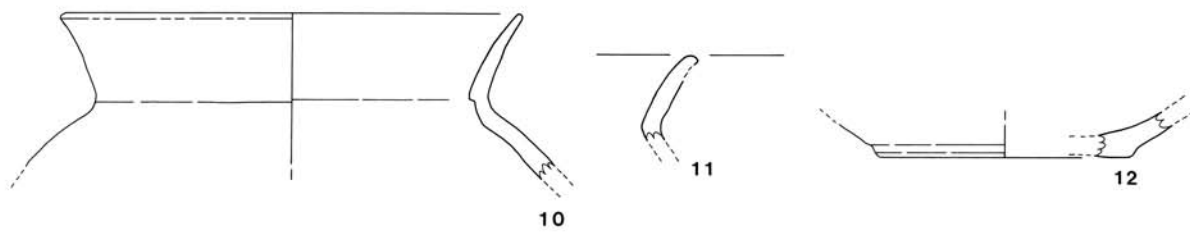
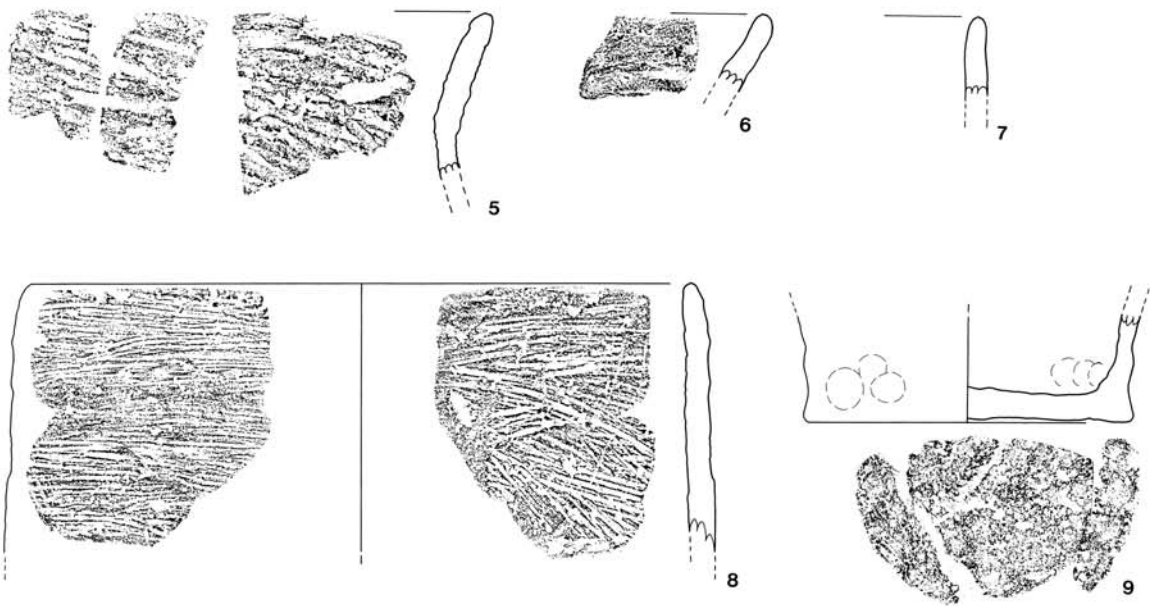
② Ⅱ層出土遺物

5～9は縄文土器である。5・6は後期の深鉢である。5は口縁部で、内・外面に条痕ナデ消しの痕がみられる。6は口縁部で、波状口縁の可能性もある。7・8・9は晩期の深鉢である。7は口縁部で、ほぼ直立する。8は口縁部から胴部上半にかけて残存し、内・外面に貝殻条痕が残る。9は平底の底部で、内・外面に指オサエが施される。10～27は土師器。10～13は壺である。10は口縁部から頸部にかけて残存し、口縁部に向けて器壁は薄くなり、外反する。内面に粘土を貼り付けた痕が残る。11は口縁部で、「く」の字形に屈曲し、口縁部は外反する。12は平底の底部である。13は頸部で、内面にヘラ削りを施す。14～18は埴である。14～16は口縁部から体部にかけて残存する。14は口縁部が内彎する。15は内・外面にハケ目が施され、口縁部はやや外反する。16は体部は内彎するが、口縁部はやや外反する。17は口縁部が体部よりも薄く外反する。18は底部で、高台は低く小さめである。19は坏の底部で、糸切り痕が残る。20～27は高坏である。20は坏底部から脚部が残存し、坏と脚部の接合部内面に指オサエが確認される。21・22は、脚部が欠損している。23の内面は欠損し、坏と脚部の接合部内面には指オサエが認められ、外面には丹塗りの痕跡が認められる。24・25は脚部である。24は外面にハケ目が施される。25は脚部中央にわずかに膨らみを持つ。26・27は裾部で、先端は断面方形を呈する。28・29は玄界灘式製塩土器と思われる。いずれも、外面に粗いタタキの痕がみられる。29は内面にわずかに炭化物が付着している。30は土師器で内面に指オサエが残るが、器種は不明である。31～36は瓦質土器である。詳しくは、後述のSR-32 1層出土遺物を参照。31は壺で、口縁部は短く、外反する。32～35は埴である。32は体部から底部が残存し、丸底を呈する。33は底部で、外面に丹塗りの痕跡が認められ、高台は断面方形形状である。34は底部で、高台は低く小さめである。35は底部で、高台部分が欠損する。36は皿の口縁部で、外反気味に開く。37～52は須恵器である。37～42は壺である。37は底部で、内面に同心円文の当て具痕、外面に格子目タタキの痕が残る。38は口縁部で、ほぼ直立に短く立ち上がり、外面に灰オリーブ色の釉薬が掛けられている。39は口縁部で端に小さいかえりが施され、外反する。40は胴部である。内面に当て具痕が残る。41は平底の底部で、内面に自然釉の付着が認められる。42は平底の底部である。43は坏で、口縁部は内彎する。44は坏身で、かえりは小さく体部は丸みを帯びる。45は坏身で、蓋受け立ち上がりはわずかに内彎する。46は高坏の坏部。上半に波状文が施され、脚部が欠損する。47は頭部と思われるが器種は不明。外反する口縁部の端に小さいかえりが施される。内面には自然釉の付着が認められる。48は頭部と思われるが器種は不明。49は高坏の脚部と思われ、波状文が施される。50は器台である。脚部下半部に波状文が施される。51・52は土師質須恵器である。51は壺の口縁部で、短く外反する。また外面には、オリーブ黄色の自然釉がわ

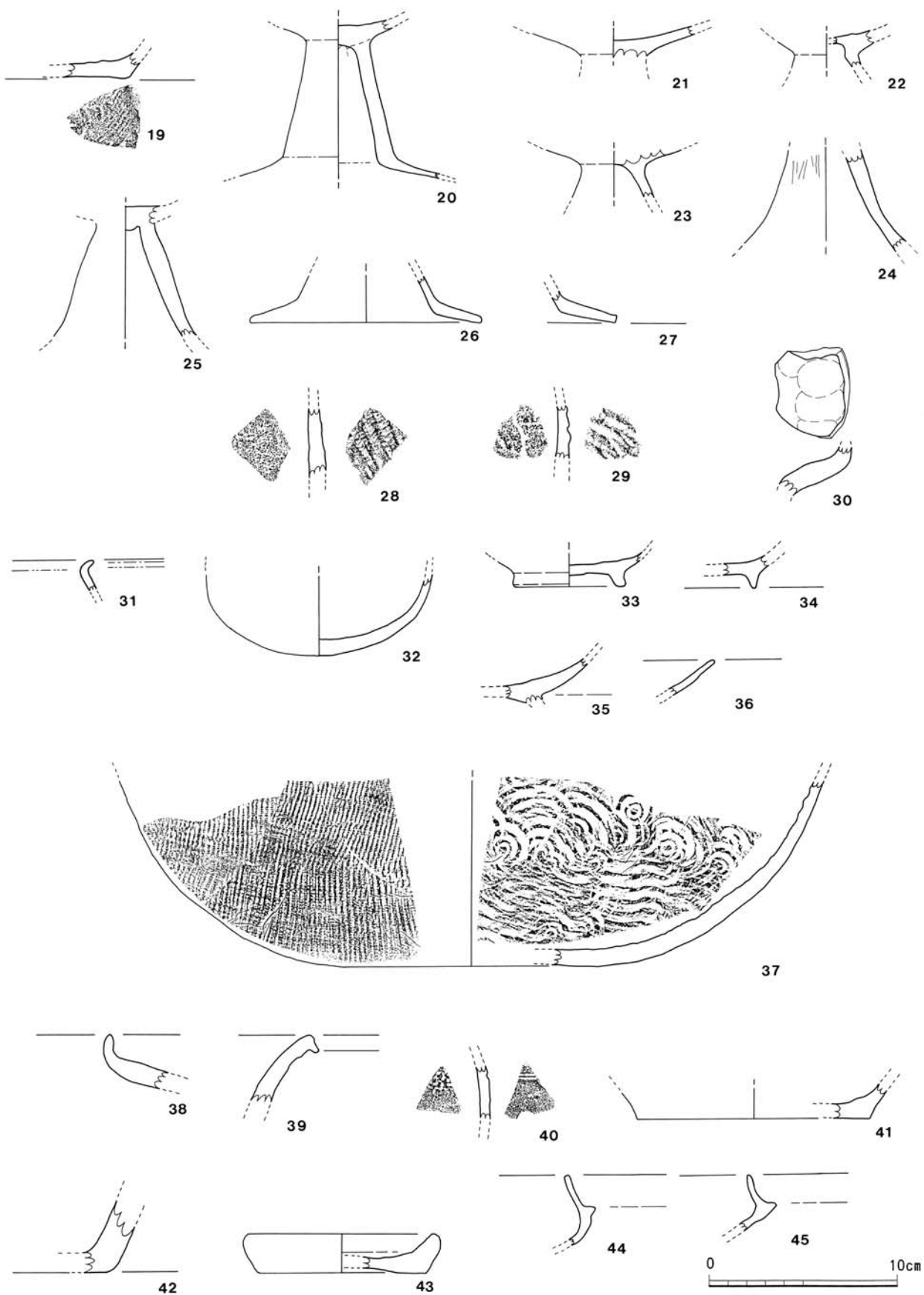


⑦区 I 層

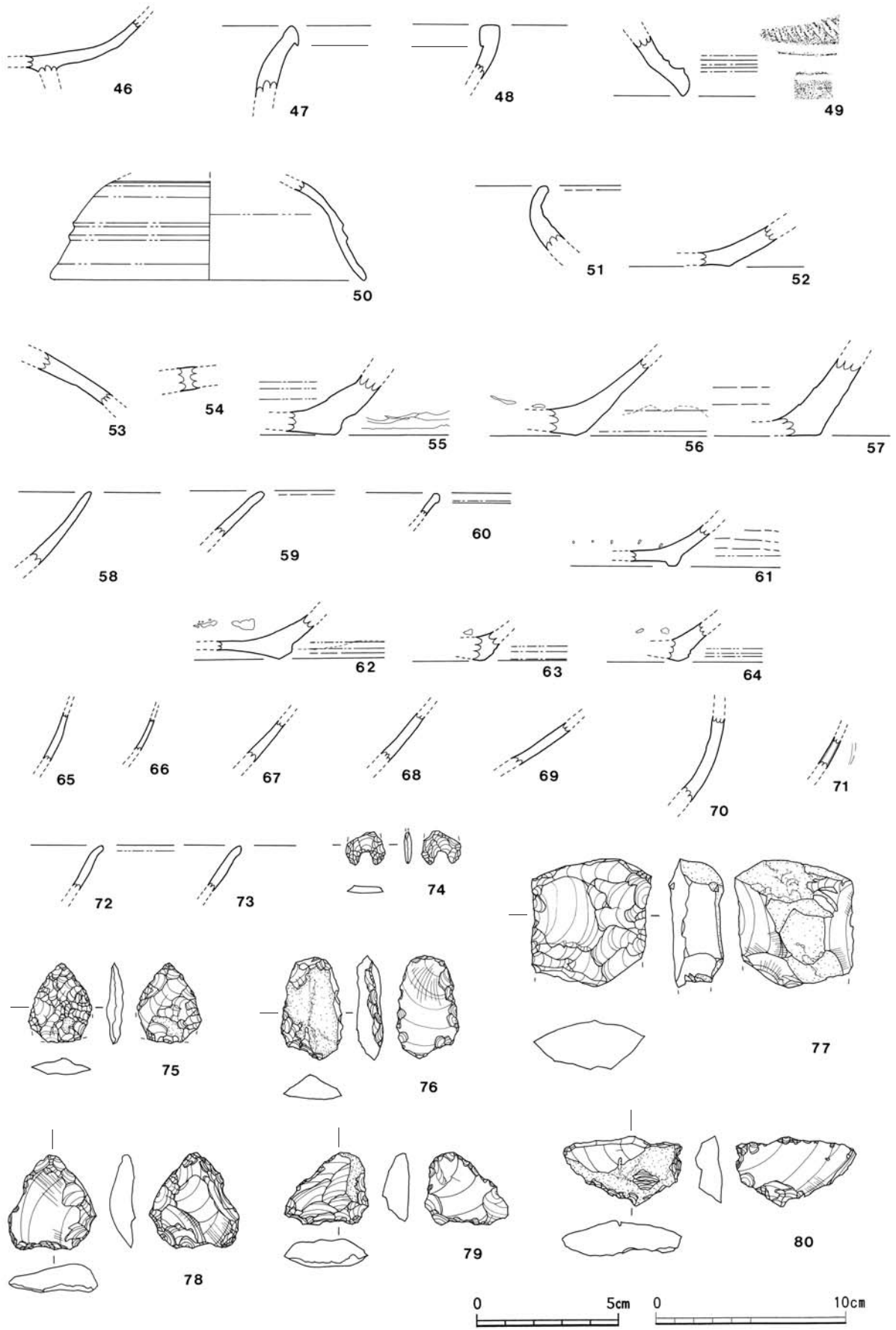
⑦区 II 層



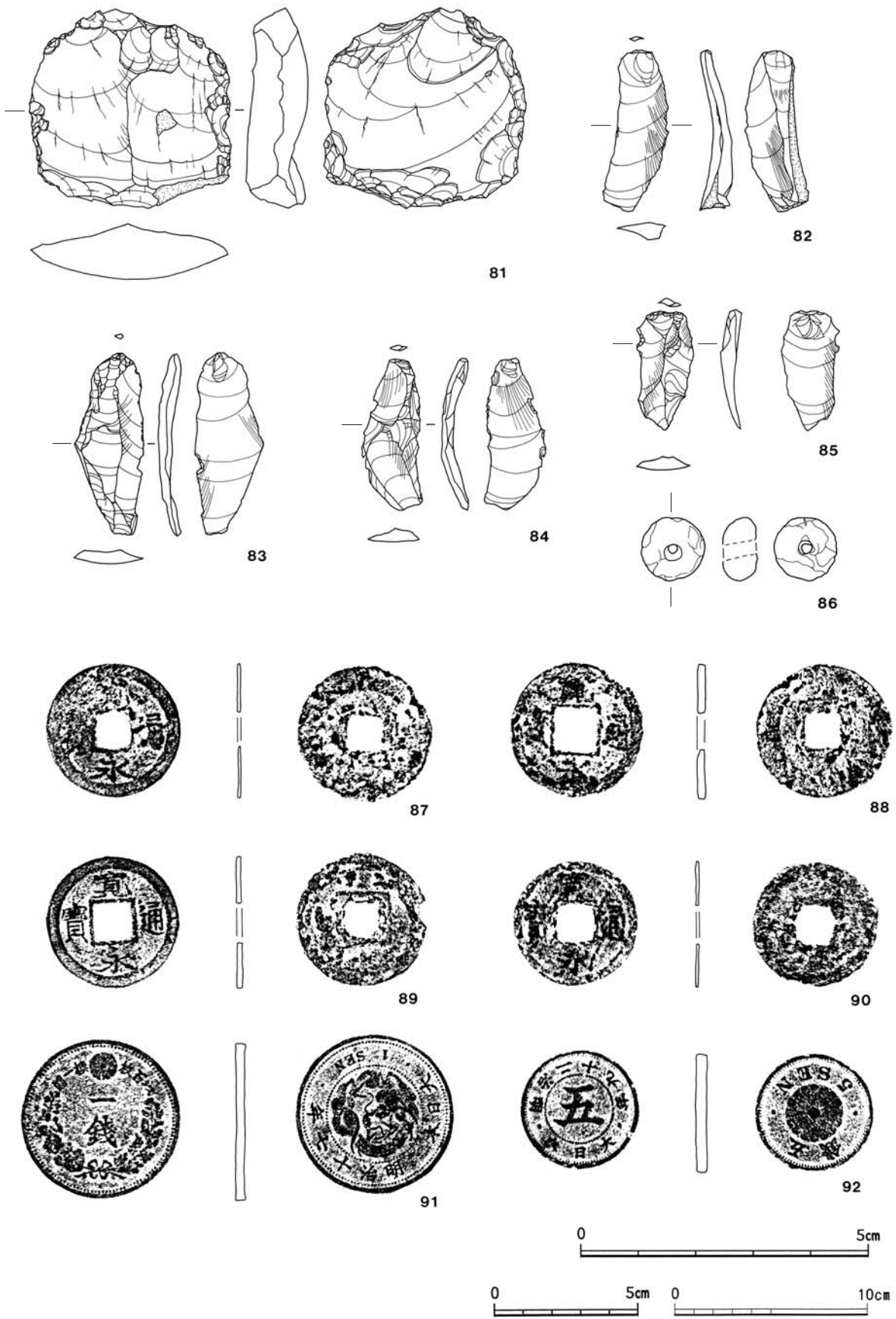
第25图 ⑦区 I · II 層出土遺物(1) (S=1/3)



第26图 ⑦区 I · II 层出土遗物(2) (S=1/3)



第27図 ⑦区 I・II層出土遺物(3) (S=1/3, 74~80) (S=1/2)



第28図 ⑦区 I・II層出土遺物(4) (S=1/2, 86はS=1/3, 87~92はS=1/1)

図版 番号	種類	器種	出土地区	層位	法量(cm) ()は復元			調整		色調		焼成	胎土	備考
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
1	土師器	壺	A-2-22ア	1	(15.1)	4.2	-	ナデ/ハケ目ナ デ消し	ナデ/指オサエ	にぶい黄橙色	灰白色	やや良好	やや精緻(長石・赤色粒子・黒色粒子)	
2	玄界灘式 製塩土器	-	A-2-22イ	1	-	2.5	-	タタキ目	ナデ	橙色	黒褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・石英)	
3	玄界灘式 製塩土器	-	A-2-22イ	1	-	2.7	-	タタキ目	ナデ	にぶい橙色	灰褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石)	
4	青磁	碗	A-2-22イ	1	-	2.4	(7.4)	施釉/露胎/ 砂目	施釉	オリーブ黄色	灰黄色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
5	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	2	-	6.7	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	にぶい橙色	にぶい橙色	やや不良	粗雑(角閃石・石英・白色粒子・雲母)	後期
6	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	2	-	3.0	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	やや不良	粗雑(長石・雲母)	後期
7	縄文土器	深鉢	B-2-3ア	2	-	3.3	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	灰白色	不良	粗雑(雲母・石英)	晩期
8	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	2	(26.0)	10.6	-	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい赤褐色	暗赤褐色	やや不良	粗雑	晩期
9	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	2	-	4.2	(12.8)	ナデ/指オサエ	ナデ/指オサエ	橙色	浅黄色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石)	晩期
10	土師器	壺	A-2-22エ	2	(18.0)	6.0	-	ナデ	ナデ	橙色	橙色	不良	粗雑(雲母・長石・赤色粒子)	
11	土師器	壺	A-2-22エ	2	-	3.4	-	ナデ	ナデ	褐色	浅黄色	やや不良	やや粗雑(雲母・角閃石・長石・ 石英・白色粒子・赤色粒子)	
12	土師器	壺	A-2-22エ	2	-	1.3	(10.0)	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	やや良好	やや精緻(雲母・長石・赤色粒子)	
13	土師器	壺	A-2-22イ	2	-	3.7	-	ナデ	ナデ/ハラ削り	明褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑 (雲母・長石・赤色粒子・白色粒子)	
14	土師器	碗	A-2-22イ	2	(11.6)	5.6	-	ナデ	ナデ	橙色	橙色	やや不良	やや粗雑 (雲母・長石・石英・白色粒子・赤色粒子)	
15	土師器	碗	A-2-22エ	2	(14.0)	5.7	-	ハケ目	ハケ目	浅黄褐色	淡赤褐色	不良	粗雑(雲母・赤色粒子)	
16	土師器	碗	A-2-22イ	2	11.8	6.8	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑 (雲母・長石・石英・赤色粒子・白色粒子)	
17	土師器	碗	A-2-22イ	2	-	3.4	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	浅黄褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・赤色粒子)	
18	土師器	碗	A-2-22エ	2	-	1.6	-	ナデ	ナデ	浅黄色	浅黄色	やや良好	やや精緻 (雲母・長石・白色粒子・赤色粒子)	
19	土師器	坏	A-2-22ウ	2	-	1.4	-	ナデ	ナデ	浅黄褐色	橙色	やや良好	やや精緻(雲母・赤色粒子)	
20	土師器	高坏	A-2-22イ	2	-	8.5	-	ナデ	ナデ/指オサエ	橙色	にぶい橙色	良好	やや精緻(石英・長石・雲母・黒色粒子)	
21	土師器	高坏	A-2-22イ	2	-	1.6	-	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石)	
22	土師器	高坏	A-2-22エ	2	-	1.9	-	ナデ	ナデ	明褐色	にぶい橙色	やや不良	やや粗雑(雲母・赤色粒子・白色粒子)	
23	土師器	高坏	A-2-22エ	2	-	2.5	-	ナデ	指オサエ	橙色	-	やや不良	やや粗雑 (雲母・長石・白色粒子・赤色粒子)	丹塗り
24	土師器	高坏	A-2-22イ	2	-	4.9	-	ナデ/ハケ目	ナデ	橙色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・石英・白色粒子)	
25	土師器	高坏	A-2-22イ	2	-	6.9	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	やや不良	やや粗雑(雲母・白色粒子・赤色粒子)	
26	土師器	高坏	A-2-22ウ	2	-	2.5	(12.4)	ナデ	ナデ	橙色	橙色	やや不良	やや粗雑 (雲母・長石・赤色粒子・白色粒子)	
27	土師器	高坏	A-2-22イ	2	-	1.8	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・赤色粒子)	
28	玄界灘式 製塩土器	-	A-2-22ウ	2	-	3.6	-	タタキ目	ナデ	褐色	灰褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・石英・白色粒子)	
29	玄界灘式 製塩土器	-	A-2-22エ	2	-	2.9	-	タタキ目	ナデ	橙色	灰褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・白色粒子)	
30	土師器	不明	A-2-22イ	2	-	2.5	-	ナデ	指オサエ	灰白色	褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・長石・白色粒子)	
31	瓦質土器	壺	A-2-22エ	2	-	1.7	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや良好	やや精緻(雲母・石英・白色粒子)	
32	瓦質土器	碗	A-2-22イ	2	-	4.3	1.7	ナデ	ナデ	褐色	灰黄褐色	やや良好	やや精緻(雲母・角閃石・白色粒子)	
33	瓦質土器	碗	B-2-2イ	2	-	1.8	(5.5)	ナデ	ナデ	橙色	黒褐色	やや良好	やや精緻(長石・雲母・黒色粒子)	丹塗り
34	瓦質土器	碗	A-2-22ウ	2	-	1.7	-	ナデ	ナデ	淡黄色	黄灰色	やや良好	やや精緻(雲母・白色粒子)	
35	瓦質土器	碗	A-2-22ウ	2	-	2.4	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	黒色	やや良好	やや精緻(雲母)	
36	瓦質土器	皿	A-2-21エ	2	-	1.8	-	ナデ	ナデ	灰白色	灰褐色	やや良好	やや精緻(長石・雲母・石英)	
37	須恵器	壺	A-2-22イ	2	-	9.9	(13.6)	格子目タタキ	当て具痕	灰白色	灰白色	やや良好	やや精緻	
38	須恵器	壺	A-2-22エ	2	-	2.9	-	施釉	露胎	灰オリーブ色	灰白色	やや良好	やや精緻	
39	須恵器	壺	A-2-22ウ	2	-	3.5	-	ナデ	ナデ	灰白色	灰色	やや不良	やや粗雑(雲母・白色粒子)	
40	須恵器	壺	A-2-22ウ	2	-	2.8	-	ナデ/当て具痕	ナデ	青灰色	灰白色	良好	やや精緻(白色粒子)	
41	須恵器	壺	A-2-22エ	2	-	1.5	(12.4)	ナデ	自然釉	灰白色	灰色	やや不良	やや粗雑(石英・白色粒子)	
42	須恵器	壺	A-2-22エ	2	-	3.3	-	ナデ	ナデ	明オリーブ灰色	明青灰色	やや良好	やや精緻(雲母・石英・長石・白色粒子)	
43	須恵器	坏	A-2-22ウ	2	10.0	2.1	9.0	ナデ	ナデ	灰白色	灰白色	やや良好	やや精緻(白色粒子)	
44	須恵器	坏身	A-2-22イ	2	-	3.5	-	ナデ	ナデ	灰白色	灰白色	良好	精緻(白色粒子)	
45	須恵器	坏身	A-2-22エ	2	-	3.0	-	ナデ	ナデ	灰白色	灰白色	やや良好	やや精緻(白色粒子)	
46	須恵器	高坏	A-2-22エ	2	-	2.8	-	波状文/ナデ	ナデ	明青灰色	灰白色	やや良好	やや精緻(白色粒子)	
47	須恵器	頭部	A-2-22エ	2	-	3.8	-	露胎	自然釉	浅黄色	灰白色	やや良好	やや精緻	
48	須恵器	頭部	A-2-22エ	2	-	2.9	-	ナデ	ナデ	緑灰色	灰色	やや良好	やや精緻(白色粒子)	
49	須恵器	脚部	B-2-2ウ	2	-	3.2	-	波状文/ナデ	ナデ	灰色	オリーブ黄色	やや良好	やや精緻(長石)	
50	須恵器	器台	A-2-22エ	2	-	5.2	(16.4)	ナデ/波状文	ナデ	灰白色	灰白色	良好	やや精緻(白色粒子・黒色粒子)	

第8表 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層遺物観察表(1)

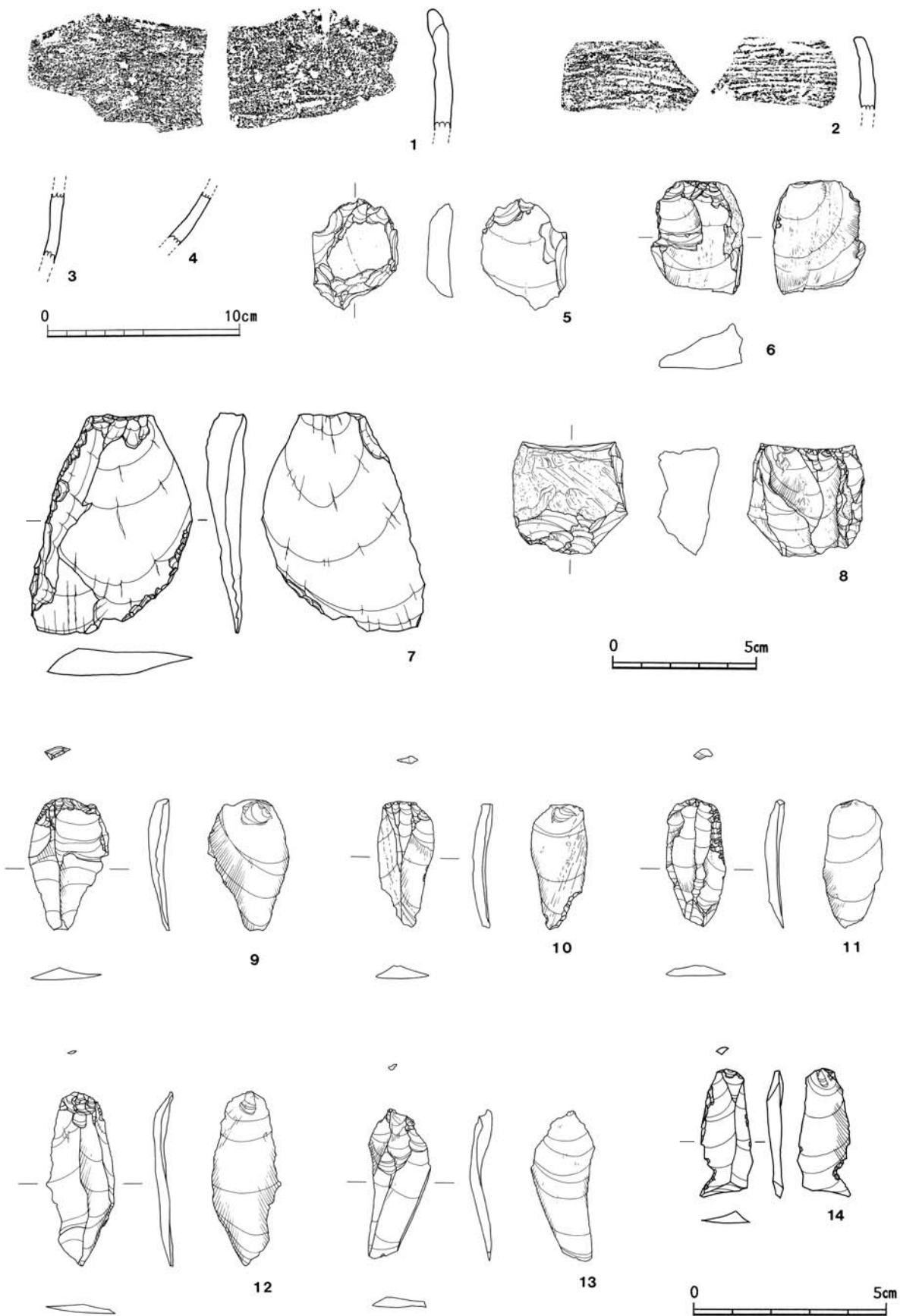
図版 番号	種類	器種	出土地区	層位	法量(cm) ()は復元			調整		色調		焼成	胎土	備考
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
51	土師質須恵器	壺	A-2-22エ	2	-	3.4	-	露胎	露胎	オリーブ黄色	灰白色	やや良好	やや精緻	
52	土師質須恵器	高坏	A-2-22エ	2	-	2.2	-	ナデ	ナデ	橙色	明褐色	やや良好	やや精緻(雲母・白色粒子・赤色粒子)	
53	青磁	壺	A-2-22エ	2	-	2.8	-	施釉	露胎	にぶい黄橙色	浅黄色	やや良好	やや精緻(雲母)	越州Ⅱ
54	青磁	壺	A-2-22ア	2	-	1.3	-	露胎	-	灰黄色	灰白色	やや良好	やや精緻(雲母)	越州Ⅱ
55	青磁	壺	A-2-22エ	2	-	3.2	-	露胎	施釉	浅黄色	灰白色	やや良好	やや粗雑(白色粒子・黒色粒子)	越州Ⅱ
56	青磁	碗?	A-2-22ウ	2	-	4.0	-	施釉/露胎	施釉	明黄褐色	にぶい黄色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
57	青磁	壺?	A-2-23ア	2	-	4.1	-	-	-	浅黄色	黄橙色	良好	やや粗雑	越州Ⅱ
58	青磁	碗	A-2-22ウ	2	-	3.9	-	施釉	施釉	灰白色	にぶい黄色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
59	青磁	碗	A-2-23ア	2	-	2.4	-	-	-	浅黄色	浅黄色	良好	やや精緻(白色粒子・黒色粒子)	越州Ⅱ
60	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	1.2	-	施釉	施釉	灰白色	灰白色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
61	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	2.2	-	施釉	露胎	灰白色	黄褐色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
62	青磁	碗	A-2-22ウ	2	-	2.3	-	施釉/露胎	施釉	灰白色	にぶい黄色	良好	やや精緻(黒色粒子)	越州Ⅱ
63	青磁	碗	A-2-22ウ	2	-	1.5	-	露胎	-	灰白色	灰白色	やや良好	やや粗雑(白色粒子・黒色粒子)	越州Ⅱ
64	青磁	碗	A-2-22	2	-	2.1	-	露胎	施釉	浅黄色	浅黄色	やや良好	やや粗雑(白色粒子)	越州Ⅱ
65	青磁	碗	A-2-22イ	2	-	2.6	-	施釉	施釉	にぶい黄色	にぶい黄色	良好	精緻	越州
66	青磁	碗	A-2-22ウ	2	-	1.8	-	施釉	施釉	浅黄色	にぶい黄色	やや良好	やや精緻(黒色粒子)	越州
67	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	2.3	-	-	-	灰白色	灰白色	良好	精緻	越州
68	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	2.6	-	施釉	施釉	灰オリーブ色	オリーブ黄色	良好	精緻	越州
69	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	2.3	-	施釉/露胎	施釉	灰白色	灰白色	やや良好	やや精緻	越州
70	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	4.6	-	露胎	露胎	灰白色	灰白色	やや良好	やや精緻	越州
71	青磁	碗	A-2-22ウ	2	-	1.6	-	施釉	施釉	灰オリーブ色	灰オリーブ色	良好	精緻(黒色粒子)	龍泉窯
72	青磁	碗	A-2-22エ	2	-	2.4	-	施釉	施釉	浅黄色	オリーブ灰色	良好	やや精緻(黒色粒子)	朝鮮系?
73	青磁	碗	A-2-23ウ	2	-	2.5	-	施釉	施釉	にぶい黄色	灰黄色	良好	やや精緻(白色粒子)	朝鮮系?
図版 番号	器種	出土地区	層位	石種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考					
74	剥片鎌	A-2-23ウ	2	黒曜石	11.0	14.0	2.5	0.29						
75	石鎌	B-2-3イ	2	黒曜石	29.0	23.0	6.0	2.56						
76	スクレーパー	B-2-3ア	2	黒曜石	36.0	22.0	9.0	6.34	コアスクレーパー					
77	スクレーパー	A-2-23ウ	2	黒曜石	45.0	40.0	17.0	38.26	コアスクレーパー					
78	スクレーパー	A-2-22エ	2	黒曜石	33.5	31.0	8.5	8.66						
79	スクレーパー	A-2-22ウ	2	黒曜石	25.0	29.0	10.0	6.33						
80	スクレーパー	A-2-22イ	2	黒曜石	25.0	41.5	9.0	8.94						
81	スクレーパー	B-2-2イ	2	安山岩	69.0	70.0	21.0	112.00						
82	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	2	黒曜石	55.8	18.0	5.5	6.82						
83	鈴桶型石刃	B-2-3ア	2	黒曜石	63.5	24.0	5.0	6.10						
84	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	2	黒曜石	52.0	20.0	4.5	5.03						
85	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	2	黒曜石	41.0	19.0	4.5	2.87						
86	紡錘車	A-2-23	2	滑石	33.0	35.0	27.0	26.99						
図版 番号	錢貨名	出土地区	層位	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考						
87	寛永通宝	A-2-17エ	1	23.4	23.4	0.3	3.20	古寛永						
88	寛永通宝	A-2-22イ	1	23.7	24.1	1.4	2.42	古寛永						
89	寛永通宝	A-2-17エ	1	23.1	23.2	1.0	2.41	新寛永						
90	寛永通宝	A-2-22イ	1	22.0	22.0	0.7	1.80	新寛永						
91	一銭	A-2-21エ	1	27.7	27.7	1.6	6.97	一銭銅貨 明治十七年						
92	五銭	A-2-22イ	1	20.5	20.5	2.0	5.48	五銭白銅貨 明治二十九年						

第9表 ⑦区Ⅰ・Ⅱ層遺物観察表(2)

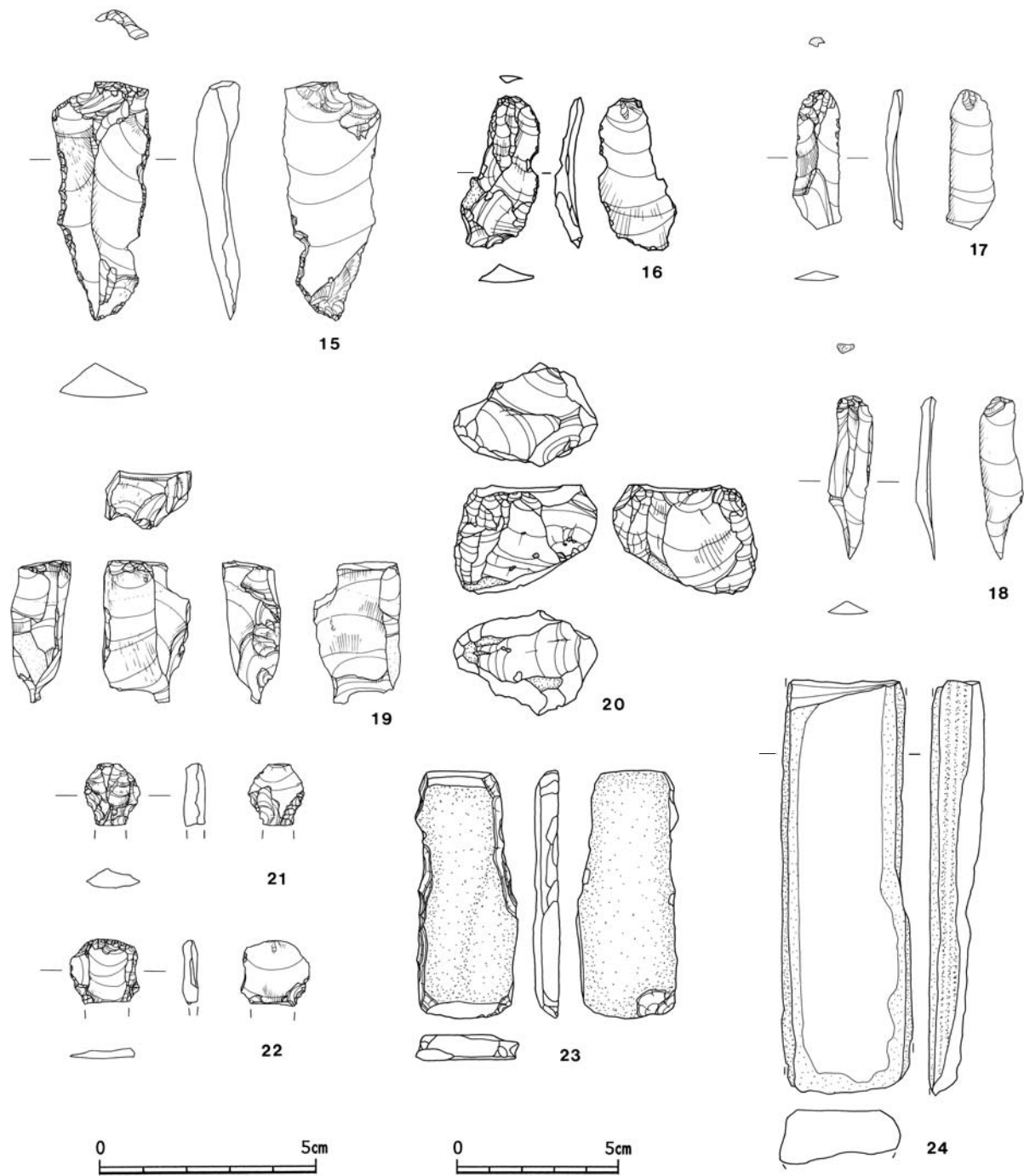
ずかに残っている。52は高坏の坏部である。色調は内面が明褐灰色で外面は橙色である。53～70は越州窯系青磁である。53・54は壺の体部片である。いずれも内面の釉薬はほとんど残っていない。55は壺の底部である。内面にわずかに釉薬が残っている。56は見込みに白色土による目跡が残ることから、碗と思われる。57は壺と思われる。内・外面ともに釉薬は残っていない。58～70は碗である。58は口縁部で、体部は内彎気味だが、口縁部はわずかに外反する。59は内・外面とも釉薬は残っていない。60は口縁部で小さい玉縁が施され、灰白色の釉薬が掛けられている。61は底部で、見込みには環状に細長く目跡が残る。62は底部で、見込みと畳付けに白色土による目跡が残る。63は底部で、見込みには白色土による目跡が残り、内面の釉薬は残っていない。64は底部で、内面にわずかに釉薬が残り、見込みには白色土による目跡が残る。65～70は碗の体部と思われる。65は内・外面とも、にぶい黄色の釉薬が薄く掛けられている。66は内面の釉薬はほとんど残っていない。67は内・外面とも釉薬は残っていない。68は内面はオリーブ黄色、外面は灰オリーブ色の釉薬が掛けられ、内・外面ともに残りは良好である。69は内・外面ともに灰白色の釉薬が掛けられ、貫入が著しい。70は内・外面ともに釉薬はほとんど残っていない。71は龍泉窯系青磁の碗。灰オリーブ色の釉薬が厚めに掛けられ、外面に片彫りの蓮弁文が施される。72・73は朝鮮系青磁と考えられる碗の口縁部である。72は、内面はオリーブ灰色、外面は浅黄色の釉薬が掛けられ、口縁部直下に段を作り、そこから外反する。73は、内面は灰黄色、外面はにぶい黄色の釉薬が掛けられ、口縁部直下に段を設け、そこからわずかに外反する。74～86は石製品である。石種については74～80・82～85は黒曜石、81は安山岩、86は滑石である。74は剥片鏃である。先端部が欠損している。75は石鏃である。平基無茎鏃で、脚部が一部欠損している。76・77はコアスクレーパーである。76は石核の片側に剥離調整を行い、刃部を作出している。77も石核の両側縁に剥離調整を行い、刃部を作出している。78～81はスクレーパーである。82～85は鈴桶型石刃である。いずれも頭部調整が施される。82は末端部が肥大している。86は滑石製の紡錘車である。87～90は寛永通宝である。寛永通宝は寛永13(1636)年から铸造された古寛永、元禄10(1697)年以降に铸造された新寛永に大別される。87・88は古寛永、89・90は新寛永である。91は一銭銅貨で、明治17年に铸造されたものである。92は五銭白銅貨で、明治29年に铸造されたものである。

(6) ⑦区Ⅲ層出土遺物(第29・30図、第10表、図版13・14)

出土遺物は土器24点、磁器1点、石器62点の合計87点。そのうち24点を図化した。1・2は縄文時代後期の深鉢である。1はやや内彎する口縁部である。口縁はなだらかな波状になっていると思われる。また、口唇部に鋸歯状の刻みを入れ、波状の突出部分にはより深い刻みを入れている。内外面は条痕がナデ消されている。2はやや内彎する口縁部である。口唇部はナデ調整で平坦に整えられる。内外面に貝殻条痕が残る。3は縄文時代晩期の深鉢の胴部である。内外面をナデ調整される。4は越州窯系青磁の碗の体部である。内外面ににぶい黄色の釉薬がかけられる。5・6はスクレーパーである。石材は黒曜石。5は風化して表面の色が灰色である。表面右側上方は欠損している。6は側面上半が自然面である。7は玄武岩のスクレーパーである。8は剥片を取り終えた後の石核に刃部を作りだしてスクレーパーとしている。表面に多くの自然面が残る。石材は黒曜石。9～18は鈴桶型石刃である。頭部調整される。石材は黒曜石。12の石材である黒曜石は透明度が高く、全体的に透き通り、腰岳産のものと考えられる。13は側面下半に自然面が残る。14は表面左側縁下半に両面から剥離調整して抉りが入られる。15の両側縁は剥離調整される。また、表面右側縁下半に抉りが入られる。16は表面左下



第29図 ⑦区Ⅲ層出土遺物(1) (S=2/3、1~4はS=1/3、5~8・14はS=1/2)



第30図 ⑦区Ⅲ層出土遺物(2) (S=2/3、16・19・20・23・24はS=1/2)

図版 番号	種類	器種	出土地区	層位	法量(cm) ()は復元			調整		色調		焼成	胎土	備考
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
1	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	3	-	6.2	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	褐灰色	明褐灰色	やや良好	やや精緻	
2	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	3	-	3.8	-	貝殻条痕	貝殻条痕	明赤褐色	褐色	やや良好	やや精緻(長石・石英・雲母)	
3	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	3	-	3.5	-	ナデ	ナデ	灰白色	黄灰色	やや不良	やや粗雑(石英・雲母・長石・白色粒子)	
4	青磁	碗	A-2-23ウ	3	-	2.7	-	施釉	施釉	にぶい黄色	にぶい黄色	良好	精緻(黒色粒子)	越州
図版 番号	器種	出土地区	層位	石種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重さ(g)	備考					
5	スクレーパー	A-2-23ウ	3	黒曜石	38.5	30.0	9.0	12.02						
6	スクレーパー	A-2-23ウ	3	黒曜石	39.5	32.0	16.0	17.93						
7	スクレーパー	A-2-23ウ	3	玄武岩	76.0	56.5	95.0	43.78						
8	スクレーパー	A-2-23ウ	3	黒曜石	39.0	40.5	21.0	33.20	コアスクレーパー					
9	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	34.5	21.0	5.5	2.09						
10	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	32.5	14.5	5.0	1.75						
11	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	33.5	15.5	5.0	1.98						
12	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	45.5	18.0	5.0	1.83						
13	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	39.5	16.5	6.0	1.83						
14	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	44.5	18.5	5.5	2.47						
15	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	55.5	22.5	10.5	8.72						
16	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	47.5	24.0	5.5	4.33						
17	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	32.5	11.5	4.0	0.86						
18	鈴桶型石刃	A-2-23ウ	3	黒曜石	38.0	10.0	4.5	0.99						
19	石核	A-2-23ウ	3	黒曜石	44.0	27.0	18.0	21.48						
20	石核	A-2-23ウ	3	黒曜石	34.0	44.0	32.0	41.81						
21	つまみ形石器	A-2-23ウ	3	黒曜石	14.5	13.0	5.0	0.88						
22	つまみ形石器	A-2-23ウ	3	黒曜石	15.5	16.0	3.5	0.88						
23	扁平片刃石斧	A-2-23ア	3	頁岩	76.5	31.5	8.0	33.09						
24	砥石?	A-2-22イ	3	硬質砂岩	128.0	41.0	17.0	125.00						

第10表 ⑦区Ⅲ層遺物観察表

方に一部自然面が残る。19・20は石核である。石材は黒曜石。一部に自然面が残る。21・22はつまみ形石器である。頭部調整される。石材は黒曜石。21は両側縁とも表裏両面から剥離調整して挟りが入られる。22は両側縁を剥離調整して挟りが入られる。23は弥生時代の扁平片刃石斧である。両側縁に挟りが入られる。また、刃部を研磨している。石材は頁岩。24は表面が平坦に整えられているので砥石と思われる。ただし、側面に挟りを入れたような痕があり、刃部を作り出した頃と同時期と推測されるので、扁平片刃石斧の可能性もある。表面の左右両側縁を面取りしている。石材は硬質砂岩。

(7) ⑦区Ⅳ層出土遺物(図版14~17)

土器(第31~35図、第11・12表)

Ⅳ層からは縄文後期~晩期のもと思われる土器が約700点出土した。その中から66点を抽出して、後期・晩期に分類し、器種ごとに口縁部・胴部・底部の順に掲載した。

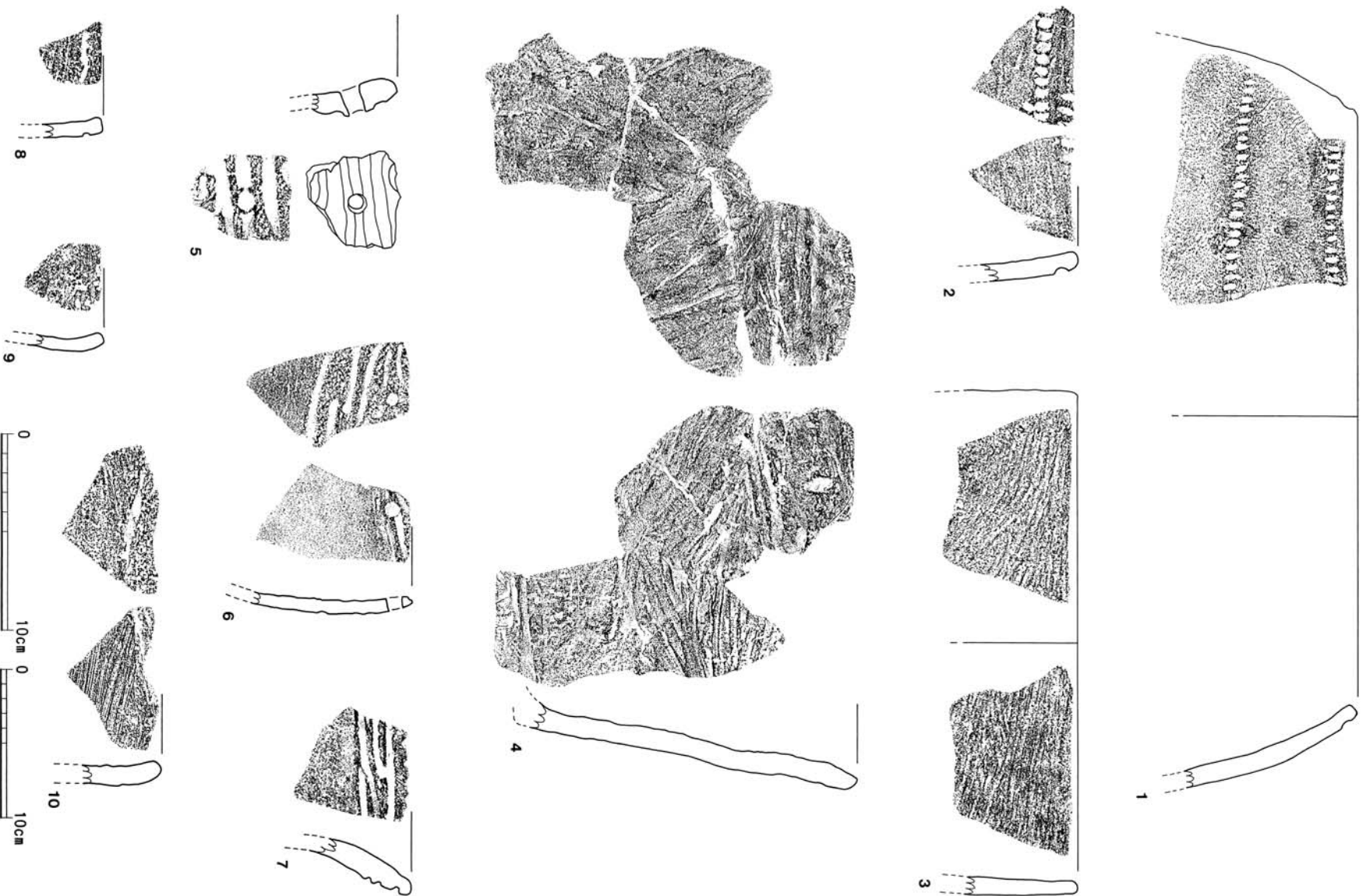
・縄文時代後期の遺物

縄文後期の遺物は坂の下式系や鐘崎式系に分類されると思われる。1~6、8~13は坂の下式系土器、7は鐘崎式土器と思われる深鉢の口縁部片。1は口縁部が内彎し、波状口縁を呈す。口唇部は平らに仕上げている。内外面ともナデ調整を施し、外面には口縁直下と胴部に刺突列点文を1条ずつ巡らしている。2は胎土に角閃石が多く含まれており、やや硬質である。口縁部はわずかに内彎し、口唇部の一部に刻みを施す。内外面ともナデ調整を施し、外面には口縁に対して平行に1条の刺突列点文を巡らしている。3はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部でわずかに内彎する。内外面とも貝殻条痕を施した

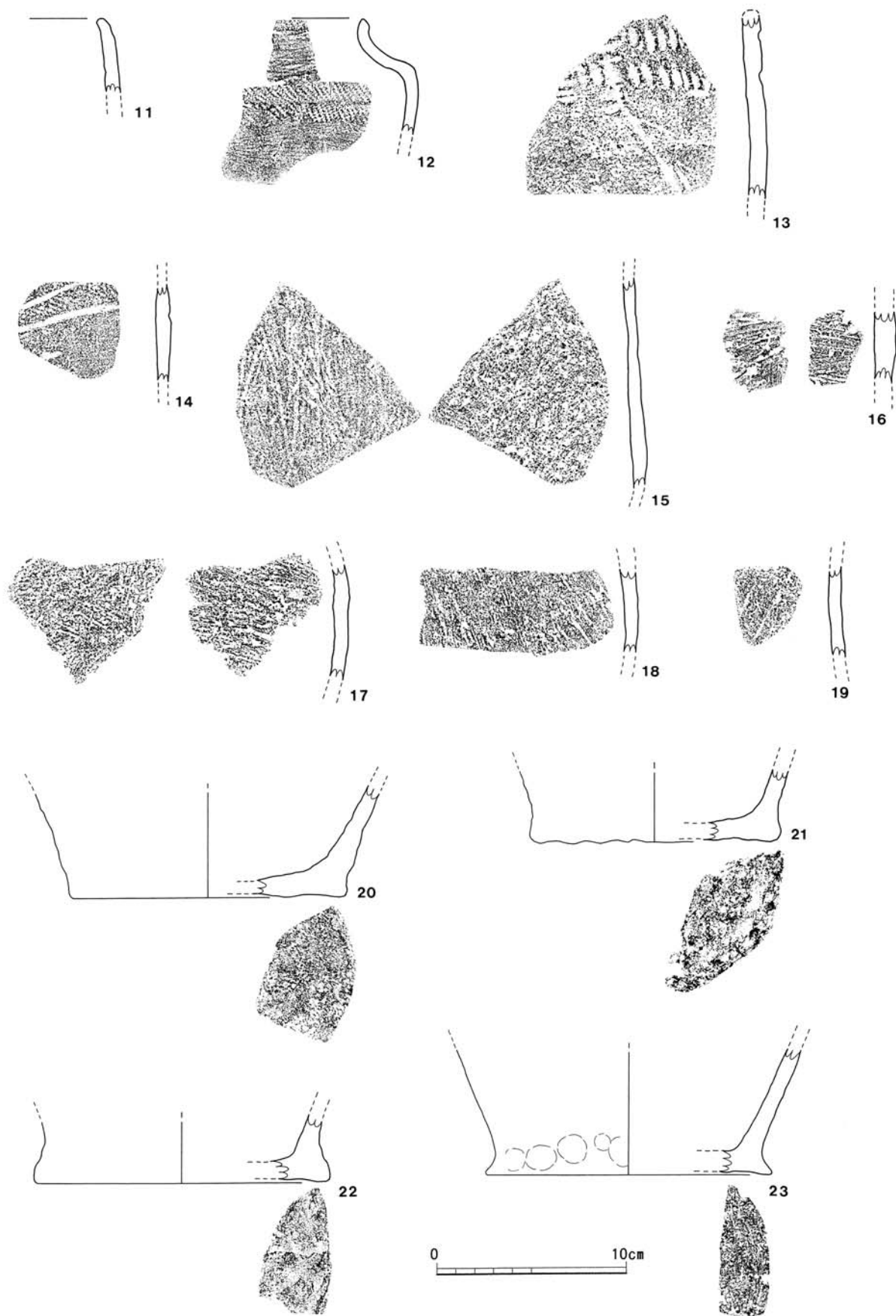
後にナデ消している。4は口縁から胴部にかけて残存している資料で、底部が失われている。立ち上がりはやや外傾し、口縁部はやや外反している。内外面とも巻貝による条痕を施している。5は口縁部が内彎している。外面には口縁に対してほぼ平行に太い沈線を施し、その沈線と沈線の上に縄文が施されている。内面はナデ調整を行い、穿孔を施す。6は口縁直下に細く浅い沈線が数条施文され、沈線と沈線の上に縄文が施されている。いわゆる磨消縄文であるが、胎土等は坂の下式系土器に近く、『坂の下遺跡の研究』で第10類土器に分類されているものである可能性が高い⁽¹⁾。内面はナデ調整を行い、口縁直下に1条の沈線と穿孔を施す。7は外面に細く深い沈線が刻まれていることや胎土等から、鐘崎式系土器の入組渦文または入組鉤手文の一部と思われる。縄文は確認できない。口縁部は外反し、口唇部には多くの刻みを施している。8は口縁部がやや内彎し、口唇部を平らに仕上げている。内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。外面に1条の歪んだ沈線を施す。9は立ち上がりがほぼ直立して、口縁部で内彎し、口唇部は平らに仕上げている。内外面ともナデ調整を行っている。10はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部で内彎する。内外面とも貝殻条痕を施し、口縁部はナデ調整している。11は口縁部が内側に折り込まれたように内彎する。内外面ともナデ調整を行っている。12はわずかに外反しながら立ち上がり、頸部から急激に内彎し、口縁付近でわずかに外反する。内外面ともナデ調整を行い、口唇部と頸部外面屈曲部の上下に縄文を施文している。縄文部と無文部を区切る沈線は見られない。13～19は深鉢の胴部片である。13は口縁が欠けた、ほぼ直立する胴部片。外面には、斜線状の刺突列点文を口縁と平行に2条巡らせ、それに交わるように、横線状の刺突列点文を縦位に2条施している。14は2本の沈線の上に縄文が施文されている。6と類似のもので、坂の下系第10類土器である可能性が高い⁽¹⁾。15は胎土に滑石を多量に含む坂の下式系土器の胴部片。外面に縦位の貝殻条痕を施している。16・17は内外面に貝殻条痕を施し、外面は一部ナデ消している。18は外面に斜位の貝殻条痕を施し、内面はナデ調整を行っている。1.5mm大の雲母が多量に混入している。19は内面に貝殻条痕を施し、後にナデ消している。20～32は深鉢の底部片。すべて平底を呈す。33～36は縄文後期の鉢である。33～35は鐘崎式系土器と思われる。いずれも胴部外面に入組渦文もしくは入組鉤手文を施文しているが、縄文の施文は確認できない。口縁部は肥厚させて、口唇部に2条の沈線を巡らせ、一部に刻みを施している。33は渦状の部分が残存している。口唇部には2条の沈線と刻みの他に刺突文が施されている。34は渦状もしくは鉤手状の部分が失われている。35は口縁部のみ残存している。36は胴部片で、他の4点と比べて沈線の幅が広く、施文されている渦文も大きい。37は手捏土器の鉢である。

・縄文時代晩期の遺物

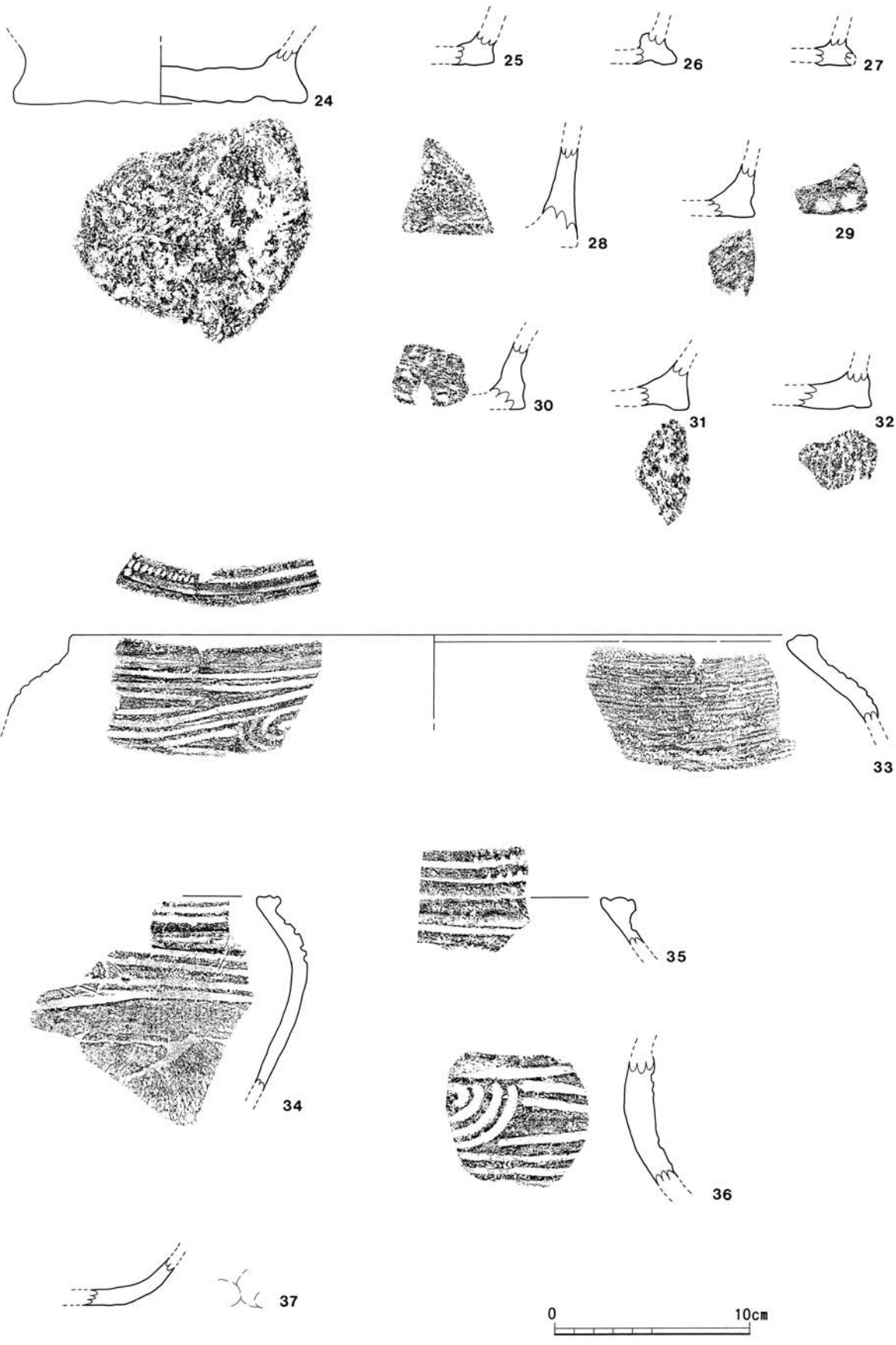
38～48は深鉢の口縁部片。38～41は口縁部が内彎する。内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。40は口縁部が彎曲している。波状口縁の可能性あり。42～44・46は口縁部がわずかに内傾する。42は外面に貝殻条痕を施し、後にナデ消している。43は内面には貝殻条痕を施し、後にナデ消した形跡がある。外面はナデ調整を行っていると思われるが、風化により判別が難しい。44は外面に斜位の貝殻条痕を施している。口唇部は平らにナデで仕上げているが、若干歪んでいる。46は内外面ともナデ調整を行っているが、外面は風化により判別が難しい。45は肩部から内傾し、頸部でわずかに外反して口縁部はほぼ直立する。内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。47はほぼ直立、48は外反する口縁部片である。47・48は胎土が肌理細やかで、内外面ともナデ調整を行っている。口



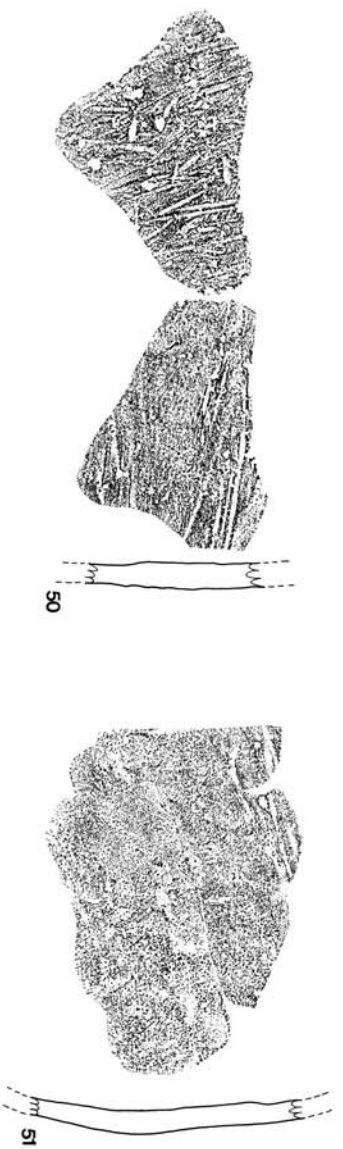
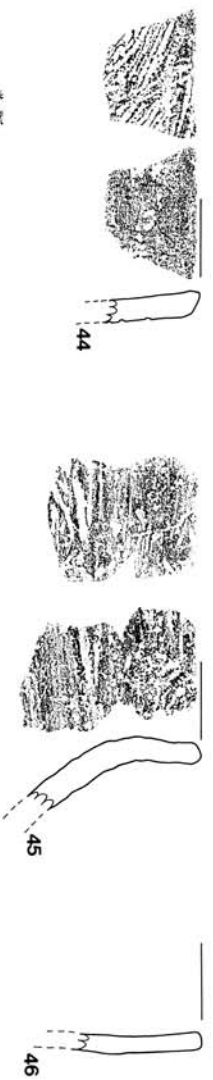
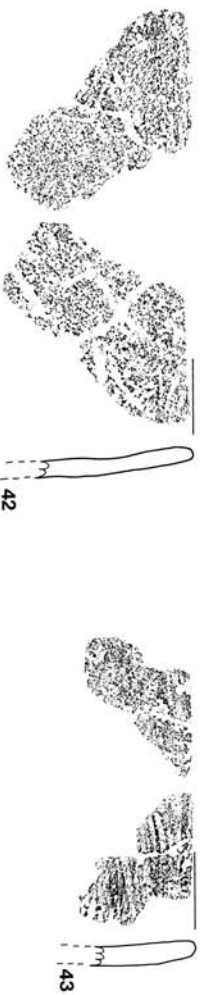
第31图 ⑦区IV層出土土器(1) (S=1/3、4;S=1/4)



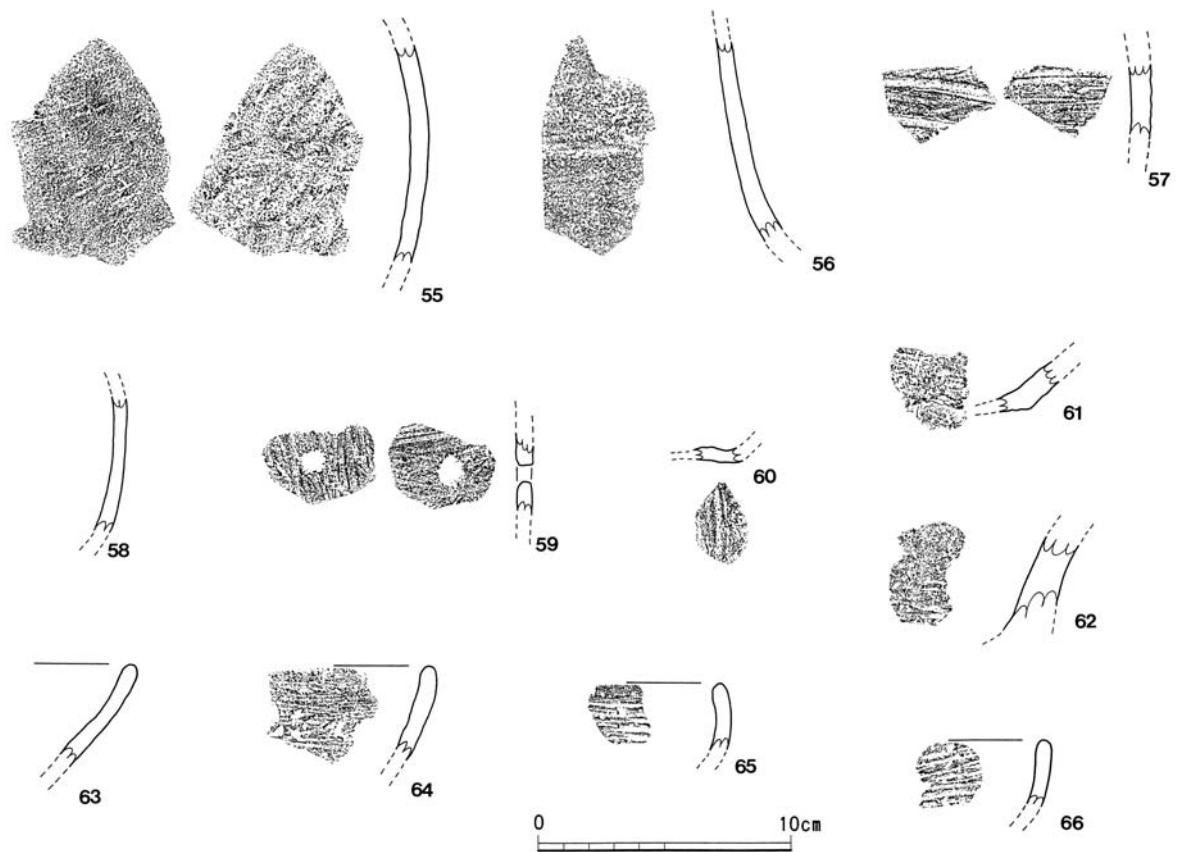
第32图 ⑦区Ⅳ層出土土器(2) (S=1/3)



第33图 ⑦区IV層出土土器(3) (S=1/3)



第34图 ⑦区Ⅳ层出土土器(4) (S=1/3)



第35図 ⑦区Ⅳ層出土土器(5) (S=1/3)

縁部は肥厚し、波状口縁を呈す。口唇部に1条の沈線を巡らせ、その沈線の両側部分に刻みを施しているが、風化して見づらくなっている。49～59は胴部片である。49・50は内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。51は内外面ともナデ調整をしている。内面の最上部には条痕ナデ消しが施されている。52は内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。内面は丁寧にナデているが、外面は雑である。53は内外面ともナデ調整を行い、外面には縦位の沈線を1条施している。54は外面に貝殻による横走条痕を施し、内面は丁寧なナデ調整を行っている。55は外面に貝殻条痕を施し、後にナデ消している。内面は凸凹で指の痕らしきものも見えることから、指の腹を使ってナデ調整したものと思われる。56は内外面とも丁寧にナデ調整を行っている。47・48と胎土等が非常によく似ている。57は内外面とも巻貝による条痕を施している。58は内外面ともナデ調整をしている。59は内外面とも貝殻条痕を施した後にナデ消している。穿孔を施す。60～62は底部片。60は平底の底部。外面の一部に刻みを施しているが、風化して磨耗している。61・62は底部が失われた胴下半部で、底部との接合部が61は一部、62は欠けずに残存している。63～66は鉢または浅鉢と思われるものの口縁部片。

(1) 佐賀県立博物館 1975 『坂の下遺跡の研究』 佐賀県立博物館調査研究書第2集

図版 番号	種類	器種	出土地区	層位	法量(cm) ()は復元			調整		色調		焼成	胎土	備考
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
1	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	(30.4)	8.8	-	ナデ/ 刺突列点文	ナデ	灰黄褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑 (長石・石英・角閃石・雲母・白色粒子)	
2	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.0	-	ナデ/ 刺突列点文	ナデ	黒褐色	黒褐色	不良	粗雑(長石・角閃石・雲母)	
3	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	(25.0)	5.8	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	明赤褐色	灰褐色	不良	粗雑(長石・石英・雲母・白色粒子)	
4	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	22.2	-	貝殻条痕	貝殻条痕	にぶい橙色	にぶい橙色	不良	粗雑(雲母・白色粒子・赤色粒子)	
5	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	4.5	-	沈線文/縄文	ナデ	にぶい橙色	にぶい橙色	不良	粗雑(長石・雲母・白色粒子・赤色粒子)	穿孔
6	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	8.2	-	磨消縄文	ナデ/沈線文	灰黄褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑(角閃石・雲母・白色粒子)	穿孔
7	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.2	-	ナデ/沈線文	ナデ	にぶい褐色	にぶい褐色	やや不良	やや粗雑 (長石・石英・角閃石・雲母・白色粒子)	
8	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.0	-	条痕ナデ消し/ 沈線文	条痕ナデ消し	にぶい橙色	にぶい黄褐色	不良	粗雑(長石・雲母)	
9	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.8	-	ナデ	ナデ	赤褐色	赤褐色	不良	粗雑(石英)	
10	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.0	-	ナデ/貝殻条痕	ナデ/貝殻条痕	にぶい黄褐色	浅黄褐色	不良	やや粗雑(長石・石英・雲母・白色粒子)	
11	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.9	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・白色粒子)	
12	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	6.2	-	ナデ/縄文	ナデ	浅黄色	灰黄色	やや不良	やや粗雑(石英・角閃石・雲母・ 白色粒子・赤色粒子)	
13	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	9.7	-	ナデ/ 刺突列点文	ナデ	褐灰色	にぶい橙色	不良	粗雑(長石・石英・角閃石・雲母・ 白色粒子・赤色粒子)	
14	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.2	-	磨消縄文	ナデ	橙色	橙色	やや不良	やや粗雑(角閃石・雲母・白色粒子)	
15	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	11.0	-	貝殻条痕	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄色	やや良好	やや精緻(滑石)	
16	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.8	-	条痕ナデ消し	貝殻条痕	橙色	にぶい橙色	不良	粗雑(赤色粒子)	
17	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	6.1	-	条痕ナデ消し	貝殻条痕	赤褐色	にぶい赤褐色	不良	粗雑(赤色粒子)	
18	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.2	-	貝殻条痕	ナデ	明赤褐色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑(長石・雲母)	
19	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.8	-	ナデ	条痕ナデ消し	赤褐色	にぶい赤褐色	不良	粗雑(雲母・赤色粒子)	
20	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	5.5	(14.0)	ナデ	ナデ	橙色	にぶい橙色	不良	粗雑(滑石・赤色粒子)	
21	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.7	(13.2)	ナデ	ナデ	橙色	明褐色	やや不良	粗雑(雲母・白色粒子)	
22	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.2	(15.0)	ナデ	ナデ	橙色	橙色	不良	粗雑(石英・雲母・赤色粒子)	
23	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	6.5	(15.0)	ナデ/指オサエ	ナデ	橙色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑(赤色粒子)	
24	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.0	(15.5)	ナデ	ナデ	橙色	黒褐色	不良	粗雑	
25	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	1.8	-	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	暗赤褐色	やや不良	粗雑(赤色粒子)	
26	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	1.6	-	ナデ/指オサエ	ナデ	明赤褐色	橙色	やや不良	粗雑	
27	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	1.4	-	ナデ/指オサエ	ナデ	にぶい赤褐色	暗赤褐色	不良	粗雑	
28	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.7	-	ナデ	ナデ	明赤褐色	明褐色	不良	粗雑(滑石)	
29	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	2.7	-	条痕ナデ消し/ 指オサエ	ナデ	橙色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・白色粒子)	
30	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.5	-	条痕ナデ消し/ 指オサエ	ナデ	にぶい黄褐色	橙色	やや良好	やや粗雑(長石)	
31	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	2.6	-	ナデ/指オサエ	ナデ	橙色	明赤褐色	不良	粗雑(雲母)	
32	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	1.9	-	ナデ	ナデ	明赤褐色	橙色	やや不良	やや精緻(長石)	
33	縄文土器	鉢	A-2-23ウ	4	(37.6)	4.2	-	ナデ/細い棒状の施 文具による入組溝文	条痕ナデ消し	にぶい赤褐色	にぶい橙色	不良	粗雑(石英・雲母・白色粒子・赤色粒子)	
34	縄文土器	鉢	A-2-22ウ	4	-	9.9	-	ナデ/沈線文	条痕ナデ消し	灰褐色	褐灰色	不良	粗雑(長石・石英・角閃石・雲母・ 白色粒子・赤色粒子)	
35	縄文土器	鉢	A-2-23ウ	4	-	2.4	-	ナデ/沈線文	ナデ	にぶい黄褐色	灰黄褐色	不良	粗雑(長石・角閃石・雲母・ 白色粒子・赤色粒子)	
36	縄文土器	鉢	A-2-23ウ	4	-	6.6	-	ナデ/細い棒状の施 文具による入組溝文	ナデ/ 条痕ナデ消し	灰黄褐色	灰黄色	やや不良	やや粗雑(長石・石英・雲母・白色粒子)	
37	縄文土器	手握 土器	A-2-23ウ	4	-	2.4	-	指オサエ	指オサエ	赤褐色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑(長石・石英)	
38	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.2	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	にぶい赤褐色	灰褐色	不良	粗雑(雲母)	
39	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	4.3	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	褐色	黒褐色	不良	粗雑(赤色粒子)	
40	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.9	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	灰黄色	にぶい黄褐色	不良	粗雑(石英・角閃石・雲母)	
41	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.2	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	暗赤褐色	黒褐色	不良	粗雑(雲母)	
42	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	6.2	-	条痕ナデ消し	ナデ	にぶい褐色	灰褐色	不良	粗雑(石英・雲母)	
43	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.2	-	ナデ/ 風化による劣化	条痕ナデ消し	暗赤褐色	暗赤褐色	不良	粗雑	
44	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.8	-	貝殻条痕	ナデ	黒色	淡黄色	やや良好	やや精緻(長石・雲母)	
45	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	6.9	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	橙色	灰褐色	不良	粗雑(雲母・赤色粒子)	
46	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.2	-	ナデ/ 風化による劣化	ナデ	暗赤褐色	にぶい赤褐色	不良	粗雑	
47	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	7.9	-	ナデ	ナデ	にぶい褐色	暗褐色	やや不良	やや粗雑 (石英・角閃石・雲母・白色粒子)	
48	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	7.0	-	ナデ	ナデ	灰褐色	にぶい黄褐色	やや良好	やや精緻(長石・石英・雲母・赤色粒子)	
49	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	7.3	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	にぶい橙色	にぶい褐色	やや不良	やや粗雑(雲母・赤色粒子)	
50	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	7.3	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	にぶい褐色	灰褐色	やや不良	やや粗雑(石英・雲母)	

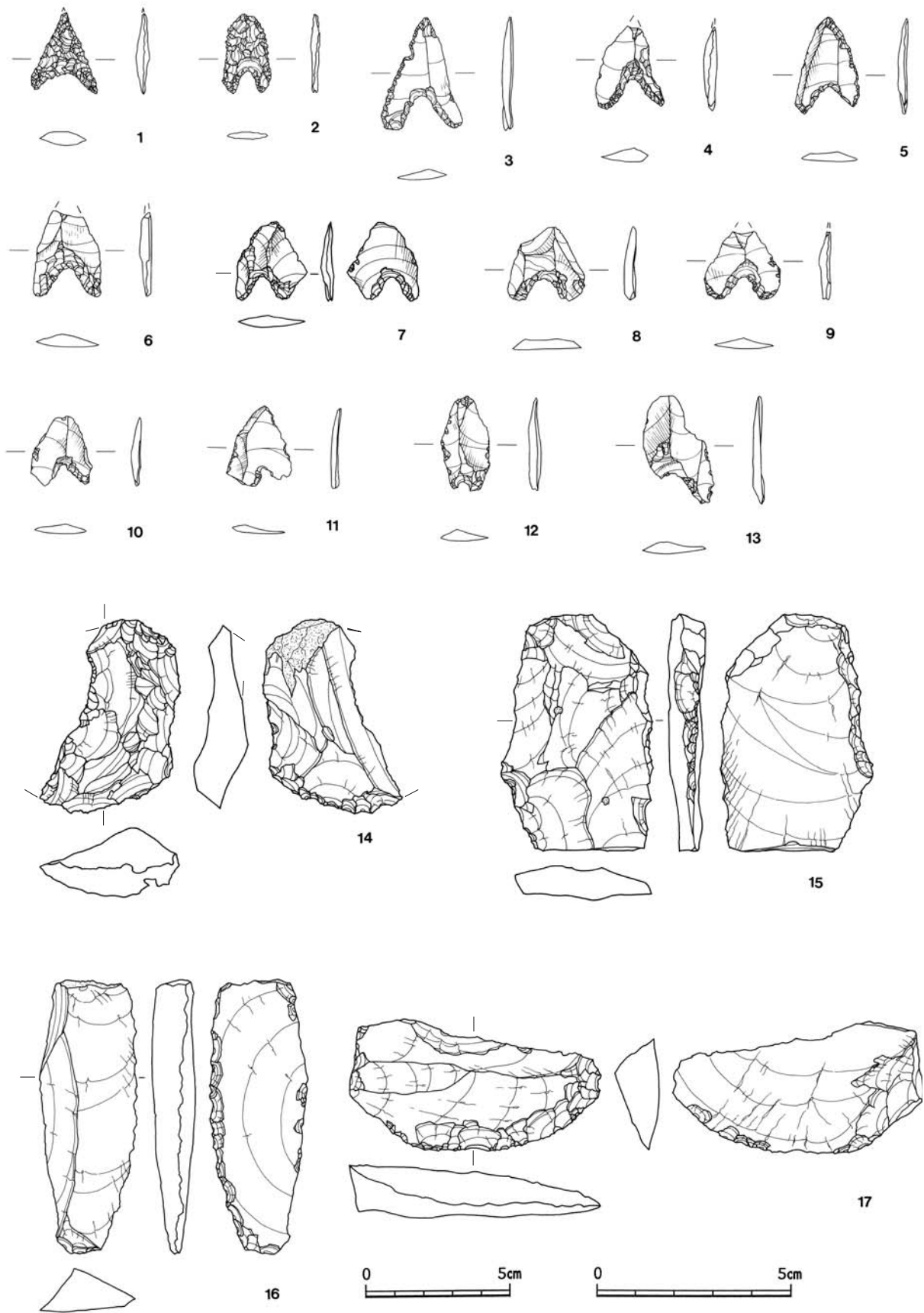
第11表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(土器)(1)

図版 番号	種類	器種	出土地区	層位	法量(cm) ()は復元			調整		色調		焼成	胎土	備考
					口径	器高	底径	外面	内面	外面	内面			
51	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	11.0	-	ナデ	ナデ/ 条痕ナデ消し	にぶい褐色	橙色	やや良好	やや精緻(長石・雲母)	
52	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.4	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	褐色	灰黄褐色	やや不良	やや粗雑(長石・雲母)	
53	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.8	-	ナデ/沈線文	ナデ	にぶい橙色	にぶい褐色	やや不良	やや粗雑(長石・角閃石・雲母)	
54	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	4.1	-	貝殻条痕	ナデ	橙色	にぶい赤褐色	やや不良	やや粗雑(長石・白色粒子)	
55	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	8.6	-	条痕ナデ消し	ナデ	明赤褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑(長石・石英・角閃石・雲母 白色粒子・赤色粒子)	
56	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	8.0	-	ナデ	ナデ	明褐色	黒褐色	やや良好	やや精緻(長石・石英・雲母)	
57	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.0	-	貝殻条痕	貝殻条痕	橙色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑 (長石・石英・角閃石・雲母・白色粒子)	
58	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	5.3	-	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色	灰白色	やや良好	やや精緻(長石・角閃石・雲母)	
59	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	3.2	-	条痕ナデ消し	条痕ナデ消し	灰褐色	黒褐色	やや不良	やや粗雑(長石・角閃石・雲母・ 白色粒子・赤色粒子)	穿孔
60	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	1.1	-	ナデ/刻み	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑(長石・雲母・白色粒子)	
61	縄文土器	深鉢	A-2-23ウ	4	-	1.9	-	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	やや不良	やや粗雑(白色粒子・赤色粒子)	
62	縄文土器	深鉢	A-2-23ア	4	-	3.7	-	ナデ	ナデ	にぶい橙色	褐灰色	やや良好	やや精緻(長石・石英・雲母)	
63	縄文土器	鉢・浅鉢	A-2-23ウ	4	-	4.0	-	条痕ナデ消し	ナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや不良	やや粗雑(長石)	
64	縄文土器	鉢・浅鉢	A-2-23ア	4	-	3.7	-	貝殻条痕	条痕ナデ消し	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	不良	粗雑(長石)	
65	縄文土器	鉢・浅鉢	A-2-23ウ	4	-	2.6	-	ナデ	貝殻条痕	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	やや良好	やや精緻(長石)	
66	縄文土器	鉢・浅鉢	A-2-23ウ	4	-	2.6	-	ナデ	貝殻条痕	灰褐色	明褐色	やや良好	やや精緻(長石)	

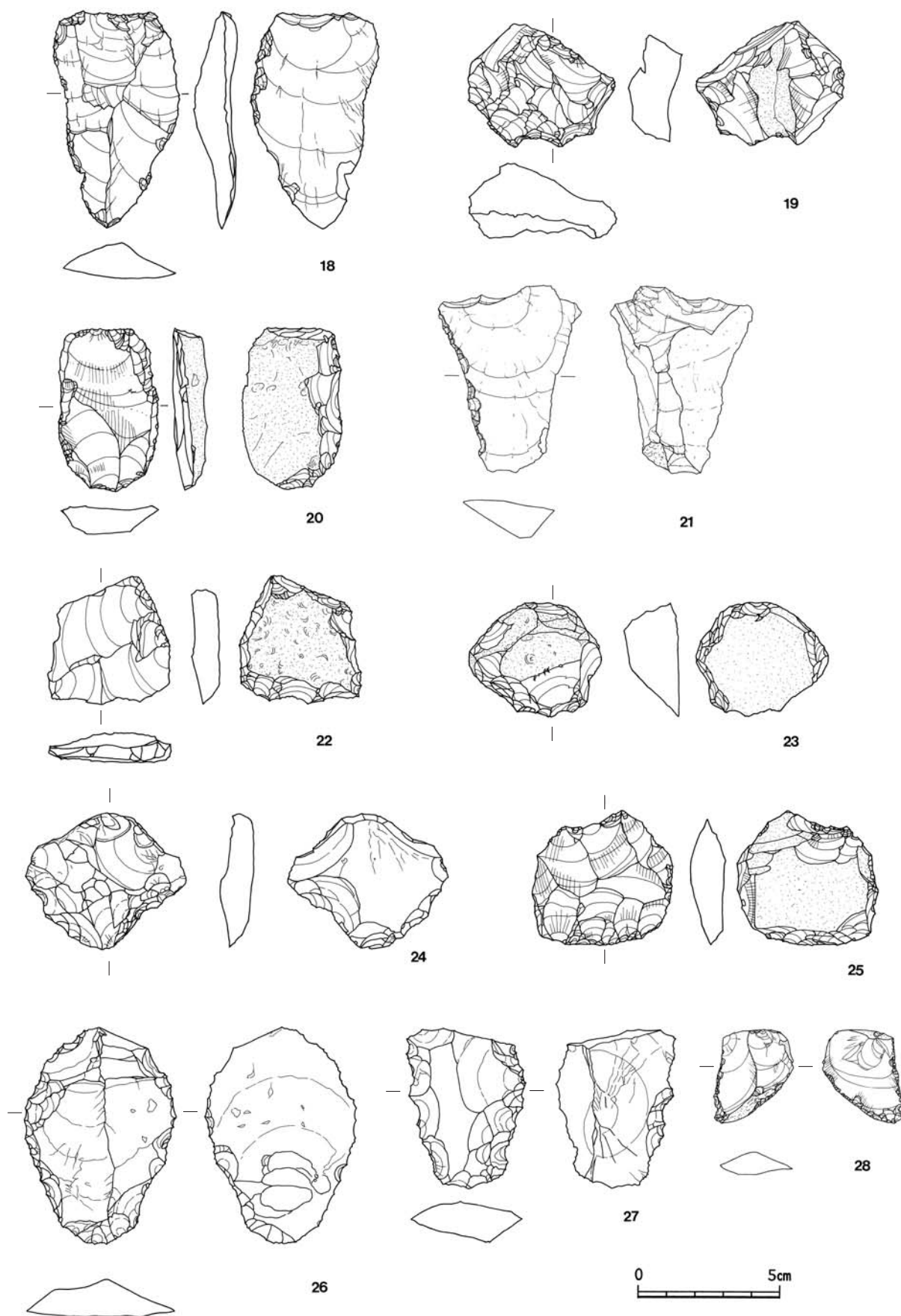
第12表 ⑦区Ⅳ層遺物観察表(土器)(2)

石器(第36~52図、第13~16表)

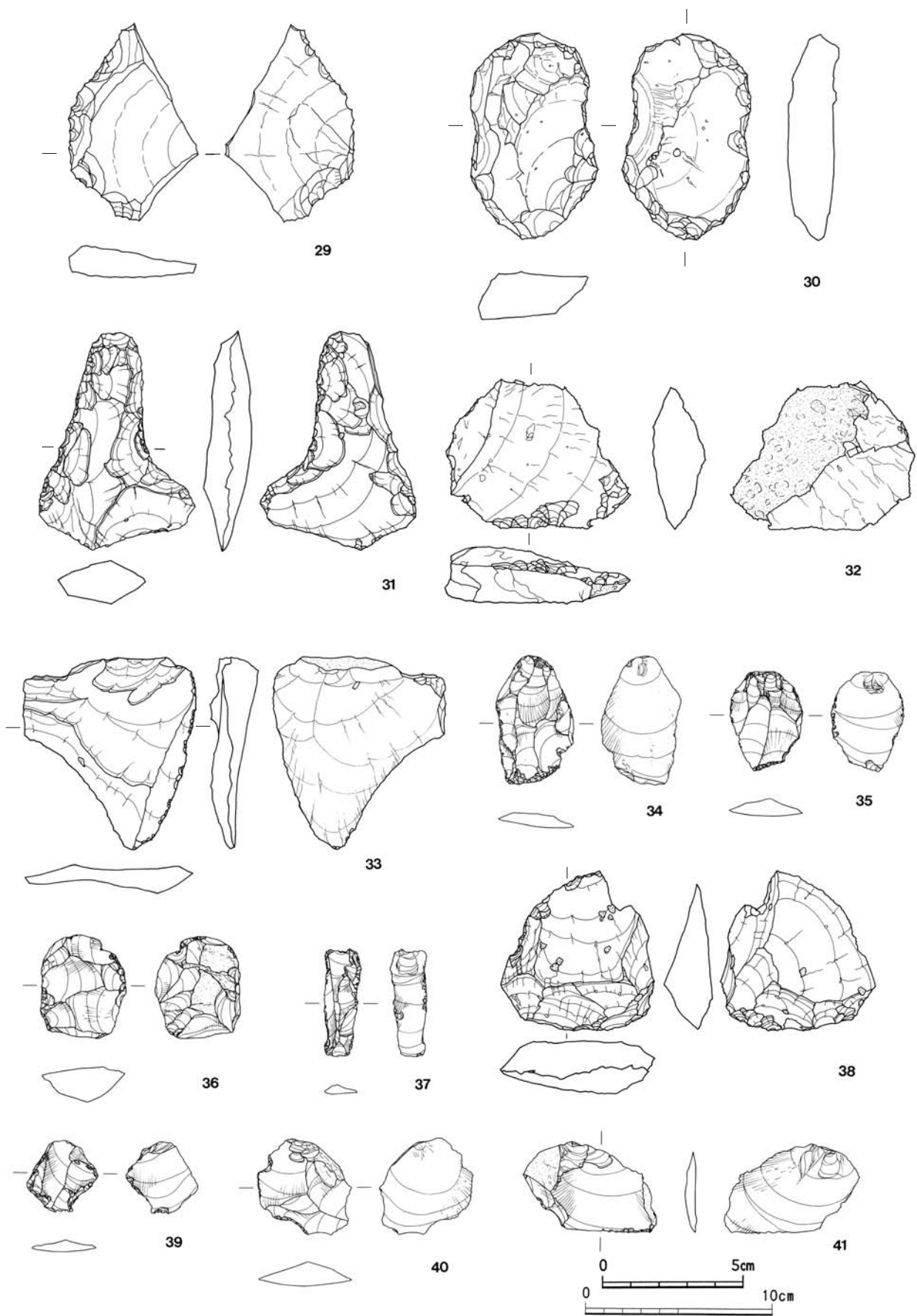
Ⅳ層からは剥片やチップなどを含めて約1,660点の石器が出土した。確認された器種は、石鏃、剥片鏃、スクレーパー、鈴桶型石刃、打製石斧、石核、つまみ形石器、石槍である。そのうちの227点(剥片を含む)を抽出して掲載した。1・2は石鏃、3~13は剥片鏃である。石材はすべて黒曜石で、脚部を有するタイプのものである。1は両側縁が直線的に頂点で交わる。抉りは深く、脚部の先端は尖っている。2は両側縁が内彎する。抉りは深く丸い。脚部の先端は尖っている。3・4・6は抉りが深く丸い。脚部の先端は丸まっている。5は両側縁が直線的に交わる。抉りは深く、脚部の先端は尖っている。7~11は正三角形に近い形で、抉りは深い。12は両側縁が内彎する。抉りは浅い。13は脚部が片方欠落している。14~71はスクレーパーである。製品23点、未製品35点を掲載する。14は上面に自然面を残し、下面に剥離を施して曲線状の刃部を作出する。15は板状の剥片の一側縁に剥離を施し、直線状の刃部を作出する。16は縦長で下端にかけてやや先細りする安山岩剥片の側縁から下端にかけて剥離を施し、「し」の字形の刃部を作出している。17は幅広剥片の下端に粗い剥離を施し、曲線状の刃部を作出している。18~23は一縁辺に曲線状または直線状の刃部を持つもの。24・28は下端両縁辺に剥離を施して刃部を作出している。25は下面に直線状の刃部を持つ。26・27は上部を除いた全縁辺に剥離を施して、刃部を作出している。29は一縁辺に粗い剥離を施して、曲線状の刃部を作出している。30は複数縁辺に刃部を持つ。両側に抉りがあることから、石錘の可能性あり。風化により、磨耗している。31は鎌崎型スクレーパーと呼ばれるものである。安山岩の両側縁を粗く剥離し、下端に「V」字状の刃部を作出している。鎌崎型スクレーパーは、西北九州沿岸部の遺跡から少量ずつ検出されており、貝の加工に使用されたのではないかと想定されている。県内遺跡では、鎌崎遺跡、深堀遺跡、頭ヶ島白浜遺跡等で出土している。32~66は未製品。67~71はコアスクレーパー。72~188は鈴桶型石刃である。184~188は片側もしくは両側から抉りを入れており、剥片鏃作製途上のものであると思



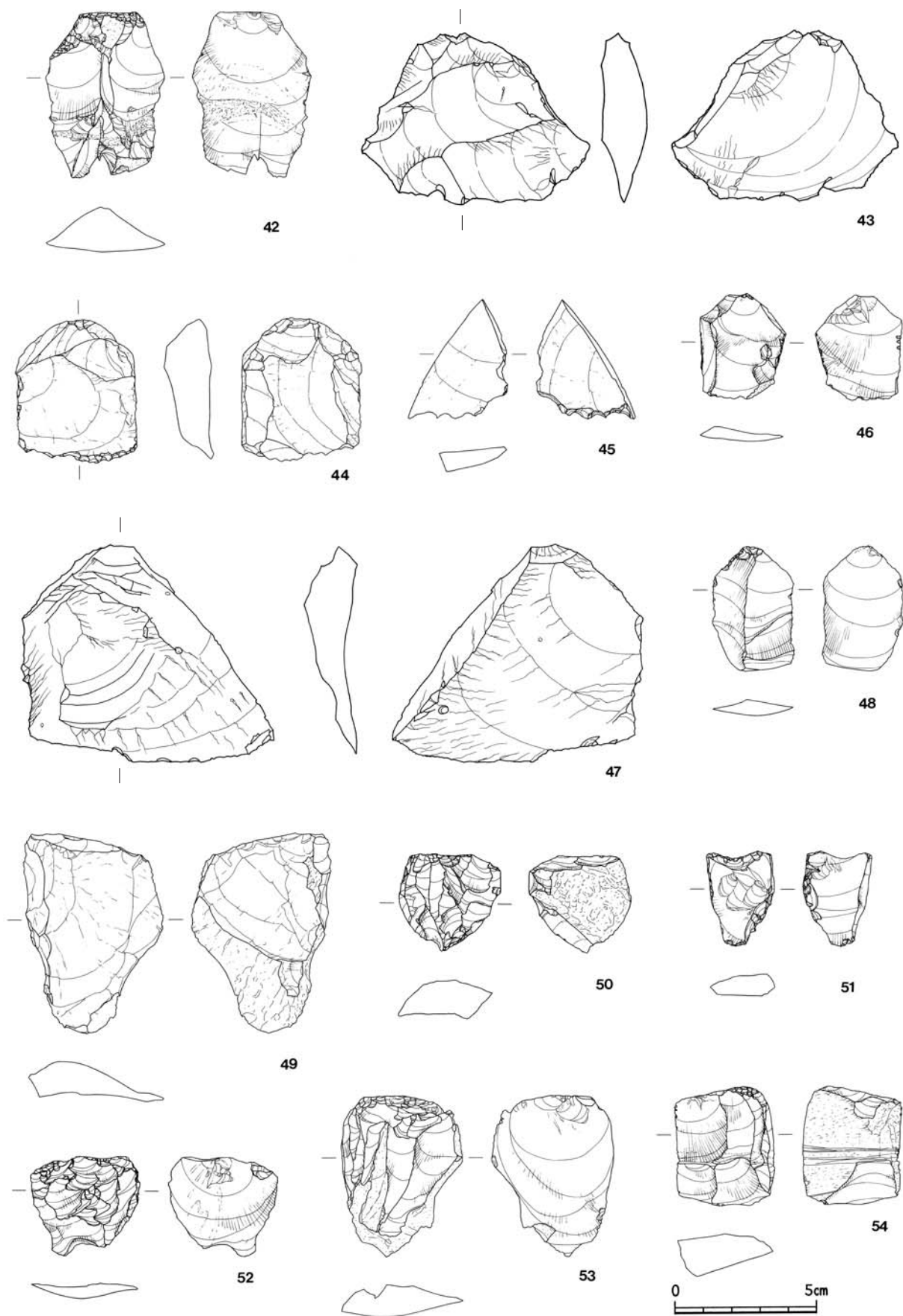
第36図 ⑦区Ⅳ層出土石器(1) (S=2/3、7・14~17はS=1/2)



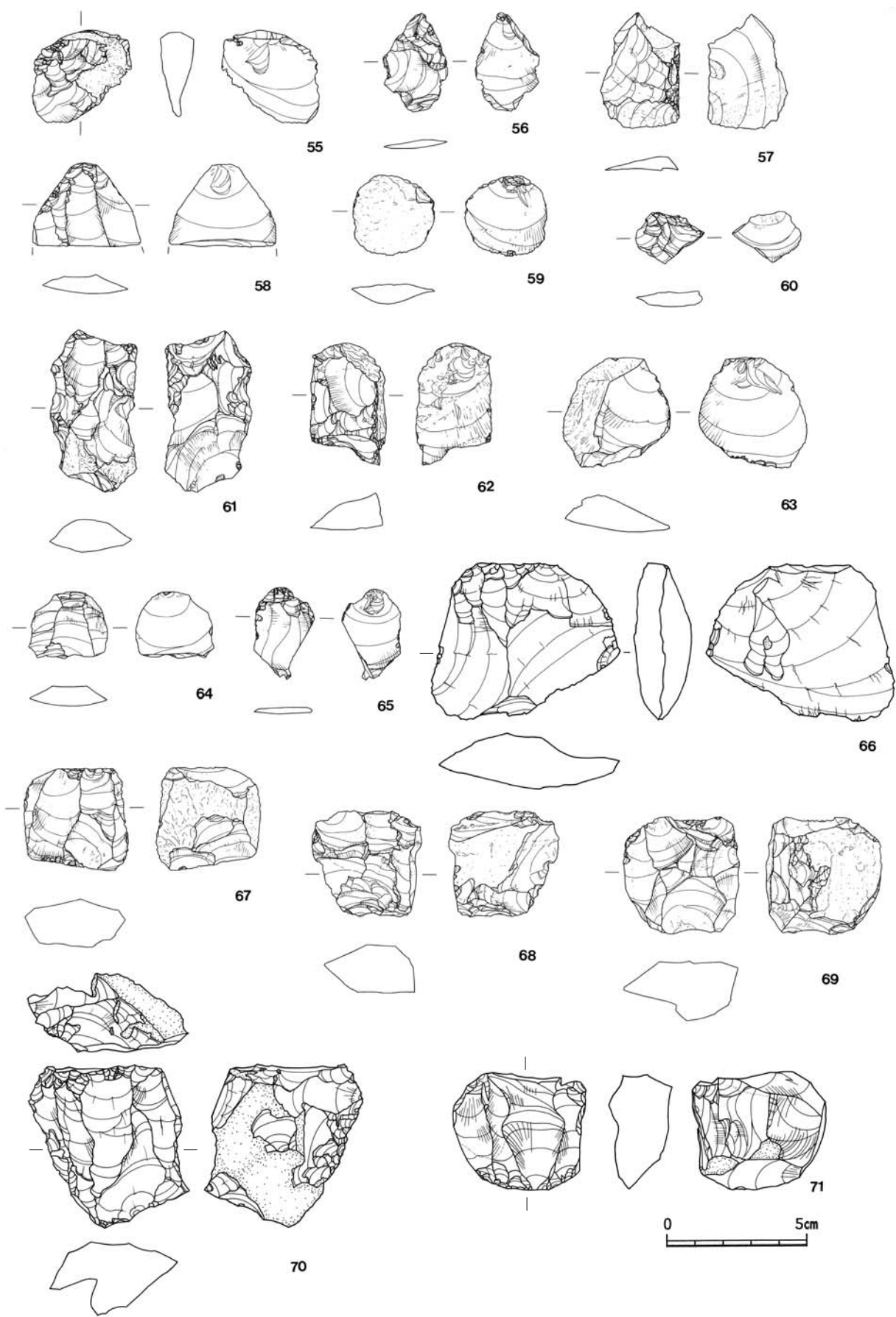
第37图 ⑦区IV層出土石器(2) (S=1/2)



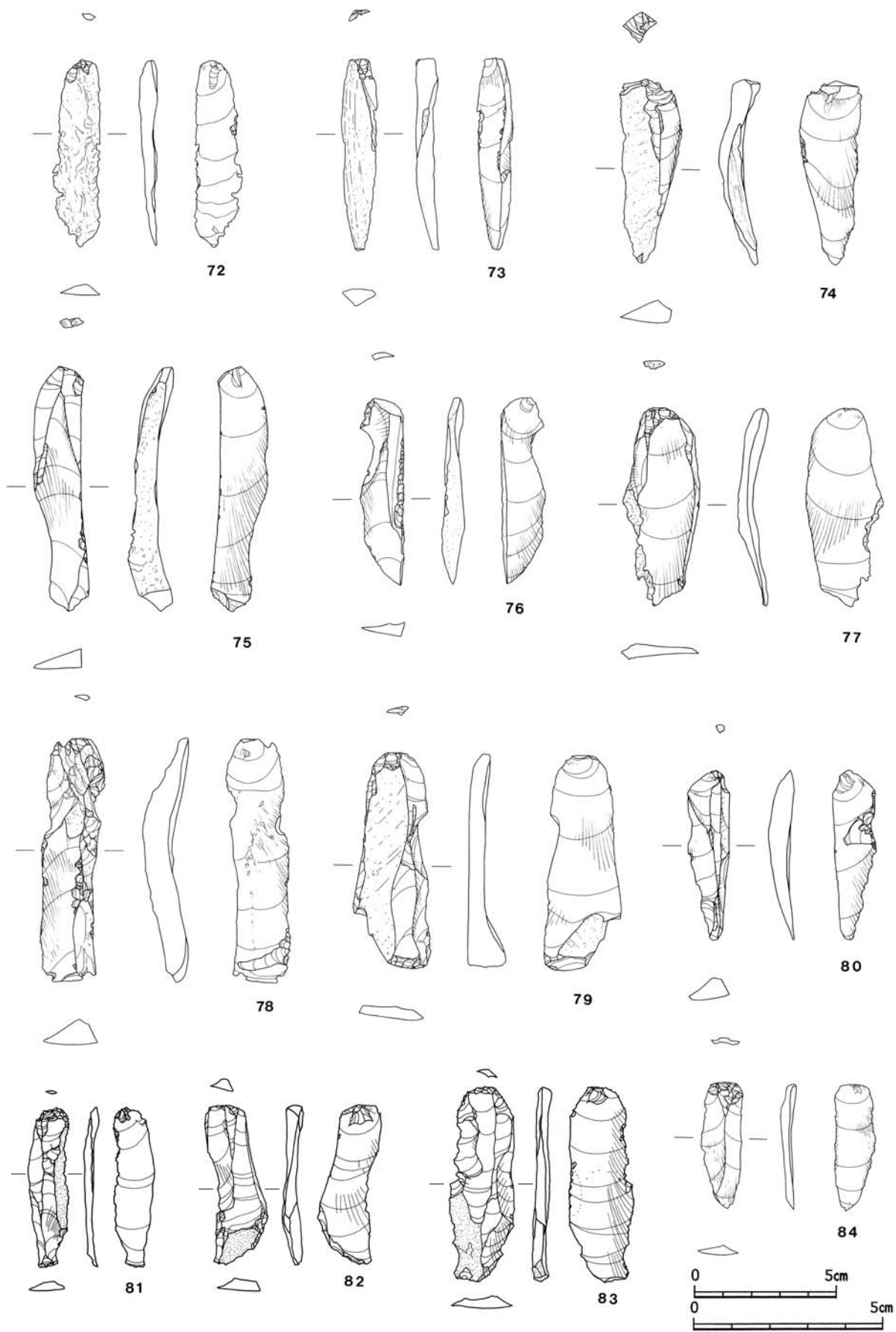
第38図 ⑦区Ⅳ層出土石器(3) (S=1/2、31・32・38はS=1/3)



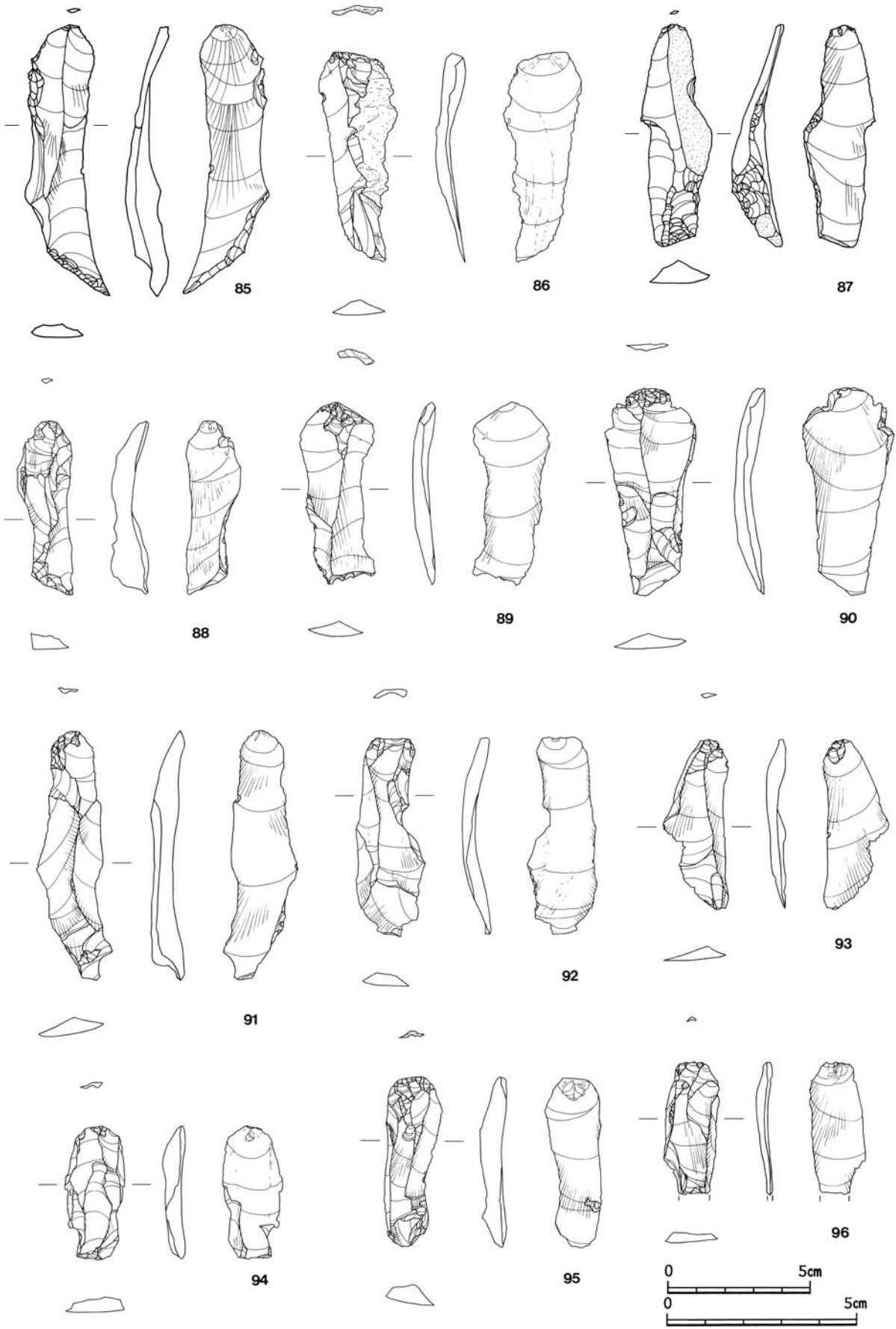
第39图 ⑦区IV層出土石器(4) (S=1/2)



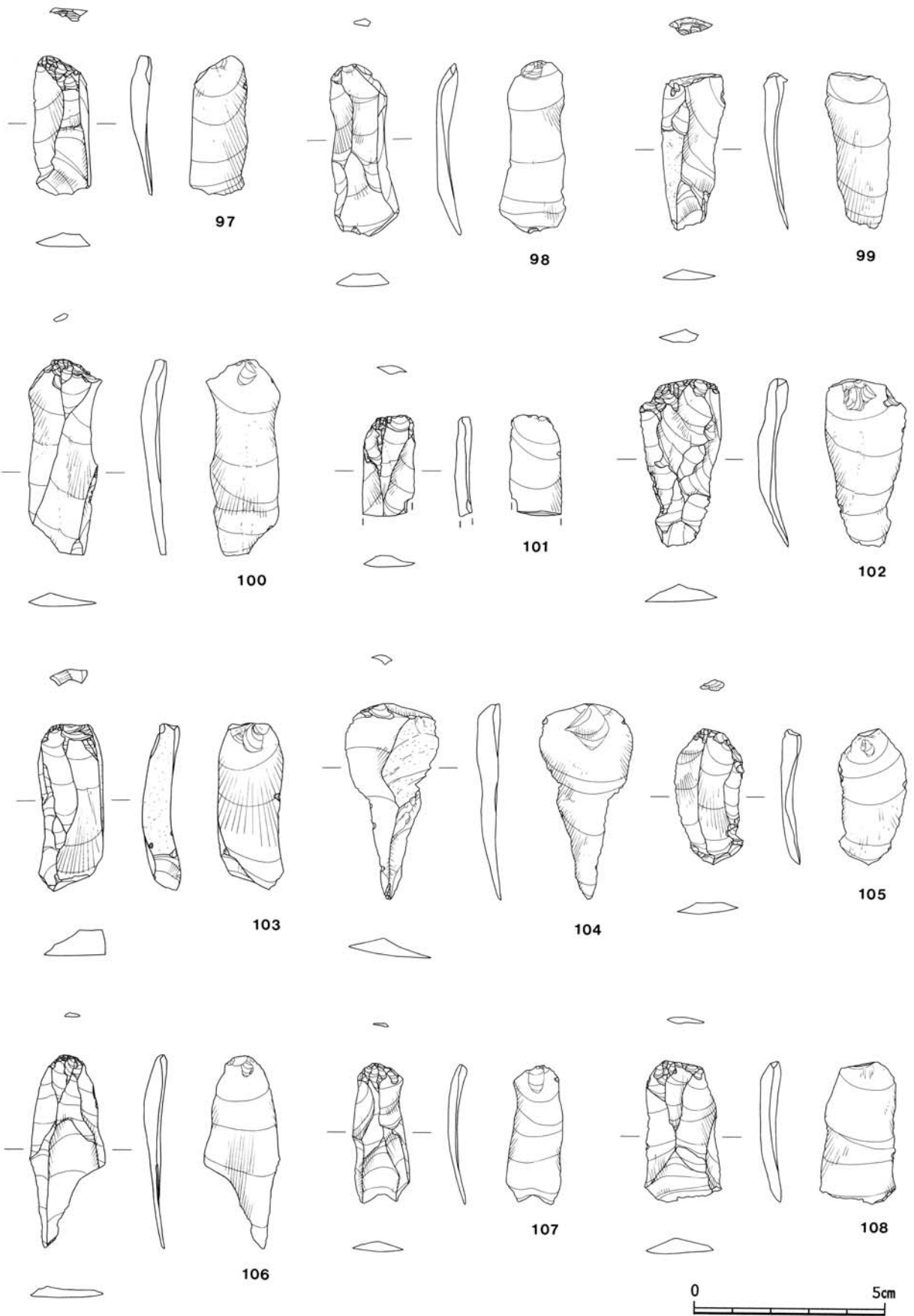
第40图 ⑦区IV層出土石器(5) (S=1/2)



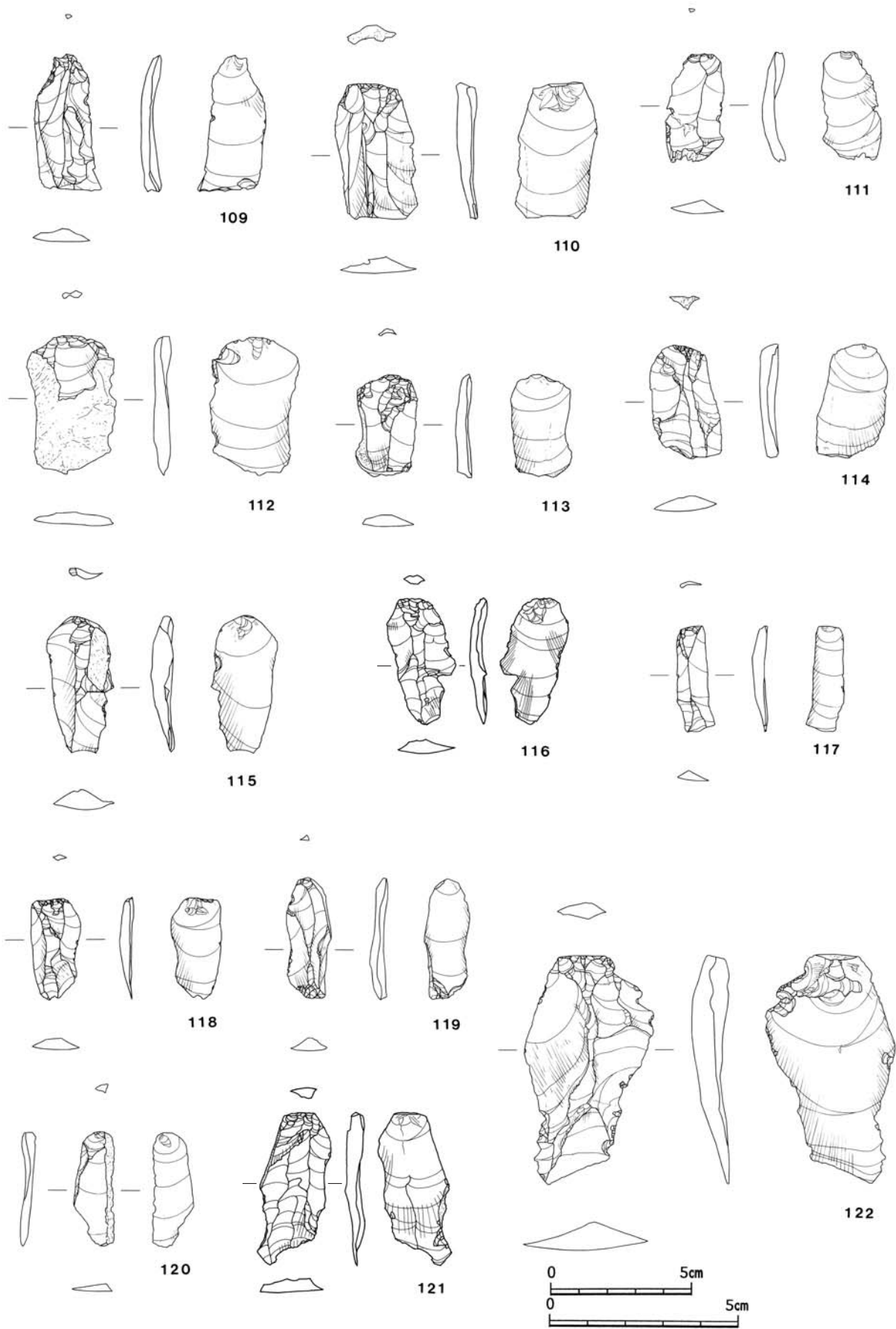
第41图 ⑦区IV層出土石器(6) (S=2/3、81~83はS=1/2)



第42图 ⑦区Ⅳ层出土石器(7) (S=2/3, 85-87はS=1/2)



第43图 ⑦区IV層出土石器(8) (S=2/3)



第44図 ⑦区Ⅳ層出土石器(9) (S=2/3、116・121はS=1/2)